

第73図 遺構外出土石器⑨



第74図 遺構外出土石器⑩

## 2 弥生時代・古墳時代の調査（第75図）

本遺跡では、弥生時代・古墳時代の遺構は検出されなかった。しかし、包含層及び表土から少數の土器が出土したため、小破片も含めて16点の報告を行う。

### （1） 壺（415～422）

415は黒髮I式土器である。内外面に横ナデが施されている。口縁部は厚みがあり、上方に傾き口縁部内面が張り出している。張り出しがやや強いことから、黒髮I式土器の新段階である。口縁部外面には煤が付着している。

416は黒髮II式土器の丹塗土器である。外面は横ナデを施した後に丹が塗られている。内面は丹塗磨研である。内面は外面に比べ、厚く丹が塗られており、丁寧に磨かれている。

417は須久I式土器である。内外面に横ナデが施されている。口縁部の断面は方形に近く、上方へ弱く傾いている。口縁部外面には煤が付着している。

418は入来II式土器である。口縁部が下方へ垂れている。口縁部にミガキが施されている。419は入来II式土器である。外面はハケ目が施されている。内面及び底面にはナデが施されている。底部はわすかに上げ底の中実胴台である。外面に薄く煤が付着しており、内面に薄くコゲが付着している。

420は型式不明である。弥生時代後期から古墳時代前半のものと考えられる。外面はナデが施されている。内面は、底が平坦である。底から胴部に移行する部分に変換点がある。工具によって、平滑に成形されており、丁寧にナデが施されている。高台部は大きく開いている。内面は丁寧にナデが施されている。上下が逆の可能性がある。

421は中津野式土器である。外面はナデ後に縦方向のハケ目が施されている。内面はナデが施されている。脚部内面はナデが施されている。脚部はやや外反しながら聞く小さなもので、端部は外を向き丸くおさまっている。脚部内面の天井部は丸くなっている。脚部が小さいことから、小型の壺と考えられる。

422は型式不明の丹塗土器である。外面は丹が塗られており、横方向のミガキが施されている。断面方形の突帯が施されている。

### （2） 壺（423～426）

423は黒髮II式土器である。外面には口縁部から頭部にかけて、ミガキによる1セット4条の暗文が、等間隔に施されている。暗文の上から縦方向にハケ目が施されており、頭部にハケ目板の端部痕が残っている。最後に全体にナデを施することでハケ目を磨り消している。内面には分割ミガキが施されている。横方向に3cm程度

の幅のミガキを上から下まで施し、下までミガキを施したら、右に同じようにミガキを繰り返し施している。

424・425は型式不明だが、弥生時代後期の土器と考えられる。外面全体に不規則なハケ目が施されており、胴部下半には成形に使用した工具による縦方向の擦過痕が残っている。突帯部は貼り付け突帯である。貼り付けた後に、横ナデが施されているが、突帯下部に継ぎ目が観察できる。突帯は先端がやや丸みを帯びた断面三角形の突帯に刻目が施されている。425は、外面全面に不規則なハケ目が施されている。突帯部は貼り付け突帯である。突帯下部の貼り付け部分には、上から粘土を塗つて突帯と胴部との貼り付け痕を隠している。突帯は先端がやや丸みを帯びた断面三角形の突帯に刻目が施されている。424と425は良く似た胎土である。

426は中津野式土器である。外面には全面に不規則なハケ目が施されている。内面には丁寧なナデが施されている。

### （3） 高杯（427～430）

427は型式不明の丹塗土器である。内外面全体に丹塗りされているが、内面から口縁部外面にかけては厚く、口縁以外の外面は薄い。口縁部の下に断面三角形の二条突帯が施されている。突帯は貼り付けによって作られている。突帯上部は、丁寧なナデによる調整が施されている。突帯下部は、粗いナデが施されており、貼り付けの痕跡が観察できる。突帯の下には縦方向のハケ目による調整が施されているが、その後にケズリによって成形されている。

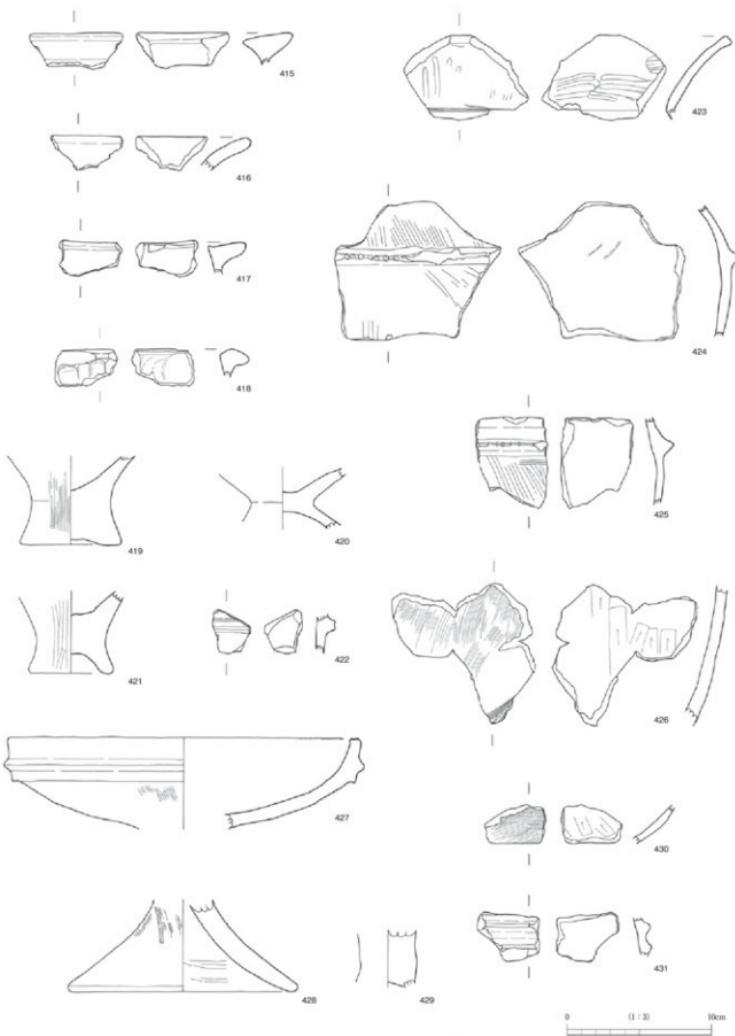
428は型式不明の丹塗土器である。外面は薄い丹塗りの後にハケ目を施し、最後にミガキが施されている。内面は工具による成形を行った後にナデが施されている。427と428は良く似た胎土である。

429は型式不明である。脚中部であると考えられるが、器壁が壊滅しており、坏部と脚部が残存していないため、詳細は不明である。

430は中津野式土器である。外面は全面に不規則なハケ目が施されている。内面は、丁寧にナデが施されている。坏部の形態は、途中で屈折し外反するものである。

### （4） 器種不明（431）

431は黒髮II式土器の丹塗土器である。器種は不明である。外面は丹塗磨研が施されている。内面は、ナデが施されている。



第75図 弥生時代・古墳時代遺物

### 3 古代の調査

#### (1) 調査の概要（第 76 図）

古代の調査は J～L～18～20 区、P・Q～31～34 区の 2 地点で行った。

J～L～18～20 区 J～L～18～20 区は、一部にⅢ層の残存が確認されたが、宅地造成や畠地としての利用の際に、大部分がⅣ層上面まで掘削を受けた状況であった。したがって、遺構は表土直下のⅣ層上面で検出されたが、当時の生活面より下層での検出と判断される。

J～L～18～20 区では、土坑 6 基と掘立柱建物跡 1 棟、柱穴群が検出された。検出状況から、土坑が掘立柱建物跡及び柱穴群に切られることが確認された。

そこで、遺構の検出状況の記録写真を撮影した後、また掘立柱建物跡と柱穴群の調査を行った。掘立柱建物跡を構成する柱穴は軸をそろえて半截し、柱痕跡の確認を行った。それ以外の柱穴は、調査期間の都合で、検出後に直ちに完掘した。

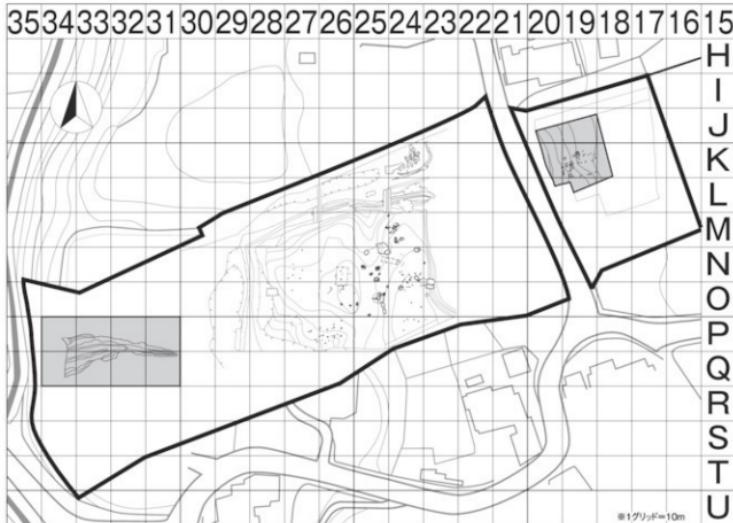
土坑は長軸に沿って半截し、土層堆積状況の観察を行い、必要な記録を作成した後、完掘した。床面の判断は、埋土堆積状況の変化や、炭化物の堆積、硬化面等の把握に依った。

遺物の取り上げは、土器・陶磁器類の小破片について

は、掘り下げ時にグリッドごとに一括で取り上げた。大型の破片については遺構検出後に、遺物出土状況を観察し、遺構に関係の無いと判断されるものについてはグリッドごとに一括で取り上げを行った。遺構に関係すると判断された遺物については、遺構内出土遺物と同様の取扱いをした。

P・Q～31～34 区 P・Q～31～34 区はシラス（Ⅲ層）まで掘削を受けている。さらに、表土は造成により堅く叩きしめられている状況であった。しかし、表土中から、古代から中世にかけての遺物が豊富に出土し、またトレレンチ調査の際に、溝状遺構の可能性が想定される黒褐色土の堆積が確認された。そこで、調査区全面の表土を除去し、遺構の検出を試みた。その結果、東西に延びる溝状遺構（SD38）が検出された。

SD38 の調査は、平面プランの検出と同時に南北方向のトレレンチを 2か所設定し、埋土堆積状況の確認を行った。その結果、上半には近年の造成の影響が及んでいることが確認されたが、埋土の下半に古代から中世の層堆積が良好な状態で残存していることが確認された。そこで、上半については重機を用いて掘り下げを行った。その後、人力により中世に該当する面での平面プランの検出を行い、そこで検出状況の記録写真を撮影した。



第 76 図 古代の調査範囲（アミの範囲）

埋土下半について、人力による分層発掘を行った。SD38の埋土中から出土した遺物は、各層ごとにグリッパー括で取り上げを行ったが、床面付近の遺物については、トータルステーションを用いて出土地点を記録しながら取り上げた。

SD38の遺物出土状況や埋土の堆積状況等から判断して、M・T - 30 ~ 34区において旧地形からの大幅な改変があったことは確実であり、古代の遺構は、調査区西側の全体に抜がっていた可能性が高い。

なお、縄文時代と中世の遺構が検出されたM・P - 23 ~ 28区からは、古代の遺構は検出されなかった。

### (2) 土器類の分類

外周遺跡では、SD38の下層を中心に古代の遺物が豊富に出土した。中でも土師器の壺・甕の出土量が多く、それらとともに土師器の皿や甕、内黒土師器、須恵器などが出土した。そこで、底部外面の切り離し技法へラ切りのものを対象として、土師器の壺・甕・皿を第77・78図のとおり分類した。

内黒土師器は出土量が少なく、さらに大半が小破片であり器種・器形を判断できるものが少ない。よって、器種・器形の判断できるものについては土師器壺及び土師器甕の分類に準じる。

#### ア 土師器壺（第77図）

法量及び器形、調整技法から6類に分類した。器形では底部の形状と体部から口縁部の形態に、調整技法では底部外面から体部下端の調整に特に注目した。

#### イ 土師器甕（第78図）

高台のあるものを甕とした。法量及び器形、調整技法から8類に分類した。特に高台の形状と高さに注目した。

#### ウ 土師器皿（第77図）

出土量は少ない。法量及び器形、調整技法から4類に分類した。

### (3) 遺構

#### ア 土坑（第79図）

土坑は6基検出された。6基は密集して分布していく。全てK - 19区のIV層上面で検出された。また、掘立柱建物跡（SB67）及び柱穴群と分布が重複しており、SK73の一部は掘立柱建物跡の柱穴（SB67 - P1）に切られることから、土坑群が古く、SB67及び柱穴群が新しいと判断できる。

#### SK68（第80図）

検出状況 SK68は、SK77の北に位置し、SK77と一部

を切り合った状況で検出された。平面プランの検出状況と埋土の堆積状況から、SK68がSK77に切られていることが判断された。

**形状・規模** 想定される平面形は歪んだ円形で、規模は残存している箇所で約130cmである。断面形は段掘り状になっていて、底面の中央付近が約10cm深くなる。検出面からの深さは45cmである。

**埋土** 埋土は4層に分層した。埋土にアカホヤやシラスのブロックが含まれる。床面中央の一段深くなった箇所には、黒褐色で炭化物や焼土塊を含んだ埋土4が堆積していた。

**遺物** 遺物は土師器片84点、須恵器片14点が出土した。うち10点を図化した。

**土師器** 432 - 434は壺もしくは甕である。432・433は、体部が開き、口唇部は先細りする。体部外面下半に回転ヘラケズリの痕跡を明瞭に残す。体部内面はナデが施される。胎土は浅黄色を呈する。434は、体部の外縁がきつい。体部の内外面にはナデが施される。胎土は浅黄橙色を呈する。435は甕の底部である。底部の中央を非常に薄く仕上げる。

436は内黒土師器の甕である。内面には非常に丁寧なミガキが施されていて光沢がある。外面には回転ナデの痕跡を残す。

437は甕である。土坑の床面で検出された。胴部は薄く、口縁部は真っ直ぐに開きながら立ち上がる。外面は、底部から下半にはハケ目が施される。上半から口縁部は摩滅しているが、一部に横方向のハケ目を観察できる。内面は、底部付近はナデ、胴部は左上方向のケズリが施されるが、胴部上半はミガキ様のナデによりケズリの痕跡が消される。口縁内面はハケ目が施される。

**須恵器** 438 - 441は須恵器である。438は甕の頭部である。外面は格子目タタキによって成形されている。内面は、頭部付近に横ナデが施されており、胴部には青海波の当具痕が残る。439・441は甕の胴部である。外面には格子目タタキ痕が、内面には青海波の当具痕が観察される。440は甕の頭部である。外面には格子目タタキ痕が、内面には平行の当具痕がみられる。

#### SK70（第81図）

検出状況 SK70は、6基の中で最も南で検出された。

**形状・規模** 平面の形状は稍円形で、規模は長軸111cm、短軸90cmである。断面形は、床面はほぼ平坦で、壁面は開き気味に立ち上がる。検出面からの深さは50cmである。

**埋土** 埋土は3層に分層した。埋土1と3には微細な炭化物が多く含まれる。

**遺物** 遺物は、土師器片26点、須恵器片2点、鉄製品1点が出土した。うち4点を図化した。

环1類		法量 口径 12.5 ~ 14.2cm, 底径 5.0 ~ 7.3cm, 高さ 3.9 ~ 4.3cm 器形 底部は平坦で、底部から体部は斜をもって立ち上がる。体部は直線的で外傾する。 調整 内外面全体に丁寧なナデが施され、器面には凹凸はほとんど残らないが、外面下端に回転ヘラケズリの痕跡を残すものもある。底部外面は切り離し後にナデを施すが、ヘラ切りの痕跡が残る。
		法量 口径 10.4 ~ 14.4cm, 底径 5.2 ~ 7.4cm, 高さ 3.3 ~ 3.9cm 器形 体部はやや丸味を帯び、口縁はわずかに外反する。器壁が厚めで、口唇部は丸味を帯びる。 調整 内外面に横ナデもしくは回転ナデを施し、外面には凹凸が残る。底部外面にもナデが施されるが、切り離しの痕跡が残るものが多い。見込みを押圧することで底部が薄くなるものが多い。
		法量 口径 9.6 ~ 11.2cm, 底径 4.4 ~ 6.4cm, 高さ 3.5 ~ 4.7cm の高いものと、2.4 ~ 3.3cm の低いものがある。 器形 底部がやや厚みを持ち、円盤状を呈するものもある。体部はやや丸味を帯びるが、2類に比べ直線的である。器壁は2類と比較して薄く、口唇部は先細りする。 調整 内外面に横ナデもしくは回転ナデを施し、外面に凹凸がわずかに残る。大部分のものが、底部外面の切り離し後に難なナデが施される。
环4類		法量 口径 10.4 ~ 12.6cm, 底径 5.8 ~ 6.8cm, 高さ 3.8 ~ 5.1cm で、法量にはばつきがある。 器形 円柱状の底部を持つわゆる「充実高台」である。体部はやや内湧気味に立ち上がり、丸味を帯びる。高台下端が垂直のものと、やや聞くものがある。 調整 内外面に回転ナデが施される。底部外面は切り離し後に丁寧なナデが施される。切り離しによって生じた余分な粘土をきれいにナデ消すものと、放置するものがある。
		法量 口径 8.8 ~ 11.2cm, 底径 5.4 ~ 7.0cm, 高さ 3.7 ~ 5.1cm で、口径に対して器高が高い。 器形 外観は充実高台のよう見えるが、底部を薄く仕上げるため円柱状の底部にはならない。体部は直線的で、わずかに内消するものも存在する。 調整 内外面に回転ナデを施す。特に見込みに強いナデが施されるため、見込みは水平な面を持たず、底部が薄くなる。底部外面は切り離し後に難なナデが施される。
		法量 底径 5.4 ~ 7.0cm 器形 全体の器形がわかるものは無い。見込みに押圧と強いナデが施され、水平な面に仕上げられる。 調整 見込みのナデは強く、指頭の痕跡が残る。底部外面は、底部切り離し後にナデが施され、ヘラ切りの痕跡はあまり残らない。外面下端に、粘土が付着するものもある。焼成が良好で、硬質なものが多い。
皿1類		法量 口径 12.9 ~ 14.6cm, 底径 9.0 ~ 11.0cm, 高さ 1.5cm 器形 器高が低く、底部は水平で大きい。底部から体部は斜をもって立ち上がり、口縁部は外反する。 調整 内外面にナデを施す。内の底部から体部へ変化する箇所に強めのナデ施され、深い凹みが作られる。底部外面は切り離し後に丁寧にナデを施す。
		法量 口径 11.0cm, 底径 6.8cm, 高さ 3.3cm, 高台高 1.1cm 器形 ハの字状に聞く高台を持つ。体部は皿2類よりも外傾が弱い。 調整 内外面の全体に丁寧なナデが施される。
		法量 口径 10.9 ~ 11.8cm, 底径 5.3 ~ 6.0cm, 高さ 2.5 ~ 2.8cm 器形 円柱状の高台を持つ。体部は直線的で、器壁が厚く口唇部は丸味を帯びる。 調整 内外面に横ナデが施される。底部外面は切り離し後にナデが施される高台外面下端は、切り離し時に生じた余分な粘土が付着する。
皿2類		法量 口径 10.8cm, 底径 5.6 ~ 5.8cm, 高さ 2.5cm 器形 厚手の底部を持ち、口縁部付近がやや内湧する。皿3類を浅くしたような器形である。 調整 内外面にナデが施される。底部外面の切り離し後には難なナデが施される。

第 77 図 古代土師器 环・皿 分類

塊1類		法量 底径 7.9~10.0cm、高台高 0.7~0.8cm 器形 高台は低く、端部は角張る。底部は水平で、体部はわずかに外傾し、箱形になる。 須恵器の模倣品である。 調整 内外面に回転ナデが施され、外面には凹凸が明瞭に残る。内外面に赤色顔料が塗布される。
塊2類		法量 口径 11.8~14.2cm、底径 6.0~8.4cm、高さ 5.6~6.7cm、高台高 0.4~1.1cm 器形 高台は低く、端部は角張る。底部は水平で、高台内面と高台の境界には棱がつく。 体部は1類よりも外傾する。 調整 内外面に回転ナデが施され、外面には回転ナデによる凹凸が明瞭に残る。
塊3類		法量 口径 12.4~14.0cm、底径 6.5~8.7cm、高さ 4.4~5.3m、高台高 0.8~1.5cm。 器形 高台はハの字状に開き、端部は丸味を帯びる。体部はわずかに内湾する。 調整 脱土中に1~2mm程度の砂粒を含むものが多く、内外面にナデを施されるが、砂粒の移動の痕跡が明瞭に残る。
塊4類		法量 底径 6.2~8.6cm、高台高 1.0~1.8cm 器形 高台内面は水平面となり、棱をもって高台となる。高台はほとんど開かず、高台端部は平坦に作り出される。 調整 内外面にナデが施される。見込みに押圧と強いナデが施されるものがある。脱土に砂粒を含む。
塊5類	A 	底部の厚さが1cm未満のものをA、1cm以上のものをBとする。 法量 口径 13.0~15.2cm、底径 5.5~9.8cm、高さ 6.7~7.6cm、高台高 1.1~2.2cm。 器形 高台が高く、ハの字形に開く。Aの高台端部は平出になるが、Bの高台端部は丸味を帯びる。 体部はわずかに内湾する。口縁部がわずかに外反するものもある。高台内面と高台の境界が不明瞭なものが多いが、A類には高台内面を水平にし、高台との境界に棱を持つものもある。 調整 内外面に横ナデを施す。高台内面から高台外面には丁寧なナデが施される。体部外側の下端から口縁のナデは雜で、高台の接合痕を残すものが多い。体部から口縁部よりも高台付近に丁寧な調整が施される資料が多い。
	B 	法量 底径 6.2~7.6cm、高台高 1.0~1.1cm 器形 高台は低く、端3類よりも開く。体部の立ち上がりは開く。 調整 内外面の体部に回転ナデが施される。見込みにはナデが施されるが雜である。高台貼り付け後に、粘土の接合痕は丁寧にナデ消されるが、底外面の切り離し痕は未調整で痕跡を明瞭に残す。
塊6類		法量 口径 14.6cm、底径 8.0cm、高さ 5.2cm、高台高 1.0cm 器形 高台はハの字状に開き、薄手で端部は先細りする。体部の立ち上がりは開く。 全体的に器形が歪む。 調整 見込みには指頭による成形時の凹凸が明瞭に残る。内外面にナデを施すが雜であり、ケズリによる凹凸が残る。
塊7類		法量 口径 14.6cm、底径 8.0cm、高さ 5.2cm、高台高 1.0cm 器形 高台はハの字状に開き、薄手で端部は先細りする。体部の立ち上がりは開く。 全体的に器形が歪む。 調整 見込みには指頭による成形時の凹凸が明瞭に残る。内外面にナデを施すが雜であり、ケズリによる凹凸が残る。
塊8類		法量 不明 器形 全体の器形は不明である。 調整 高台を貼り付けた後に、高台内面と高台の境界に、何らかの工具で刺突を行う。

第78図 古代土師器 塊 分類

鉄製品 442は鉄製の刀子である。埋土2から4片に分かれた状態で出土した。長さ13.6cm、厚さ3.7mmである。断面形は、刃部は二等辺三角形形状で、基部は長方形形状になる。基部の一部には木片が付着している。

土師器 443は甕である。検出時に一部が露出していたが、出土状況の観察から、埋土2に覆われていたと想定される。脱土にはにぶい黄褐色を呈する。胴部がやや張り出し丸みを持ち、口縁部は開く。器壁は薄く上げられる。胴部外面の下半にタタキの痕跡を明瞭に残す。胴部上半から口縁部内面にかけては、横方向のハケ目後に、

丁寧なナデが施される。胴部内面は、左上方向のケズリが施された後に、ミガキ様のナデが施される。

須恵器 444は壺の胴部である。内外面にナデが施される。445は甕の胴部である。外面には格子目タタキ痕があり、内面には青海波の当具痕が残る。

#### SK72（第82・83図）

検出状況 SK72はSK73の南側で検出された。

形状・規模 平面形は梢円形で、規模は長軸126cm、短軸95cm。検出面からの深さは61cmである。



第79図 古代の遺構配置図 (J ~ L - 18 ~ 20区)

**埋土** 埋土は7層に分層した。土坑下部に堆積している

埋土6・7には炭化物・炭化材・焼土塊が含まれる。土師器壺(455)は、埋土4まで埋め戻された後に、埋土3が堆積している部分が掘り込まれ、正位置で掘えられたと考えられる。なお、455内の埋土は、黒褐色土で炭化物と焼土塊を含んでいた。

**遺物** 遺物は、土師器76点、須恵器6点、陶磁器類3点、青銅製品4点が出土した。土師器9点、須恵器1点を園化し、青銅製品の写真を掲載した。また、一部に植物による擾乱が入るため、中世の遺物が混入していた。

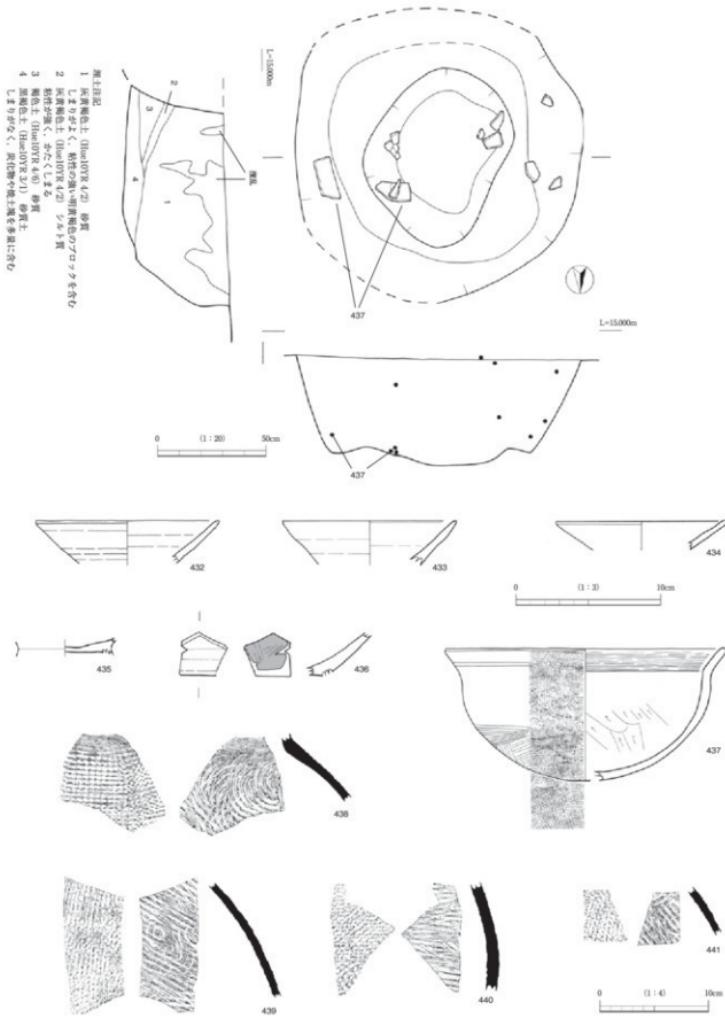
**土師器** 446～451は土師器である。446は墨書き土器である。器種は不明である。447は壺である。体部は真っ直ぐに立ち上がり、口縁はやや外反する。448は壺で、体部の内外面に焼が付着している。450は壺の底部である。高台は低く、ややひらく。底部は薄く仕上げられる。体部は箱形になると思われる。壺1類に該当する。451は壺の底部である。底部は薄く、体部は外傾する。底部外面には、ヘラによる切り離し後にナデを施す。壺2類

に該当する。

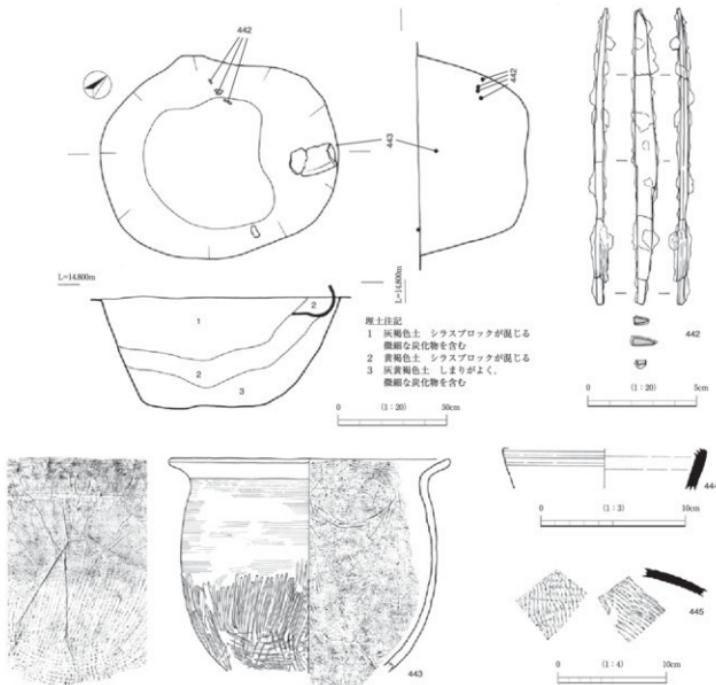
455は完形品の土師器の壺である。土坑内に正位置で掘えられていた。体部は長胴で、体部上半がわずかに張り出す。口縁は短く、開く。外面の底部から胴部下半にはタキ痕を明瞭に残し、上半から口縁にかけては横方向のハケ目調整の後に、丁寧なナデが施される。内部は、底部から口縁まで左上方方向のケズリが施され、さらに上半にはミガキ様のナデが施される。口縁は横方向のハケ目調整が施され、一部にはナデも施される。

**須恵器** 454は二重口縁壺の口縁部である。器面全体に丁寧なナデが施されている。胎土は良質で、焼成も特に良好である。

**青銅製品** 456～458は青銅製の製品である。劣化しているため、復元することはできなかった。製品には全て銀の付着が確認された。456は長さ約8mm程度で、「へ」の字状に湾曲する。458はもともと一つであったが、劣化により破損した。458aは長さ約2.3cmで、458bは長さ約12cmで、「コ」の字状に曲がる。



第 80 図 SK68・出土遺物



第 81 図 SK70・出土遺物

#### SK73 (第 84 図)

**検出状況** SK73 は SK72 の北側、SK74 の東側で検出された。南側の一部を SB67 - P1 に切られる。

**形状・規模** 平面形は梢円形で、長軸 119cm、短軸 90cm である。断面形は、床面はほぼ平坦で、壁面は開き気味に立ち上がる。検出面からの深さは 33cm である。

**埋土** 埋土は、5 層に分層した。明褐色土を基本として、床面付近の埋土 4 は微細な炭化物を含む。

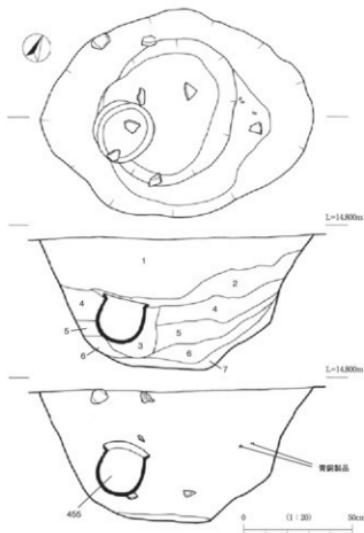
**遺物** 遺物は土師器片 44 点、須恵器 6 点が出土した。古代の土坑での SK73 のみが大型の土師器の壺を伴わない。12 点を図化した。

**内黒土師器** 459-460 は内黒土師器の壺である。459 は、高台は外れているが、ほぼ完形品である。高台の外れた箇所は、特に摩滅が著しい。体部は直線的でやや外傾す

る。内面にはミガキが施されるが、胴部は縱方向で、口縁部付近は横方向である。内面は摩滅しているが、光沢を残す部分もある。床面外面は、ヘラ切り後にナデが施されるが、雑である。器形は土師器壺 2 類に相当する。460 は、器壁がやや厚い。内面には丁寧なミガキが施され、光沢がある。

**土師器** 461 は、壺である。破片のため詳細は不明だが、内面は灰色を呈し、ミガキが施される。

462-463 は壺である。同一個体の可能性も想定されるが、個別に図化した。胎土はにぶい橙色を呈する。内面には回転台の利用による砂粒の移動の痕跡が残るが、ナデは丁寧である。胴部の一部に横方向のケズりが施され、段がつけられる。464 は壺である。体部は直線的で、口縁部は外反する。内外面にナデの痕跡を明瞭に残す。



埋土注記

- 1 オリーブ褐色土 (Hue25YR 4/3)  
やや粘質があり、暗灰黄色と黄褐色のブロックが混じる。炭化物を含む
- 2 黏性的強い暗褐色土 (Hue10YR 3/3) と  
黄褐色土 (Hue10YR 5/6) がブロック状に混じる
- 3 黒褐色土 (Hue10YR 2/2)  
1~3cm程度の炭化物のブロックを多く含む
- 4 にふく黄褐色土 (Hue10YR 4/3)
- 5 黄褐色土 (Hue10YR 3/4)
- 6 褐色土 (Hue10YR 3/4)  
1~5cm程度の炭化材や、1~15cm程度の燒土塊を多く含む
- 7 底白土 (Hue10YR 3/4)  
粘性的強いブロックが混じる。炭化物や焼土を含む

第 82 図 SK72

465は、土器部で器種不明である。胴部の外傾がきついことから、壺の可能性がある。

466は壺の底部である。底部切り離し後に難なナデが施される。胴部外面下端に回転ヘラケズリの痕跡を残し、そのため胴部下端から体部への変化点に段がつく。内面にはナデが丁寧に施される。底部は薄い。

467・468は壺である。467は破片資料だが、上辺の一部に焼成後の穿孔がみられる。

**須恵器** 469・470は壺の胴部である。外面は格子目タキである。内面は、平行の当具痕の上から丁寧にナデが施されている。

SK74 (第 85 図)

**検出状況** SK74はSK73の南側で検出された。土坑の南側を中世の柱穴に切られる。

**形状・規模** 平面形は、南側が突き出た歪んだ楕円形で、規模は長軸 115cm、短軸 88cm である。断面形は、床面はほぼ平坦で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。検出面からの深さは 35cm である。

**埋土** 埋土は 5 層に分層した。埋土のベースは灰黄褐色土で、床面付近の埋土 5 は微細な炭化物を含む。

**遺物** 遺物は、土器器 31 点、須恵器片 11 点が出土した。11 点を図化した。

**内黒土師器** 471 は内黒土師器の破片で、器種不明である。内面には丁寧にミガキが施され、光沢がある。

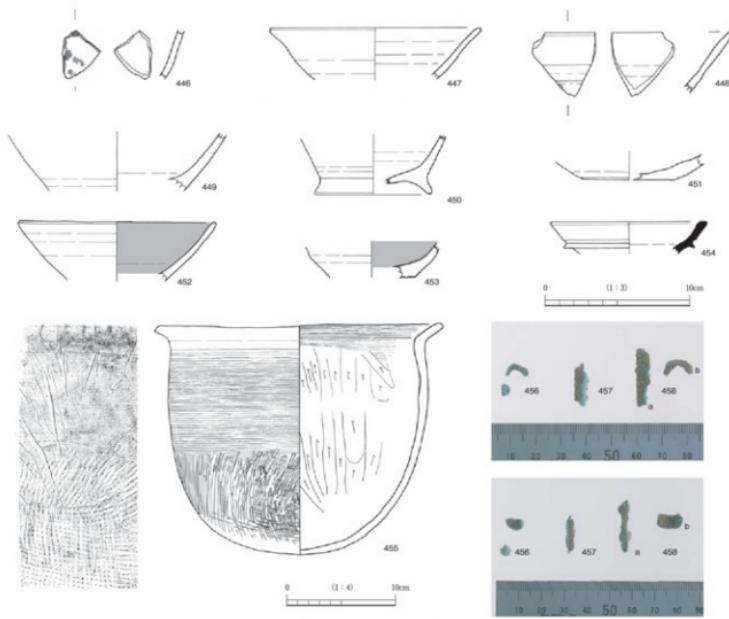
**土師器** 472 は土器器施 4 類である。搅乱付近から出土したため、混入の可能性がある。外面には、高台を貼り付けた後に丁寧なナデが施され、高台内面の中央は、粘土が盛り上がる。

474 は壺である。土坑の床面付近から、外面を上に向かた状態で検出された。胴部は丸みを帯びて、やや張り出す。口縁部はやや開き、短い。胎土は明黄褐色を呈する。胴部外面下半には格子目状のタキ痕を明瞭に残す。外面胴部上半には、ハケ目は施されず、横方向を基本としたナデが施される。ナデは丁寧ではなく、粘土の接合痕を残す箇所もある。胴部内面は、左上方向のケズリが施され、口縁部から胴部上半の一部には丁寧な横方向のナデが施される。

**須恵器** 475・476 は壺の口縁部である。475 は、外面には平行タキ痕が、内面は青海波の当具痕が観察される。内面は、叩きの後に丁寧にナデが施されている。外面から内面口縁部にかけて、自然釉が付着している。476 は、外面には平行タキの痕跡が残る。内面にはやや小さい青海波の当具痕がみられる。胴部内面は、ケズリの後にナデが施されている。外面から口縁部内面にかけて、自然釉が付着している。

477 は壺の頸部である。外外面にナデが施されており、全面に自然釉が施されている。

478・480 は須恵器壺の胴部上半である。外面は平行タキである。内面は青海波の当具痕である。外面全体に薄い自然釉が付着している。479 は壺の胴部である。外面は平行タキである。内面は青海波と平行の当具痕の上から、全体にナデが施される。非常に丁寧に作られている。481 は須恵器壺の胴部である。外面は平行タキである。内面は青海波と平行の当具痕の上から、全体にナデが施されている。非常に丁寧に作られている。



第 83 図 SK72 出土遺物

#### SK77 (第 86 図)

**検出状況** SK77 は、SK68 と南北に並んで位置する。SK77 が SK68 を切っている。

**形状・規模** 平面形は楕円形で、規模は長軸 120cm、短軸 103cm である。断面の形状は、床面はほぼ平坦で、壁面は、開き気味に立ち上がり、やや外傾する。検出面からの深さは 40cm である。

**埋土・土師器甕出土状況** 調査時には分層していないが、土師器甕の 482 と 483 の出土状況及び接合状況から判断して、少なくとも 2 層に分層可能であったと考えられる。土師器甕の 482 と 483 は土坑の西側に偏って検出され、482 の下部から 483 は出土した。エレベーションでは、ともに南から北方向に傾斜している。また、482 は、土坑の北西に大型の破片がまとめて出土したが、焼土と炭化物を多く含んだ土が付着していた。

**遺物** 遺物は、土師器片 73 点、須恵器片 3 点が出土した。14 点を国化した。

**土師器** 482 は甕である。埋土から破片の状態で出土し

たが、接合の結果ほぼ完形品となった。胴部、胴部はやや張り出す。口縁部は短く、やや開く。器壁は厚い。底部から胴部外面下半にかけては不定方向のハケ目が施され、胴部外面上半から口縁付近にかけては、縱方向のハケ目が施される。口縁付近はハケ目の上から横方向に雑なナデが施される。胴部内面は、左上方向のケズリが施されるが、角度が一定しない。口縁部内面には横方向のハケ目の後に、ナデが施される。

483 は甕である。胴部がやや張り出し、口縁部は開く。482 と比較して器壁は薄い。胴部外面下半には不定方向のハケ目が施され、胴部上半には横方向のハケ目が施される。口縁部にはハケ目は施されず、丁寧なナデが施される。胴部内面には、左上方向のケズリが施され、口縁部には横方向のハケ目の後に、ナデが施される。ナデは胴部上半の一部まで及ぶ。

484 は甕である。口縁部は開き、長い。胴部外面には横方向のハケ目が、口縁部にはナデが施される。口縁部内面にはハケ目が施される。胎土は黄褐色である。

487～489は土師器の壺2類である。体部は立ち、口縁部はわずかに外反する。

487には墨書きがみられるが、文字の判読には至らなかった。また、487は、SK77とSK70の埋土から出土したもののが接合したものであるが、墨書きのある破片のみSK70から出土した。胎土は浅黄色で、粒子がやや粗い。胴部外面には回転ナデによる凹凸が残る。胴部内面にも回転ナデが施されるが、見込みの調整は雑である。

490・491は土師器の壺2類である。底部からの立ち上がりは外傾し、胴部は直線的である。490は、口縁部付近がやや内湾し、薄く仕上げられる。

492は土師器で、器種不明である。外面に焼成後に施された線刻がみられる。494は、土師器の壺2類である。高台を貼り付けた後にナデが施されるが、高台の接合痕が明瞭に残っている。

495は内黒土師器の壺である。内面は丁寧なミガキが施され、光沢がある。

須恵器 495は高台のある壺である。

#### イ 捏立柱建物跡

##### SB67（第87図）

検出状況 SB67はK-18・19区で検出された。土坑と分布域が重複するが、柱穴P1がSK73を切っていることから、土坑よりも新しいものと判断される。

規格・規模 主軸はN10°Wで、規格は2間×3間である。柱間は、桁行が一間201～228cm、梁行が一間178～190cmである。P1及びP7には柱の立て替えの痕跡が確認された。SP71は、調査時には、SB67とは独立した土坑としていたが、SP71の形状・規模及びSB67の柱穴の並びから、SB67を構成する柱穴と判断した。

遺物 遺物は、SP71から土師器2点。須恵器1点が出土し、他のSB67の柱穴からは、土師器66点、須恵器14点が出土した。

SP71(P9) 出土遺物 (497～499) 497はSP71の埋土1から、一部が検出時に露出する状態で出土した。内面は、見込みが押圧されていることから水平ではなく、体部との境界が不明瞭である。底部外面は水平で、体部との境界はやや丸みを帯びるが明瞭である。体部は直線的で、外観は箱形となる。調整は、内部の体部から口縁部には横ナデが施され、底部外面には切り離し時にナデが施されるが、外面下端には切り離し時に生じた粘土が付着している。外面には回転ナデによる凹凸が認められる。土師器壺1類である。

499は須恵器の壺の肩部である。外面は格子目タタキである。内面は青海波の当具痕である。

P1出土遺物 (500) 500はP1から出土した。土師器の壺の底部である。壺1類もしくは2類である。

P7出土遺物 (501～503) 501～503はP7から出

した。501は土師器の壺の底部である。高台は外れている。502は内黒土師器である。内面には丁寧なミガキが施されている。503は土師器の壺である。胎土はにぶい黄褐色を呈する。胴部外面には縱方向のハケ目が施される。ハケの目が細かく、櫛状の工具が想定される。口縁部は丁寧にナデされる。胴部内面にはケズリが施され、口縁部内面はハケ目の上から、ナデが施される。

P8出土遺物 (504～508) 504～508はP8から出土した須恵器である。504は壺の口縁部である。外表面に横ナデが施される。内面には斑点状の自然釉が付着している。505は壺の頸部である。外面は格子目タタキである。内面は、ケズリの後にナデが施されている。肩部は青海波の当具痕である。外表面全体に自然釉が付着している。

506は壺の胴部下半である。外面は平行タタキで、内面は平行の当具痕である。内面にはナデが施されている。507は壺の胴部上半である。外面は格子目タタキである。内面は青海波の当具痕である。508は壺の胴部下半である。外面は平行タタキで、内面は平行の当具痕である。

#### ウ 柱穴（第88図）

柱穴はK-19区を中心に、16基が検出された。そのうち、当該期の遺物が良好な状態で出土した3基を報告する。

##### SP106

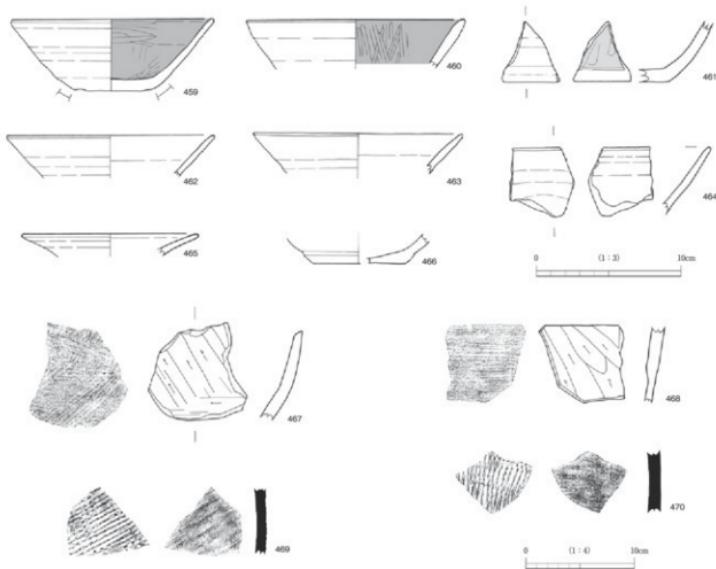
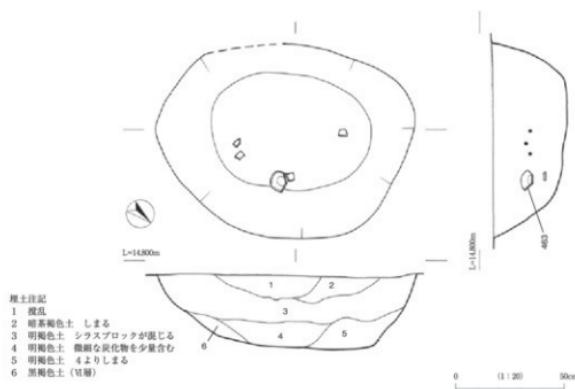
検出状況・規模 SP106はK-18区のIV層上面で検出された。平面形は円形で、規格は23×21cm、検出面からの深さは50cmである。埋土は灰褐色砂質土である。

遺物 (509) 検出面直下で509が伏せられた状態で出土した。509は土師器壺2類である。高台は低く、ほぼ垂直である。高台端部は丁寧に成形され、断面は台形になる。体部は直線的で、体部外面下半には回転ヘラケズリの痕跡を残す。内面は、見込みには指頭による不定方向のナデ。体部には回転ナデが施される。

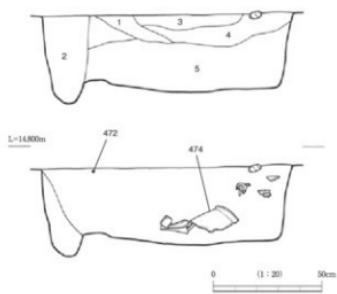
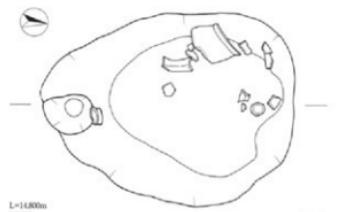
##### SP107

検出状況・規模 SP107はK-19区のIV層上面で検出された。平面形は円形で、規格は60×59cm、検出面からの深さは18cmである。他の柱穴と比較して大型で浅い。土坑の可能性がある。埋土は不明である。

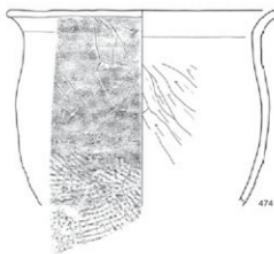
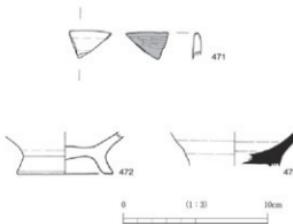
遺物 (510～512) 511・512は土師器の壺である。色調及び胎土が同一であり、同一個体の可能性がある。体部外面の高台から胴部下半は赤色系の色調をしていて、体部上半から口縁部、さらに内面は黒色系の色調を呈する。また、512は高台を貼り付ける箇所に刻みが入れられている。



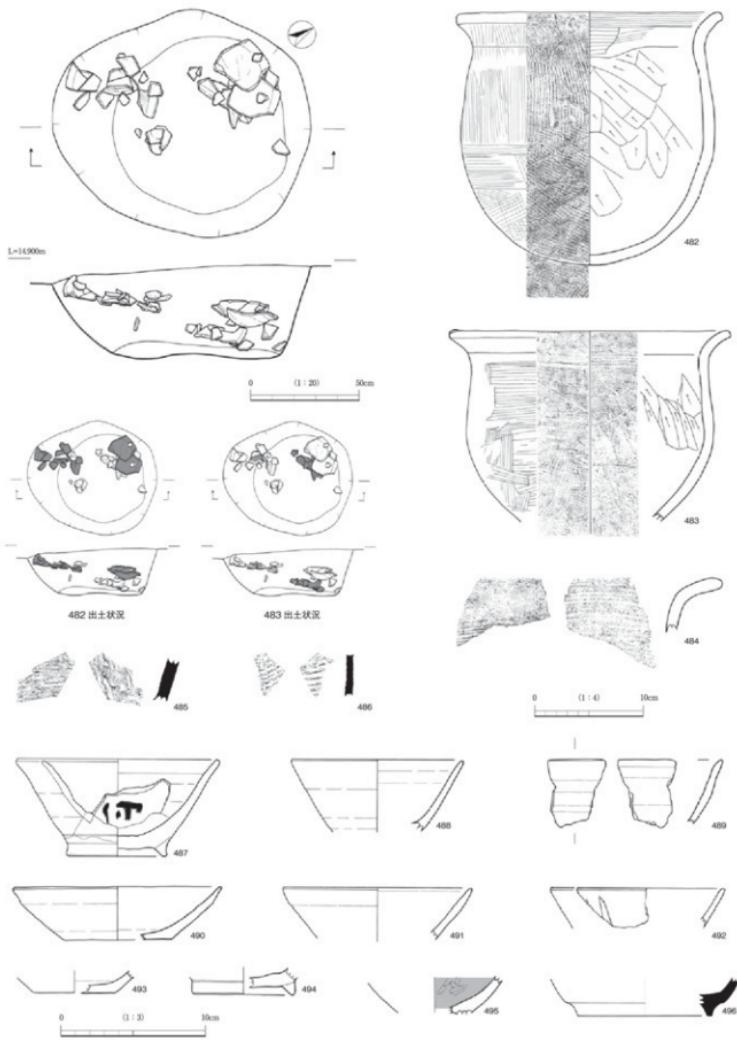
第 84 図 SK73・出土遺物



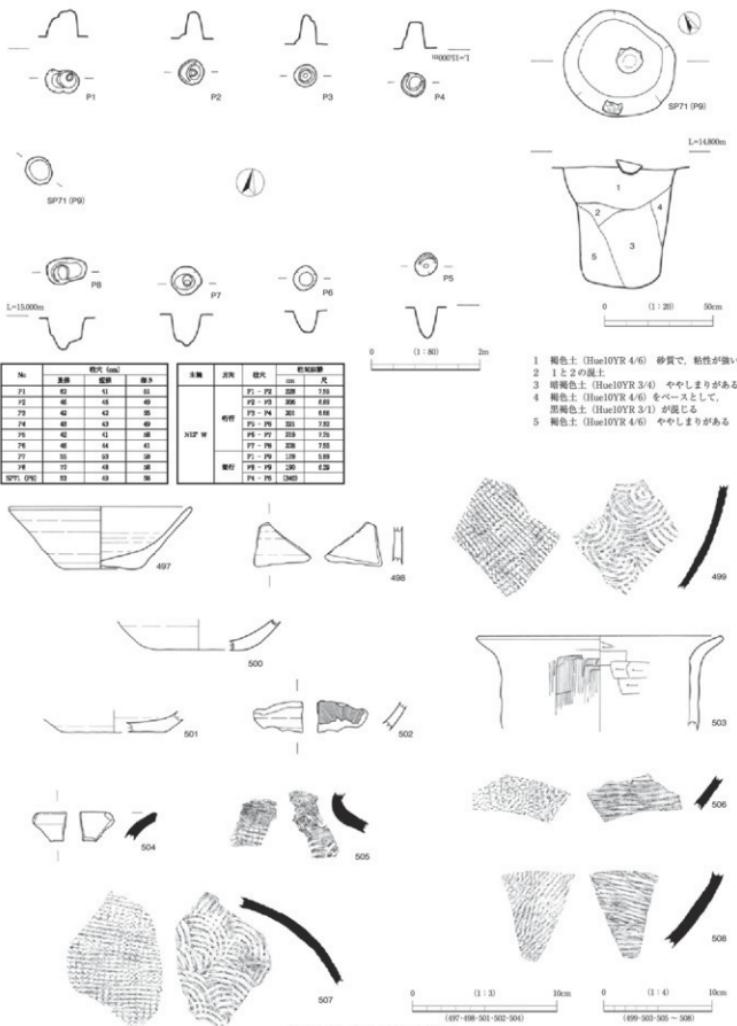
埋土注記  
 1 混乱  
 2 暗灰黄色土 (Hue25Y 5/2) SK74 よりも新しい柱穴の埋土  
 3 浅黄色土 (Hue25Y 8/4) シラスのブロックをベースとする  
 4 灰黄褐色土 (Hue10YR 5/2)  
 5 灰黄色土 (Hue10YR 5/2) 微細な炭化物を含む



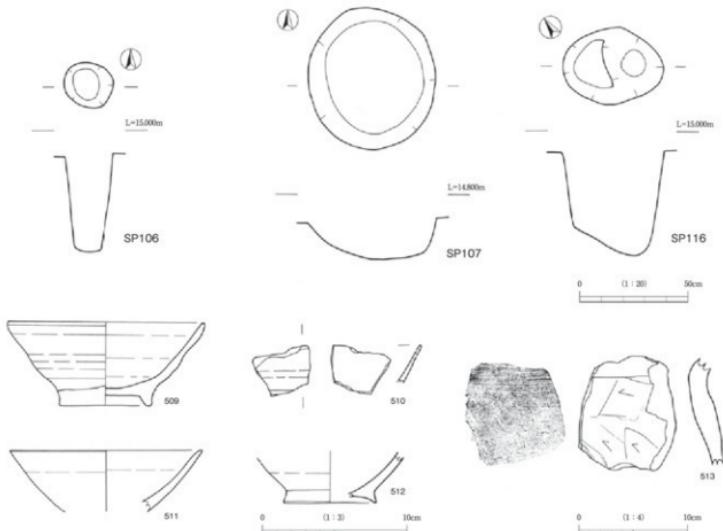
第 85 図 SK74・出土遺物



第 86 図 SK77・出土遺物



第 87 図 SB67・出土遺物



第88図 SP106, SP107, SP117・出土遺物

#### SP116

**検出状況・規模** SP116はK-18区のIV層上面で検出された。平面形は精円形で、規模は48×36cm。検出面からの深さ49cmである。埋土の詳細は不明である。  
**遺物**(513) 513は土師器の裏である。器壁が厚く、側部外面の下半はナデられ、上半は横方向のハケ目が施される。内面は左上方向のケズりが施される。

#### 工 溝状遺構

SD38

##### (ア) 遺構の形状及び埋土の状況

**検出状況** SD38はP・Q-31-34区で検出された。上述のように、調査区の西側はシラス（礫層）まで削平を受けている状況であり、遺構の上部は消失している。また、埋土の上半（第90図 土層B-B'の埋土①～⑦）には、近年の造成の影響が及んでいた。

**形状・規模** 現状での平面形は、ほぼ真東から真西に長軸を持ち、南に向かって緩やかな弧を描き、東から西に向かって「V」の字状に広がる。床面は東から西に向かって傾斜し、東西の高低差が約2mある。短軸（南北方向）での断面の形状は、床面は平坦で箱形となる。現状での

規模は、東西32.3m、南北0.6～10.8m、検出面からの深さ約30～250cmである。

**埋土** 埋土の上半はⅡ層と類似する砂質の黒褐色土が堆積していた。埋土の下半については、以下のように3層に分層して発掘を行った。なお、埋土の番号は第90図の土層B-B'の埋土注記と対応する。

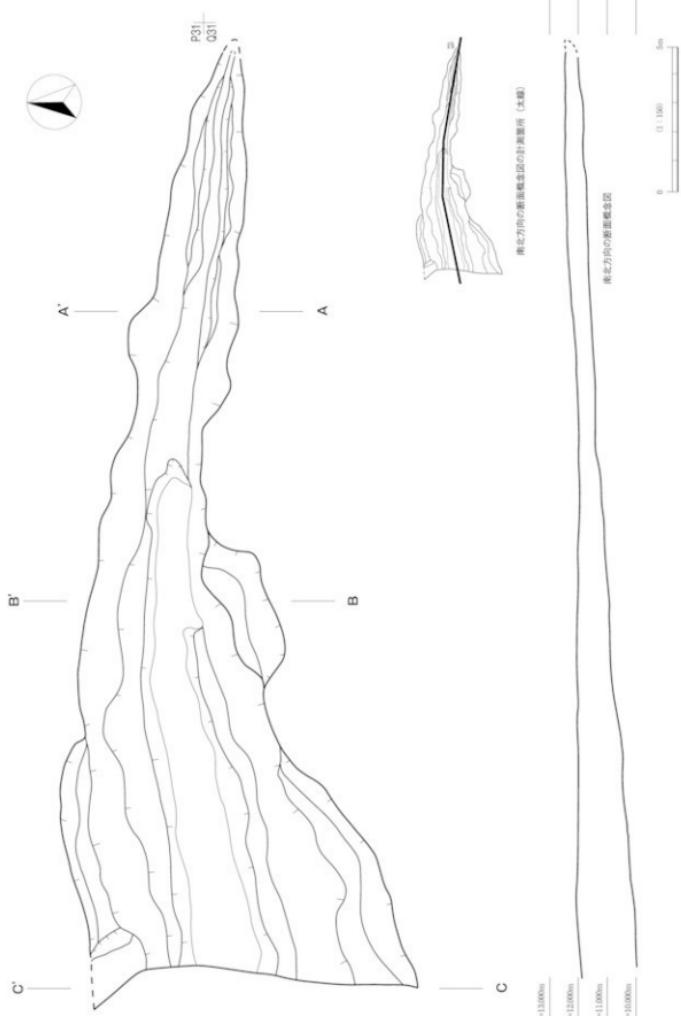
上層：埋土⑧～⑩

中層：埋土⑪～⑫

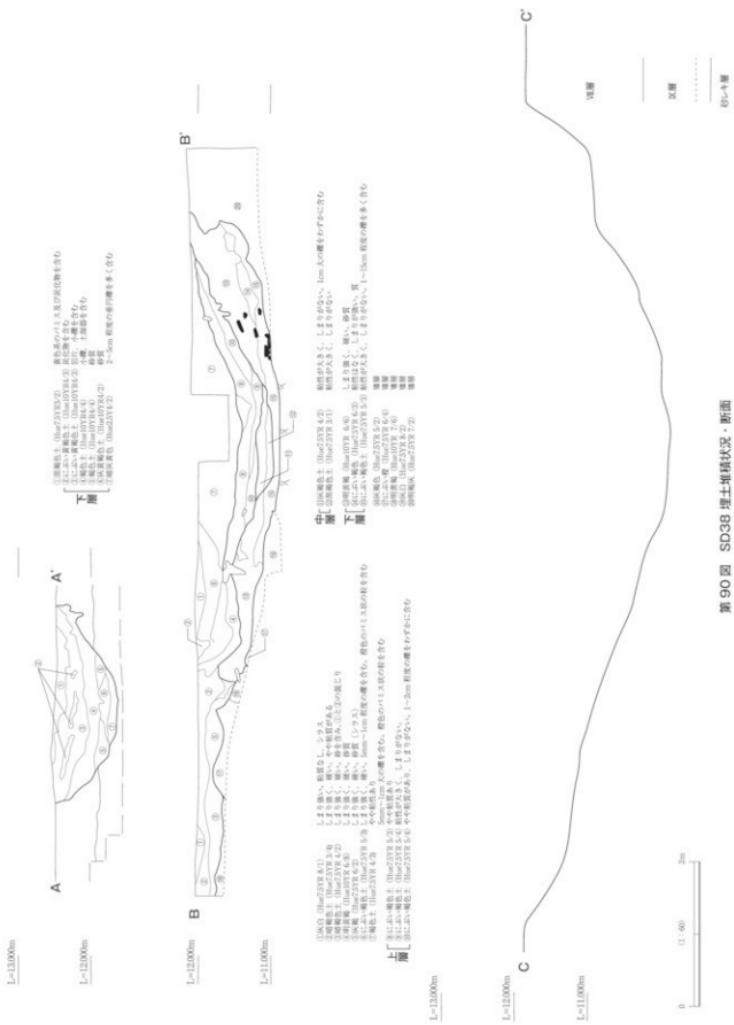
下層：埋土⑬～⑯

**遺物出土状況** 上層及び中層には、貿易陶磁器類や糸切り底の土師器など中世に該当する遺物が含まれる。下層の出土遺物は、土師器は、底部の切り離しがヘラ切りによる壊・塊が大半を占めた。

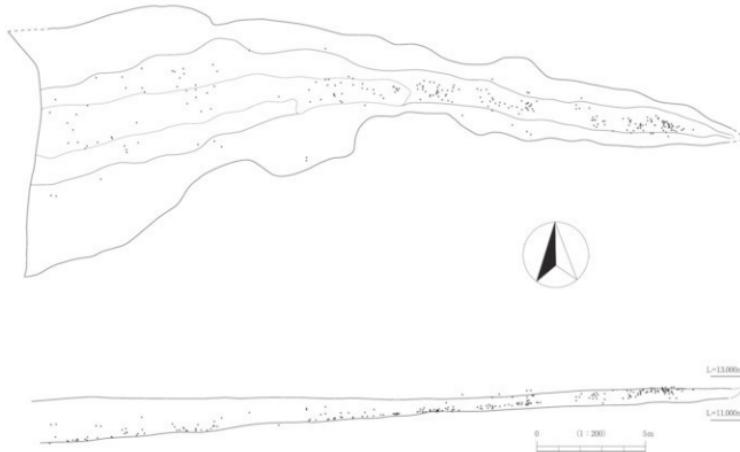
また、上層上面からは、縄文時代の石器を含んだ礫が大量に検出された。SD38の埋没過程で、投棄されたものであると想定される。



第 89 図 SD38



第90圖 SD3B 埋土堆積狀況・断面



第 91 図 SD38 下層遺物出土状況

#### (イ) 下層出土遺物

下層からは、土師器 1,143 点、須恵器 18 点。陶磁器類 1 点が出土した。土師器が 98% を占める。土師器の器種は、壺と塊が大半を占め、皿や甕などは少ない。

残存状況が良好なもの 172 点を図化した。法量については観察表を参照されたい。

#### 土師器壺 (第 92 ~ 93 図)

**土師器壺 1 類 (514 ~ 518)** 514 は、底部外面には切り離し後にナデが施されるが、ヘラ切りによる湯巻き状の痕跡を明瞭に残す。515-516 は、胎土が橙色を呈する。515 は、底部外面の切り離し痕がナデによって消される。516 は、体部の立ち上がりの外側がきつい。見込みを押圧することにより底部を薄くする。515 は、底部から体部は棲をもって立ち上がる。底径に対して見込みが小さい。

**土師器壺 2 類 (519 ~ 522)** 519 は、見込みが押圧され、底部が薄くなる。520 は、胴部外面の上半は、丁寧にナデが施されるが、下半には回転ヘラケズリの痕跡を明瞭に残す。底部外面はヘラ切り後にナデを施す。

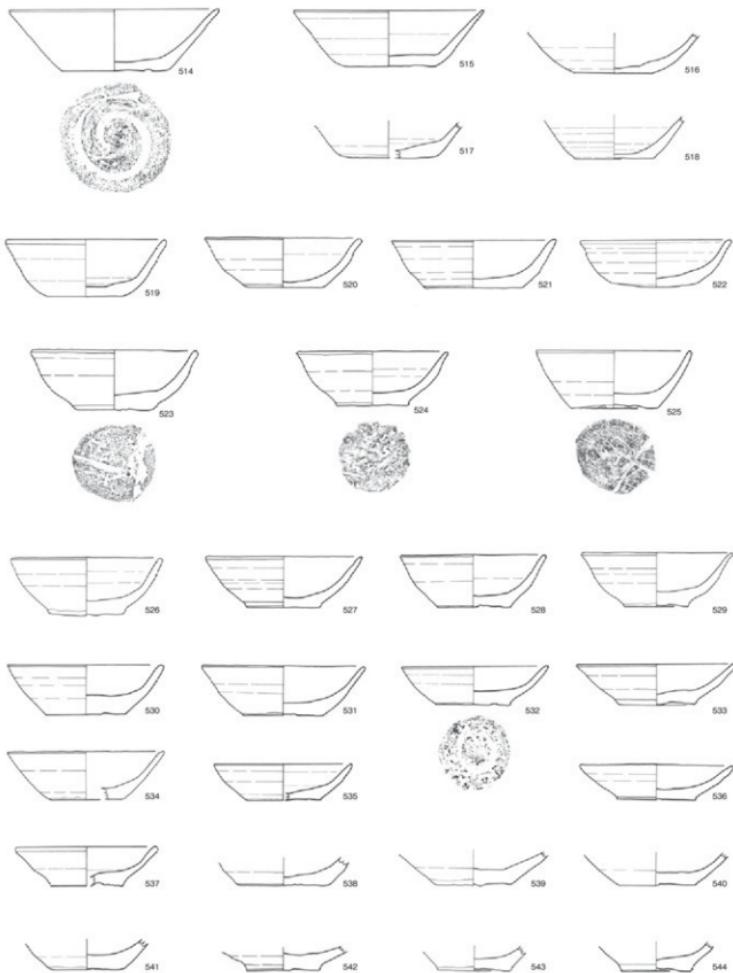
521 は口徑 11.4cm、底径 6.7cm で、口徑に対し底径が大きく、見込みを押圧しないため他の 2 類と比較して底部が厚い。外面に回転ナデによる凹凸が明瞭に残す。

522 は、器壁がやや厚手で、口縁部がわずかに外反する。外面下端にはケズリの痕跡が残る。

**土師器壺 3 類 (523 ~ 544)** 523 ~ 531・534 は土師器壺 3 類で、器高が高いものである。523・525 は外面の口縁部の下に強いナデが施されることによって凹みが作られる。523 の底部外面には、切り離し後に体部を起こす際に用いたと想定される棒状の工具痕を確認できる。524 は、底部が厚く、円盤状になる。525 は、他の 3 類と比較して体部が直線的である。器形が重み、底部を外面から押圧することでやや上げ底状になる。

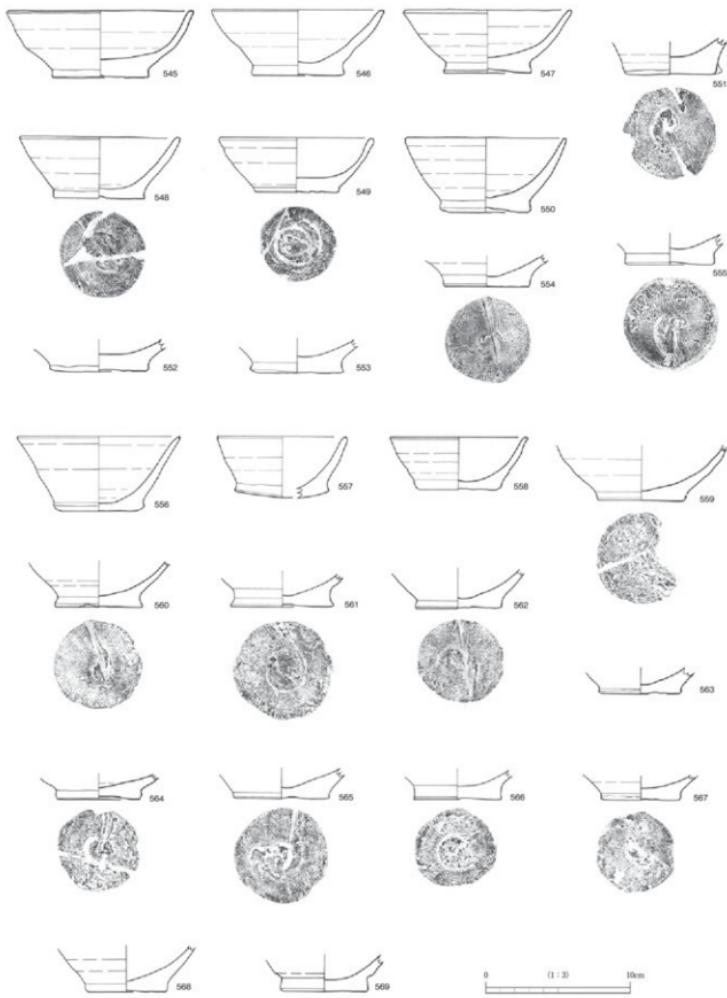
526 は、底部が厚く円盤状になる。527 は、外面に丁寧な横ナデが施される。外観は円盤状の底部に見えるが、見込みに強いナデが施されていて、底部は薄くなる。外面の下半には回転ヘラケズリによる凹凸が残る。

528 は、体部が直線的で、立ち上がりは外傾する。529 は他の 3 類と比較すると、口径に対する底径の割合が小さい。体部はやや丸みを帯び、口縁部は外反する。530 は、体部の立ち上がりは立ち気味で、体部はわずかに内湾する。外面にナデを施すが、見込みの中央付近は未調整で、粘土が盛り上がる。531 は、体部の立ち上がりは立ち気味で、体部上半はやや外傾する。内面には反時計回りの回転ナデが施される。534 は直線的な体部である。

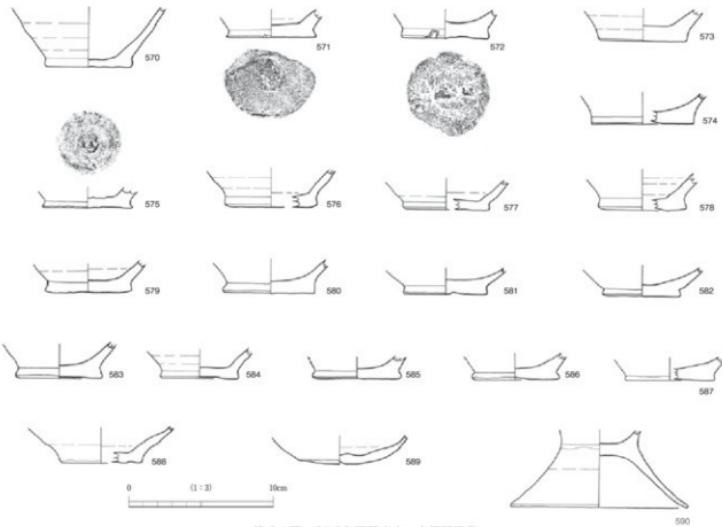


第92図 SD38下層出土 土器器環①

0 (1:3) 10cm



第 93 図 SD38 下層出土 土器器環②



第94図 SD38下層出土 土師器坏③

532・533、535～537は土師器坏3類で器高が低いものである。532は、器壁が厚めで、口唇部は丸みを帯びる。533は、体部の外傾がきつい。内面は、見込みを一度押圧し、そこから一連の流れで左回りにナデが施される。535は体部が丸みを帯びる。

536は、見込みに2か所押圧された痕跡がみられる。底部外面には切り離し後に丁寧なナデが施され、体部を起こす際の工具痕が確認される。537は、見込み中央付近が凹む。器壁が厚く、口唇部は丸みを帯びる。体部はやや立ち気味で、口縁部はわずかに外反する。

538～544は土師器坏3類の底部である。538は底径6.4cmで大型である。外面下端にケズリの痕跡を残す。539は、外面下端に強いナデが施され凹む。540は、胎土が黄褐色を呈し、硬質である。内外面に丁寧なナデが施され、底部外面の切り離し痕が残らない。541は、外面の下端に底部切り離しによる粘土の付着が確認される。542は、見込みの外縁に同心円状に強いナデが施され、体部との境界が凹む。544は見込みと底部外面に押圧の痕跡がある。

**土師器坏4類(545～555)** 545は、胎土が灰白色を呈し、粒子が非常に小さい。体部は丸みを帯び、口縁部

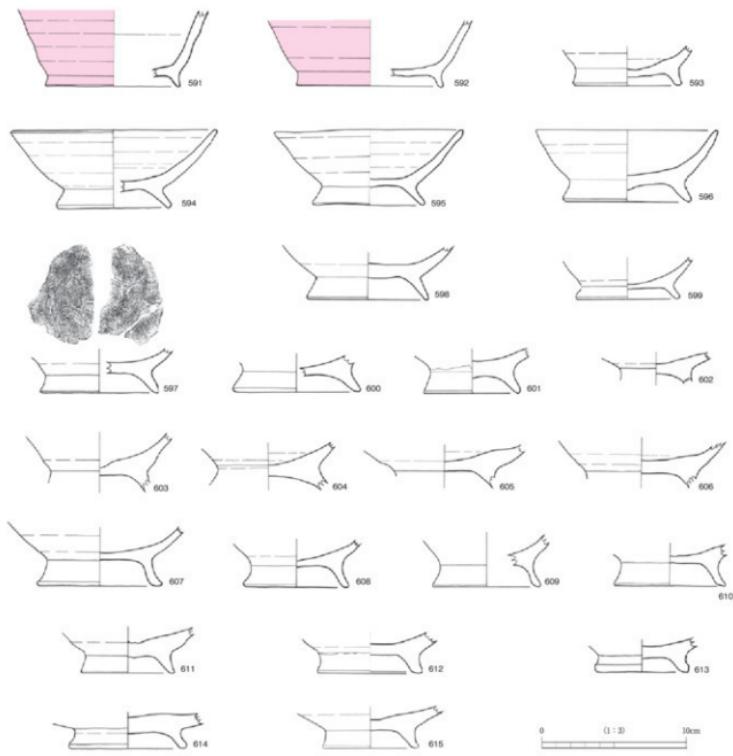
はわずかに外反する。546は、体部は直線的でわずかに内湾する。内面は、見込みに強いナデが施され、そこから一連の流れで内面全体に横ナデが施される。底部外面の切り離し痕は丁寧にナデ消される。

547は、器面全体に丁寧なナデが施される。底部切り離しの痕跡は完全に消される。548は、胎土がぶい橙色で、黒雲母を含む。器面全体に丁寧なナデが施される。底部外面から高台の下端に棒状の工具痕がみられる。

549は、胎土が橙色を呈する。器面全体に丁寧なナデが施される。外面の口縁部の直下に強いナデが施され、凹む。550は、胎土が浅黄色を呈し、黒雲母を含む。体部がやや深めで、口唇部は先細りする。551は、底部外面と高台下端に棒状の工具痕がみられる。高台下端は未調整で、底部切り離しによって生じた粘土が付着する。

552は底径6.8cmと大型で、体部の立ち上がりが外傾する。外面下端の調整は雑で、一部に粘土が付着する。553は、器面全体に丁寧なナデが施される。554は、内面のナデはやや雑で、砂粒の痕跡が残る。底部外面に棒状の工具痕がみられる。555は、胎土がぶい橙色を呈し、黒雲母を含む。

**土師器坏5類(556～569)** 556は、体部は直線的で、



第95図 SD38下層出土 土師器塊①

器壁が薄い。見込みが押圧されることにより、底部は薄くなる。外面は、底部から口縁部まで丁寧なナデが施される。557・558は小型のタイプである。557は、器面全体に丁寧なナデが施されるが、底部は水平ではなく、安定しない。558は、体部が内済する。外面には回転ナデによる凹凸が残る。

559は底径6.3cmで、大型である。胎土は浅黄色を呈し、黒雲母を含む。見込み中央を押圧し、反時計回りのナデを施す。外面下端は未調整である。

560～569は环5類の底部である。底部付近だけでは

环5類と环4類との区別が困難なため、一部に环4類が含まれることも考えられる。

560は器面全体に丁寧な横ナデが施されるが、砂粒の痕跡が残る。底部外端と体部下端に棒状の工具痕が観察される。561は底径7.0cmで大型である。胎土に1mm程度の砂粒が含まれ、やや粗粒である。562は、見込みから体部内面下半に強いナデが施される。

563は、胎土が橙色を呈する。焼成が良好で、硬質である。内外面には丁寧なナデが施される。564は、見込みに強い押圧が加えられる。外面下端の調整は稚で、切

り離しによって生じた粘土が付着している。

564・566は、胎土に黒雲母を含む。焼成が良好で、硬質である。565は、見込み中央から反時計回りの強いナデが施され、渦巻状の痕跡がみられる。567は、胎土がにぶい黄褐色を呈し、粒子が小さい。外面には、丁寧なナデが施されるが、体部下端から底部外面にかけては未調整で、切り離しによって生じた余分な粘土が付着している。568・569は体部の立ち上がりが内湾気味である。568は内外面に丁寧なナデが施されるが、外面下端は未調整である。

**土師器塊6類(570～587)** 土師器塊6類の資料は全て底部付近の破片資料で、全体の器形が判明するものは出土していない。

570は、最も残存状況がよい。見込みの中心から反時計回りの強いナデが施され、見込みと体部の境界が凹む。底部外面から下面下端には丁寧なナデが施され、底部切り離しの痕跡は残らない。体部外面には回転ナデの凹凸が残る。572は下面下端から底部にかけての一帯に、底部切り離し後に体部を起こす際に用いられたと考えられる棒状の工具の痕跡が残る。

571・574～576・579・583～585は、見込みに強いナデが施され、指頭の痕跡がみられる。580は胎土が橙色を呈し、粒子が小さい。焼成が良好で、硬質である。外面には丁寧なナデが施される。583・585は体部下端に粘土が付着する。581・587は胎土に黒雲母を含み、硬質である。見込みのナデがやや弱く、体部の立ち上がりは圓く。

577は、見込み外縁のナデが強く、凹む。外面には回転ナデによる凹凸が残る。578は、胎土はにぶい黄褐色を呈し、焼成がかなりよく、硬質である。見込みの中心から回転ナデが施され、胎土中の砂粒の痕跡を観察できる。582は、内外面に丁寧なナデが施される。

586は、胎土が灰黄色を呈し、胎土中に1～2mm程度の砂粒が含まれ、粗粒である。見込み中央付近にナデが施される。

**その他(588～590)** 588～590は他に類例がみられなかった資料である。588は、体部の立ち上がりは垂直に近いが、急激に開く。底部は薄く水平な面を作り出しているが、それが押圧と強いナデによるものか判断できなかった。底部外面には、ヘラ切り痕が明瞭に残る。

589は底部付近のみ残存している。底部を水平に作り出さない。見込みを押圧し、そこから一連の流れで内面にナデを施す。

590は高台内面の粘土の盛り上がりから、脚台付き坏の脚部と判断した。1点のみの出土である。

#### 土師器塊(第95～97図)

**土師器塊1類(591・592)** 591・592ともに上層から下層にかけて出土した破片資料が接合したものである。内外面に赤色顔料が塗布される。

**土師器塊2類(593)** SD38下層からは、593が1点のみ出土した。高台が低く、端部は角張る。見込みを押圧し、底部を薄くする。内外面で色調が異なり、内面は灰黄色、外面は浅黄色を呈する。

**土師器塊3類(594～606)** 594・595は胎土中に1～2mm程度の砂粒を含み、粗粒である。595は、焼成がやや不良で、見込みに亀裂が入る。596は胎土に黒雲母を含む。口縁部直下が強い横ナデによって凹む。

597は、胎土がにぶい黄褐色を呈し、粒子が小さい。焼成が特に良好で、硬質である。見込みに布目圧痕がみられる。598は底径8.3cmとやや大型である。器壁が厚く、胎土に1mm程度の砂粒を含み、粗粒である。599は、胎土が橙色で、黒雲母を含む。高台は大きく開き、高台内面には高台の貼り付け痕が残る。体部はやや丸みを帶びる。

600は底径8.7cmで、やや大型である。胎土に黒雲母を含む。601は底径6.5cmでやや小型だが、底部が厚さ1.2cmと厚い。高台外面に横方向のハケ目のような痕跡がみられる。

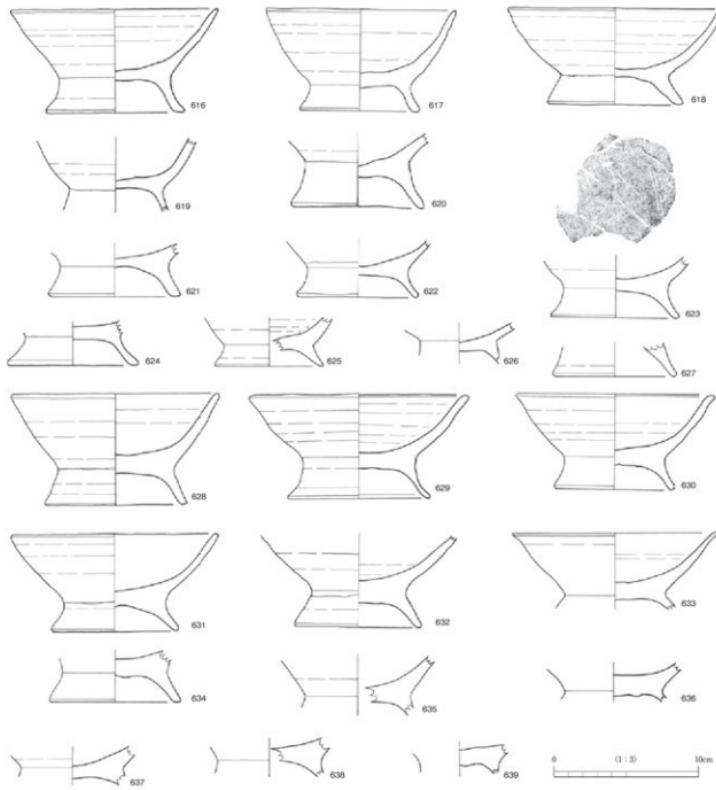
602～606は底部付近の資料である。体部と高台の開き具合から塊3類に含めたが、法量にばらつきがある。603・605は、見込みが押圧され凹む。体部の立ち上がりは外傾する。606は、高台内面の径が5.0cmあり大型である。

**土師器塊4類(607～615)** 資料は全て底部から体部の下半にかけての破片資料であり、全体の器形がわかるものはない。

609は、胎土に1～2mm程度の砂粒を含み、粗粒である。外面に高台の接合痕を残す。608・610は、高台がやや高い。高台は床に向かって徐々に開き、端部は平坦になる。見込みの中心を押圧し、その周囲に同心円状の強いナデが施される。610は胎土に1～3mm程度の砂粒を含む。

612は、胎土に砂粒や鉱物を多く含み、器面が粗い。高台の器壁が厚く、端部は幅6mm程度の平坦面となる。611・615は胎土中に鉱物・砂粒が多く含む。底部は厚く、体部はやや外傾する。

607～610は、胎土中に砂粒を含まず、器面が滑らかである。器面全体に丁寧なナデが施されるが、外面の高台の接合痕は明瞭に残る。見込みには不定方向のナデも施される。607は底径8.8cmと大型である。体部はやや



第96図 SD38下層出土 土師器塊②

丸みをもって立ち上がる。613は底径6.1cmと小型である。高台の器壁が厚い。高台端部は幅7mm程度の平坦面となる。614は底径8.0cmと大型だが、高台高は10cmと低い。底部は厚く、体部の立ち上がりは、外傾がきつい。615は底径6.8cmで大型であり、底部の厚さは11cmと厚い。体部の立ち上がりはかなり外傾すると想定される。高台内面と高台の境界に同心円状に強いナデが施され、ナデの痕跡が明瞭に残る。

土師器塊5類 (616~639) 616~627は、底部の厚

さが10cm未満の土師器塊5A類である。616は胎土中に鉱物と砂粒を豊富に含み、器面はやや粗い。高台内面は水平な面となり、高台の開きは他の5類よりも弱い。617は、胎土が橙色を呈する。体部外面から口縁部のナデは強で器面に凹凸が残る。高台はあまり開かず、高台端部は平坦になる。

618は、胎土が浅黄色を呈し、胎土に含まれる砂粒と鉱物の粒子が大きい。高台は開き気味で、器壁が厚く、端部は丸みを帯びる。高台内面の中心に強いナデを施し凹ませ、さらにその外に同心円状に強いナデを施す。



第97図 SD38下層出土 土器壇5B・皿ほか

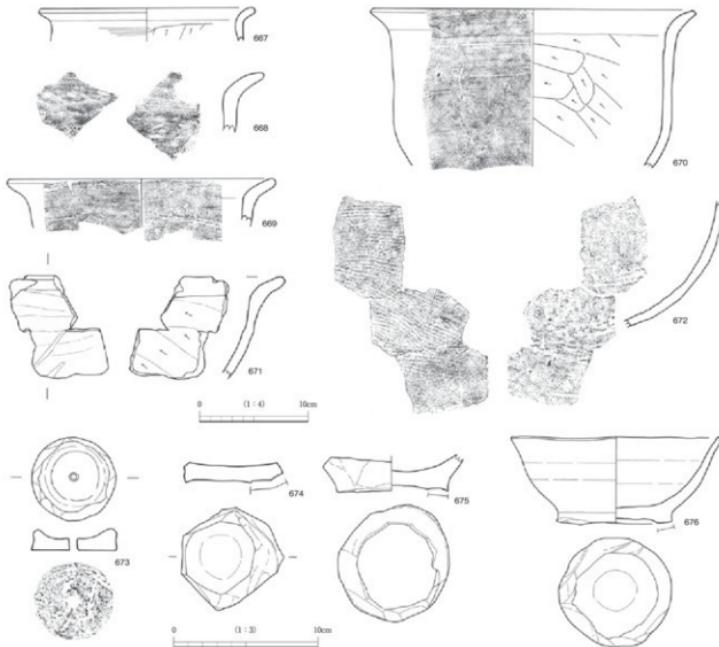
619は、胎土の粒子が小さく、表面が滑らかである。体部下端にケズリの痕跡が残る。

620・622・623は、胎土中に鉱物を多く含む。高台内面は水平な面ではなく、高台との境界は不明瞭で、高台の開きが大きい。623は、内面に木葉痕がみられる。622の内面と620の高台の一部の表面が赤色を呈するところから、赤色顔料が塗布されていた可能性がある。

621～627は、高台の形状及び底部の厚さから壇5A

類とした。621は橙色を呈する。高台内面と高台の境界付近に工具による刺突の痕跡がみられる。625は、外表面及び高台内面が赤色を呈する。赤色顔料を塗布された可能性がある。

628～639は土器壇5B類である。底部の厚さが1.5cm程度と厚い。628は、体部の立ち上がりが内湾気味で、口縁部はわずかに外反する。629は、胎土に含まれる鉱物の粒子が大きい。628よりも器壁が厚く、本部



第98図 SD38下層出土 土師器塊・二次加工品

はやや丸みを帯び、口縁部の外反も大きい。630は、胎土が橙色を呈し、胎土中に1~3mm程度の砂粒を含む。体部はやや丸みを帯びて、口縁部は外反する。631は、高台が「ハ」の字状に開き、高台内面と高台の境界は不明瞭である。見込みに強いナデを施し、そこから反時計回りの横ナデを内面全体に施す。

632は、他の焼5類と比較して胎土の粒子が小さく、器面が滑らかである。高台が「ハ」の字状に開き、器壁が厚く、端部は丸みを帯びる。633は、体部が外傾する。口縁部は外反し、口唇部は先細りする。634は、胎土の粒子が小さく、器面は滑らかである。見込みから反時計回りのナデが施される。635~639は底部の厚さから5B類とした。638は胎土に黒雲母を含む。

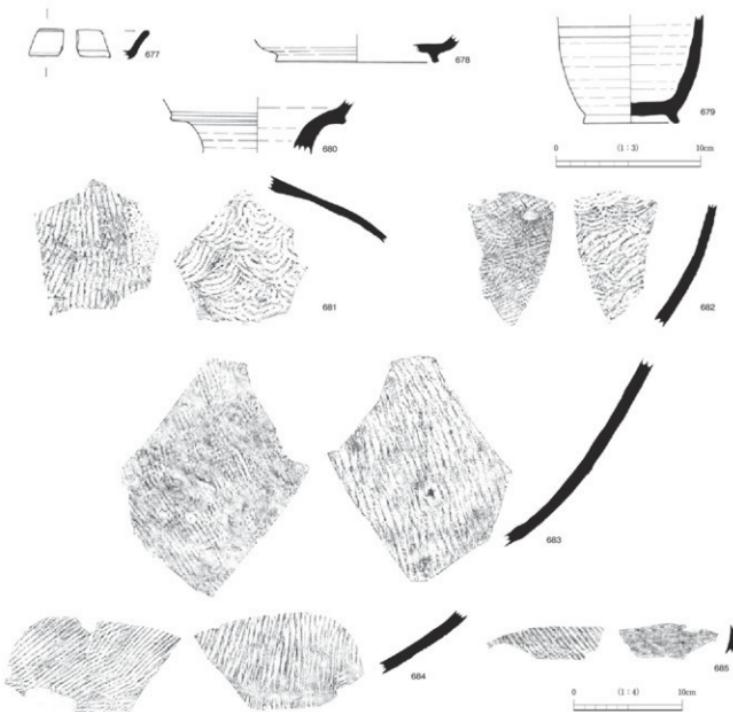
**土師器塊6類 (640~643)** 塊6類は、器面は浅黄橙色を呈するが、胎土は黒褐色のものである。塊6類は胎

土を主体とした分類であり、器形は塊3類に近い。見込みに凹凸が認められるのも特徴の一つである。640は、高台が低く、開きが大きい。見込みにナデを施すが、方向に規則性はみられない。高台内面にヘラによる切り離しの痕跡が残る。

641は、見込みが押圧され、底部は薄くなる。642は、見込みにケズリによる凹凸が残る。643は、見込みに強いナデが施され、連続して横ナデが行われる。底部外面にヘラによる切り離しの痕跡が残る。

**土師器塊7類 (644)** 土師器塊7類は、644が1点のみ出土した。胎土は灰白色を呈し、粒子が非常に小さい。塊4類の545に胎土が類似する。体部は一度開き、丸みをもって立ち上がる。

**土師器塊8類 (645~646)** 破片資料のみで、全体の



第99図 SD38下層出土 須恵器

器形がわかるものはない。高台を貼り付けた後に、高台と高台内面の境界に棒状の工具により刺突された痕跡が認められる。

**その他 (647～651)** 器形が不明で、残存箇所に他のものにはみられない特徴がみられるものを、その他として報告する。

647は、見込みが強く押圧され、底部は薄くなる。高台と体部の境界が一度凹み、そこから盛り上がって体部となる。高台は「ハ」の字状に開く。648は、高台は低く、大きく開く。高台の器壁は厚く、端部は角張るようにならんが成形される。高台の端部には、調整によるものと考え

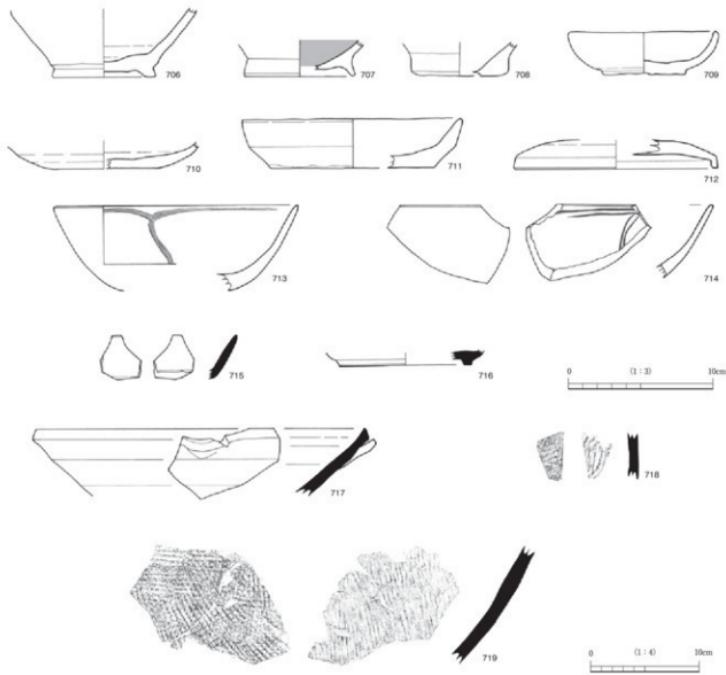
られる沈線状の凹みが巡る。底部は厚さ1.5cmと厚い。器形は塊2類に類似する。650・651は、見込みが押圧され薄くなる。土坑群から出土したものと類似する。

#### 内黒土師器 (第97図 652～654)

652～654は内黒土師器である。内面には、丁寧なミガキが施され、光沢がある。652は、唯一全体がわかる資料である。高台は低く、端部は角張る。体部は外傾し直線的である。器形は土師器塊2類に相当する。653は底部である。高台の形状から土師器塊2類に相当するとと思われる。底部は薄い。654は、塊の高台のみの出土で、652・653と比較して高台が高い。



第 100 図 SD38 上層・中層出土遺物



第101図 SD38 II層・摸乱ほか出土遺物

**土師器皿 (第97図 655～663)**

**土師器皿 1類** 655～657は土師器皿1類である。器高が平均1.5cmと扁平である。655は、見込みに反時計回りの強いナデが施され、わずかに凹凸が残る。

**土師器皿 2類** 658は高台を持つ土師器皿2類である。1点のみの出土である。器面全体に反時計回りのナデが施される。

**土師器皿 3類** 659・660は土師器皿3類である。659は、体部が直線的である。660は、体部がやや丸みを帯び、口縁部は内湾気味である。

**土師器皿 4類** 661～663は土師器皿4類である。坏3類の器高が低いタイプをさらに扁平にしたような器形である。

661は、体部がわずかに内湾し、口縁部は丸みを帯び

る。662は、内面に反時計回りの強いナデが施され、凹凸が残る。底部外面は黒色を呈する。663は胎土の粒子が小さく、表面が滑らかである。見込みは、押圧と強いナデが施され凹む。

**墨書き土器 (第97図 664)**

664は墨書き土器である。SD38下層出土のもので墨書きを確認できたものは1点のみである。文字の判読には至らなかった。土師器坏6類である。

**緑釉陶器 (第97図 665)**

665は緑釉陶器の皿である。1点のみの出土である。内外面に割花文がみられる。山元信夫氏によると、越州窯系青磁の模倣品で、5～6の輪花を有すると想定され

る。内外面にミガキが施されることから、京都産の可能性が高いということである。

#### 不明土器（第 97 図 666）

666 は、内面が黒色を呈する。鉄釉の可能性がある。

#### 土師器壺（第 98 図 667 ~ 672）

土師器の壺は、环・壺を主体とする供献具と比較して出土量が圧倒的に少なく、全体の器形がわかるものも出土しなかった。

667 は、器壁が薄く、口径が 19.8cm と小型である。口縁部は開き、ナデが施される。体部外面には横方向のハケ目が、体部内面には右上方向のケズりが施される。668 は、器壁が厚く、口縁部は開く。口縁から体部上半にはナデが施される。体部の一部にはケズリの痕跡が認められる。

670 は、胎土に 3 ~ 10mm 程度の小礫を含む。胴部は直線的である。口縁部は短く、やや開く。胴部内面には左上方向のケズりが施され、器壁は薄い。胴部外面から口縁部内面には横方向のナデが施される。また、外面には煤が付着する。

671 は、体部が外傾することから、胴部の短い鉢状の器形になると思定される。胎土に 5mm 程度の小礫が含まれる。胴部外面上半には左上方向のナデが施され、器面に凹凸が認められる。胴部内面には、左上方向のケズりが施される。

672 は胴部下半である。胎土に 1 ~ 7mm 程度の砂粒・小礫を含む。外面には横方向を基本としたハケ目が、内面にはケズりが施される。

#### 紡錘車・土師器二次加工品（第 98 図 673 ~ 676）

673 は土師器壺の底部を用いた紡錘車である。中央に直径 5mm の穴が穿孔される。

674・675 は、高台の剥がれた箇所と体部に剥離が加えられている。676 は土師器壺 5A 類である。高台が破損した後に、剥離が加えられている。

#### 須恵器（第 99 図 677 ~ 685）

677 は环の口縁部である。内外面にナデが施される。678 は环の底部である。内外面にナデが施される。679 は壺の底部である。調整は、内外面共に回転ナデが施される。

680 は備前系の壺の口縁部付近である。内外面は回転ナデが施され、外面には褐色の釉薬が施されている。内面は、口の広がった部分に自然釉が付着している。

681 は壺の颈部である。外面は格子目タキで、内面は青海波の当具痕がある。外面には自然釉が付着している。683 は備前系の壺の胴部である。外面は格子目タキ

キで、内面には平行の当具痕がある。外面に茶褐色の釉薬が施釉されている。684 は壺の胴部である。外面は平行タキで、内面は平行の当具痕である。

685 は器種不明である。外面は平行タキ、内面は回転ナデが施される。

#### （ウ） 上層及び中層出土遺物（第 100 図）

中央層上層からの出土遺物は、糸切り底の土師器や、龍泉窯系青磁碗 1 類などが出土した。まとめて報告する。

#### 内黒土師器・二次加工品（第 100 図 686）

686 は内黒土師器の碗である。高台の形状から土師器壺 2 類に比定される。高台内面に「下」の字のような線刻が焼成後に行われる。また、見込みの外縁を意図的に削離している。

#### 土師器（第 100 図 687 ~ 697）

687 は土師器壺 8 類である。高台を貼り付けナデ調整を施した後に、高台内面と高台の境界に刺突が施される。689 は、内面にミガキが施され、さらに赤色顔料が塗布される。高台の形状から土師器壺 2 類に比定される。688 は土師器壺 3 類である。胎土に輕石が混入されている。

690 は土師器壺 3 類である。692 は环もしくは皿である。胎土に 1 ~ 3mm 程度の小礫が含まれる。見込みと体部の境界に同心円状に強いナデを施し凹ませる。

693 は大塊もしくは鉢である。底部外面に棒状の圧痕が認められる。

694 ~ 697 は、底部切り離しが糸切りの土師器である。

#### 須恵器（第 100 図 698 ~ 700）

698 は口縁が肥厚し、丸みを帯びる。山元信夫氏によると、東播系の須恵器で、篠産で確実であるということであった。

699 は、环の口縁部から胴部である。700 は鉢の底部である。外面には回転ナデが施される。

#### 青磁（第 100 図 701 ~ 703）

701 は同安窯系青磁の碗である。外面に縱方向の櫛目文がみられる。702・703 は龍泉窯系青磁碗 1 類である。702 には連弁文がみられる。703 は、見込みに目跡が認められる。

#### 滑石製品（第 100 図 704）

704 は滑石製石鍋で、縱方向の把手がつくタイプである。口唇部の把手の左右で器壁の厚さが異なるが、外面に煤が付着することや調整痕から判断して、二次加工・再利用によるものではない。外面は、整による調整の痕跡が明瞭に確認される。

### 焼塙土器（第 100 図 705）

焼塙土器は 705 の 1 点のみが出土した。内面から外面の口縁部付近まで布目の圧痕がみられる。体部上半から口縁に向けて鋸く先細りする。

### （工） 埋土上半（II 層相当層）及び搅乱出土遺物（第 101 図）

SD38 の埋土上半及び搅乱から出土した資料を一括して報告する。

### 土師器・内黒土器（第 101 図 706 ~ 712）

706 は土師器壺 2 類である。黄橙色を呈し、胎土には 1 ~ 3 mm 程度の砂粒が含まれる。

707 は内黒土器の壺である。残存している範囲での底部の厚さが 25mm と非常に薄い。高台内面と高台の境界には強いナデが施され、凹む。高台の器壁は薄いが、端部は丁寧に成形され、平坦面が作り出される。

708 は土師器の壺である。底部の厚さが 35mm と薄い。外外面に丁寧なナデが施される。坏 6 類に該当する。

709 は土師器壺 3 類である。底部が厚く、円盤状になる。体部は丸みを帯び、外下面端にケズリの痕跡が認められる。

710 は土師器皿で、胎土の粒子が小さく、表面は滑らかである。内外面の調整が非常に丁寧であり、外面にはヘラミガキが施される。

711 は坏で、底部切り離しは糸切りである。底部外面と体部の立ち上がりには明確な棱がつく。体部下半は外傾するが、中程で棱をもって立ち上がり口縁部となる。

712 は土師器の蓋である。

### 青磁（第 101 図 713・714）

713・714 は龍泉窯系青磁碗 1 類である。713 は口縁部に輪花は認められず、内面には方形で 4 ~ 5 分割されるが、飛雲文・花文は認められない。

### 須恵器（第 101 図 715 ~ 719）

715 は坏の口縁部から底部である。内外面共にナデが施される。716 は坏の底部である。内外面共にナデが施される。外面には全面に自然釉が付着している。717 はこね鉢の口縁部注口である。内外面共に回転ナデが施される。718 は壺の胴部である。外面は平行タタキの後に、回転カキメが施される。719 は壺の胴部である。外面は格子目タタキで、内面には平行な当具痕がみられる。外面全体に薄い釉薬が施釉されている。

### （4） 遺構外出土遺物（第 102・103 図）

古代の遺構外における出土遺物は、包含層及び表土、搅乱のものがあるが、出土量が少ないので一括して報告する。

### ア 土師器（第 102 図 720 ~ 734）

720 は土師器の蓋である。外面にはヘラケズリとナデが施され、わずかに凹凸が残る。

721・722 は土師器壺 5 類に該当する。722 は底部外面に「一」の字状の線刻が施される。723 は土師器壺 6 類である。底部外面には、丁寧にナデが施され、ナデ調整後に「一」の字状の線刻が施される。

724 ~ 726 は壺である。724 は、体部の器壁は厚めで、体部は丸みを帯びる。内面は見込みの中心から反時計回りにやや強めのナデが施される。外面の口縁部と体部には丁寧なナデが施される。725 は、見込みの中央付近が凹み、内外面ともに底部と体部との境界が不明瞭である。器面の調整が丁寧で、内面にはヘラミガキが、外面にはヘラケズリの後にミガキが施される。726 は壺の底部である。

727 は土師器壺 1 類である。焼成が非常に良好で、硬質である。高台は低く、断面が台形状になる。728 は壺 3 類で、高台は低く、「ハ」の字状に開くが、わずかに内湾する。底部の厚さが 35mm と非常に薄い。

729・730 は壺である。729 は口径 15.6cm で、やや小型の壺である。内面には煤が付着する。口縁部は開き、胴部は張り出すと想定される。外外面から口縁部内面には丁寧なナデが施される。胴部には左上方方向のケズリが施されるが、胴部と口縁部の境界には横方向のケズリが施される。

730 は、口縁部は短く、やや開く。口唇部は先細りし、先端は丸くなる。外外面から口縁部内面には丁寧なナデが施される。胴部内面には右上方方向のケズリが認められる。731 は、器壁が薄い。口縁部は開き、口唇部は角張る。外面は横方向のハケ目を施した後に、ナデが施される。732 は、口縁部は短く、わずかに開く。外面には丁寧なナデが施される。口縁部内面には目の小さなハケ目がみられる。胴部内面にはほぼ真横に近い左上方方向のケズリが認められる。

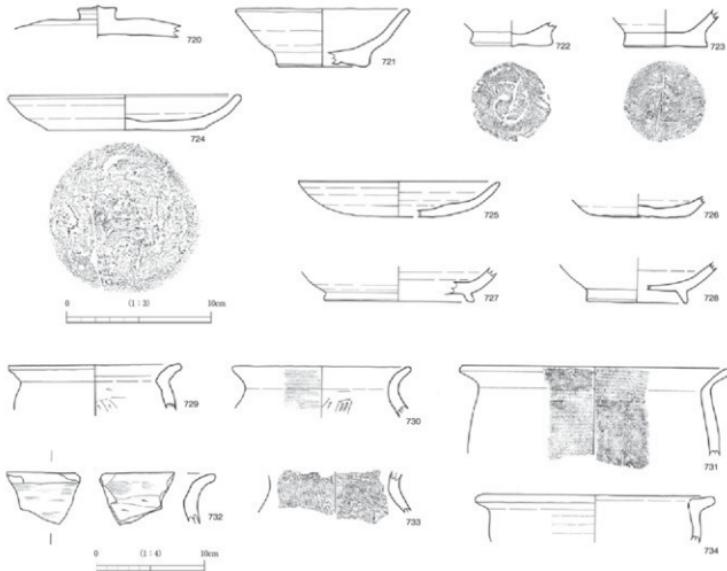
733 は壺部の破片資料である。胎土が赤褐色を呈し、胎土に滑石の混入が認められる。胴部外面には縱方向のハケ目が、胴部内面には左上方方向のケズリがみられる。

734 は口径 22cm である。口縁部は短く、開く。口唇部は角張る。胴部の短い鉢状になると想定される。

### イ 須恵器（第 103 図 735 ~ 753）

735・736 は蓋である。735 は、天井部が低く扁平である。内外面共に回転ナデが施されている。外面には自然釉が付着している。また、内面には、重ね焼きによる付着物が見られる。736 は、天井部が高く全体的にやや丸みを帯びている。外面はケズリの後にナデが施されている。外面上には重ね焼きによる付着物がみられる。

737 は高台付壺である。高台の幅は狭く、高さが低い。738 ~ 740 は坏で、全て底部の切り離しはヘラ切りで



第102図 遺構外出土遺物①

ある。738は、口縁部から受け部が消失している。外面全体に自然釉が付着している。739は、外面はヘラケズリによる成形の後に、ナデによる調整が施される。外面全体に自然釉が付着している。740の外面は、ヘラケズリによる調整が施される。成形時の瓶軸回転は、738・740は右回転で、739は左回転である。

742～745・750は壺である。742ナデの方向が上下で異なり、その境目に接合痕が見られることから、上下を別々に製作し、最後に接合して製作していると考えられる。743は壺としているが、底部にタタキが施されていることから、壺ではない可能性もある。

744は、胴部に丸みが無く、高台は外傾する。胴部下半の内外面はケズリにより成形され、胴部外面は平行タタキにより成形されている。内面には、板状の道具による痕跡が観察できるが、全面に丁寧なナデが施されている。

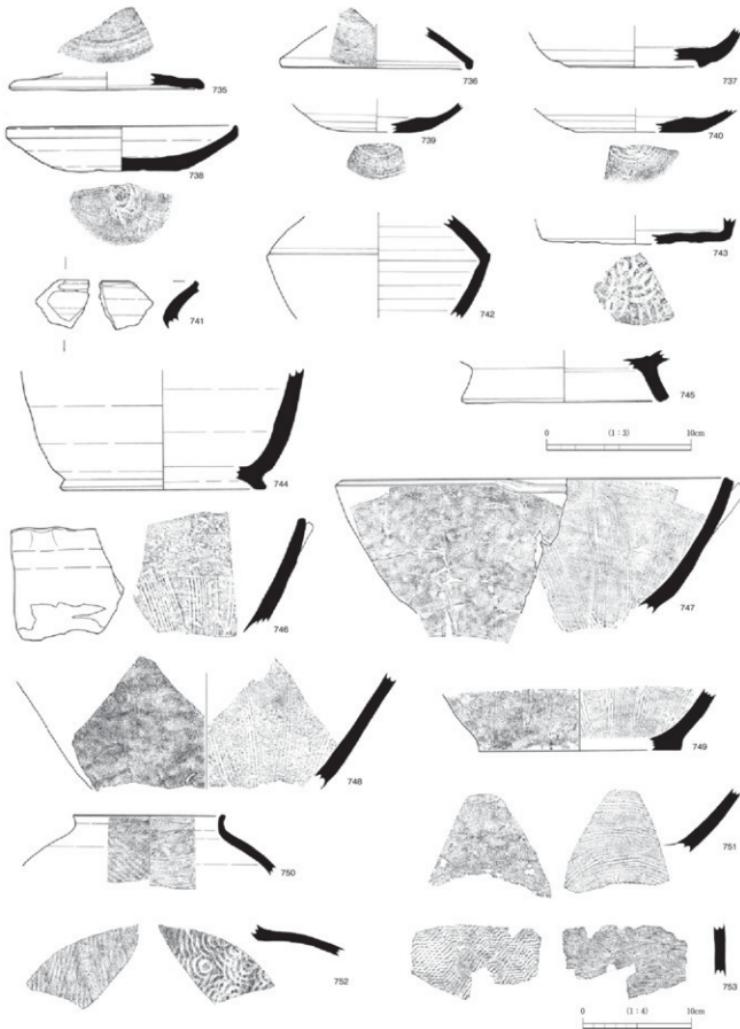
745は壺の底部で、底部内面は絞った様な皺がある。

750は口縁部である。外面に刺突文を施した後に、丁寧な回転ナデが施されている。

741・752は壺である。741は内外面に回転ナデが施されている。752は、外面が平行タタキにより成形されており、外面全体には透明度の高い自然釉が付着している。

751・753はこね鉢である。753は外面に「ハ」の字状のタタキによって成形されている。内面はヘラによる調整が施されている。751は、外面にナデが施されているが、全体的に摩滅している。内面には、ヘラによる調整が施されている。

746～749は擂鉢である。747は内面に11本で1セットのすり溝がみられる。749は、内面に木製工具によるナデが施されており、10本で1セットのすり溝が施されている。748は、7本で1セットのすり溝が施されている。746は10本で1セットのすり溝が施されている。



第103図 遺構外出土遺物②

#### 4 中世の調査

##### (1) 調査の概要

中世の調査は、主に M ~ P - 23 ~ 28 区を行った。遺構の分布域は縄文時代のものと重複する。縄文時代の調査と同様に、Ⅲ層が残存している地点ではⅢ層直下で、それ以外の地点では表土直下で遺構の検出を行った。遺構検出面はⅣ層、V層、VI層のいずれかであり、当該時代の生活面から下層で遺構を捉えていることになる。なお、黒～灰褐色を呈する遺構埋土を中世に該当するものと判断し、縄文時代の遺構と区別した。

中世の遺構は、掘立柱建物跡 4 棟、方形堅穴建物 1 基、堅穴状遺構 3 基、土師器埋納柱穴 1 基、土壌墓 2 基、土坑 3 基、炭化物集中箇所 1 基、焼土 2 基、柱穴 64 基を検出した。また、3 古代の調査で述べたとおり、SD38 の中層及び上層からは、中世の遺物が出土している。

遺構の調査は、まず検出状況の記録写真を撮影し、必要に応じて検出状況の実測を行った。その後、方形堅穴建物と堅穴状遺構については、十字に土層観察用のベルトを設定し、4 分の 1 ずつ掘り下げを行った。それ以外の遺構については、半裁し、堆積状況を観察しながら掘り下げを行った。土坑の床面の判断は、埋土堆積状況の

変化や埋土に含まれる炭化物の有無、硬化面等の把握に依った。

遺物の取り上げは、土器・陶磁器類の小破片については、掘り下げ時にグリッドごとに一括で取り上げた。大型の破片については、遺構検出後に、遺構との関係の有無を判断し、遺構と関係がないものはグリッド一括で取り上げ、遺構との関係があるものは遺構内出土遺物と同様の取扱いをした。

##### (2) 遺構

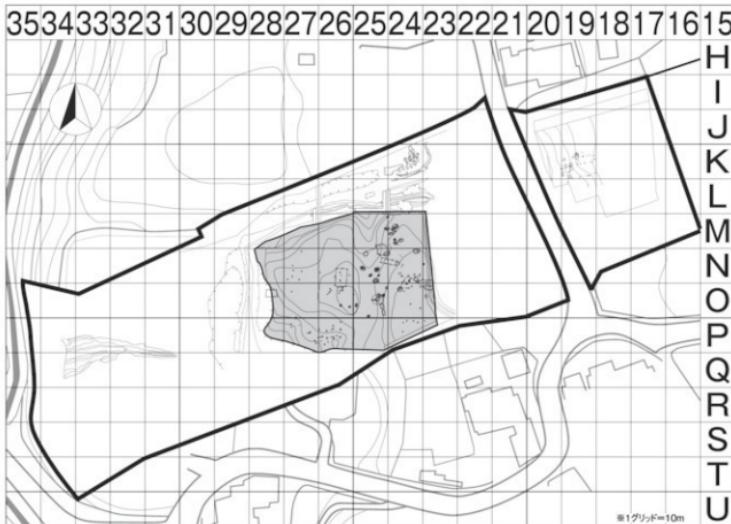
###### ア 掘立柱建物跡（第 107・108・110 図）

掘立柱建物跡は 4 棟検出された。規格や柱穴の形状等に共通性はみられない。

###### SB16（第 107 図）

検出状況 N・O - 26 区、VI 層上面で検出された。

規格・規模 規格は 2 間 × 3 間で、粋柱である。主軸は N 5° E を示す。柱間は、桁行が一間 120 ~ 220cm、梁行が一間 156 ~ 176cm である。P 8 及び P12 は、並列して 2 基の柱穴が検出されていて、柱を立て替えた可能性がある。



第 104 図 中世の調査範囲（アミの範囲）

**柱穴の形状・埋土** 柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を基本とする。規模は直径 20 ~ 37cm、検出面からの深さ 33 ~ 76cm とややばらつきがある。埋土は黒褐色土で、床面付近のしまりが強い。埋土から土器の小破片が出土したが、図化には至らなかった。

#### SB41 (第 107 図)

検出状況 N - 24-25 区、VI 層上面で検出された。

**規格・規模** 規格は 1 間 × 3 間で、主軸は N12° W を示す。柱間は、桁行が一間 136 ~ 160cm、梁行が一間 128 ~ 146cm である。

**柱穴の形状・埋土** 柱穴の平面形は、円形もしくは楕円形である。規模は直径 21 ~ 40cm、検出面からの深さ 30 ~ 56cm で、規模にばらつきがある。埋土は黒褐色土で、床面付近のしまりが強い。埋土から土器の小破片が出土したが、図化には至らなかった。

#### SB119 (第 107-108 図)

検出状況 N-O - 24 区、V 層上面で検出された。分布が SI11 と重複していて、P5 (SP87) が SI11 を切っている。

**規格・規模** 規格は 2 間 × 3 間で、主軸は N 3° W を示す。柱間は、桁行が一間 166 ~ 196cm、梁行が一間 168 ~ 189cm である。

**柱穴の形状・埋土** 柱穴の平面形は、円形もしくは楕円形である。規模は直径 33 ~ 44cm、検出面からの深さ 29 ~ 52cm で、規模にばらつきがみられる。埋土は黒褐色土で、床面付近のしまりが強い。

**P5・出土遺物** P 5 は SB119 を構成する柱穴のひとつで、平面形が楕円形を呈する。規模は 41 × 29cm で、検出面からの深さは 52cm である。P 5 の検出面付近で滑石製石鍋 (757) が出土した。一部欠損するが、ほぼ全体が残存している。757 は、鶴が巡るタイプの石鍋で、外面には器面を整形する際の際痕が明瞭に観察できる。

また、特筆すべき点として、SP79 の埋土から出土した破片と接合したことを挙げられる。ただし、意図的に異なる柱穴に納められたのか否かは不明である。

#### SB120 (第 110 図)

検出状況 SB120 は P - 26 区、VI 層上面で検出された。

**規格・規模** 規格は 2 間 × 3 間で、主軸は N 7° W を示す。柱間は、桁行が 188 ~ 218cm、梁行が 211 ~ 224cm である。

**柱穴の形状・埋土** 平面形は楕円形で、規模は長径 34 ~ 64cm、検出面からの深さ 30 ~ 60cm である。埋土は褐色土で、他の掘立柱建物跡の埋土と比較して粘性が弱く、しまりもない。

**P1 (SP81)・出土遺物** SB120 を構成する柱穴では、P 1 (SP81) から瓦質土器と青磁碗が出土した。瓦質

土器 3 点を図化した。758 は、釜の口縁部で、口縁部はやや肥厚する。759・760 は擂鉢で、体部の外輪が弱い。口縁部は断面三角形状に成形され棱を持つが、全体的に歪む。

また、図化には至らなかったが、青磁碗は高台付近が出土したが、線描の連弁文を持つものである。

#### イ 土師器埋納柱穴 (第 109 図)

##### SP79 (第 109 図)

検出状況 N - 24 区、V 層上面で、土師器が一部露出する状態で検出された。

**形状・規模** 平面形は楕円形で、規模は長軸 28cm、短軸 24cm、検出面からの深さ 36cm である。床面は平坦で、断面形は円筒形になる。

**埋土** 埋土はにぶい黄褐色土で、上部は、しまりがなく粘性も弱いが、下部は、やや粘性があり、しまりが強くなる。

**遺物・礫出土状況** SP79 からは、土師器坏 2 点、青磁碗 1 点、滑石製石鍋の破片 2 点、礫 14 点が出土した。

土師器の坏は、大小を入れ子状にし、伏せられた状態で検出された。土師器坏の直下からは、扁平な安山岩が横置で検出された。さらに、その安山岩の下部から、他の礫と青磁碗、滑石製石鍋が検出された。

ほとんどの礫には被熱や整形等の痕跡は確認されなかつたが、最上部から検出された安山岩には被熱の痕跡がみられ、被熱後に一部を打ち欠いて扁平になるように整形した痕跡が観察される。

以上のことから、柱穴の機能喪失後に、根石を再利用もしくは新たに礫を配し、その上に扁平に整形された安山岩を水平に据え台状にし、土師器の坏 2 点を配したものであると想定される。

**遺物** 755・756 は土師器の坏である。755 は口径 13.2 cm、756 は口径 9.0cm で、大小のセットである。底部の切り離しは糸切りによる。底部外面は水平だが、立ち上がりは丸みを帯びる。内面には雑なナデが施される。

757 は、龍泉窯系の青磁碗である。見込みに方彌形による草花文がみられる。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗 1 類である。754 は上述のとおりである。

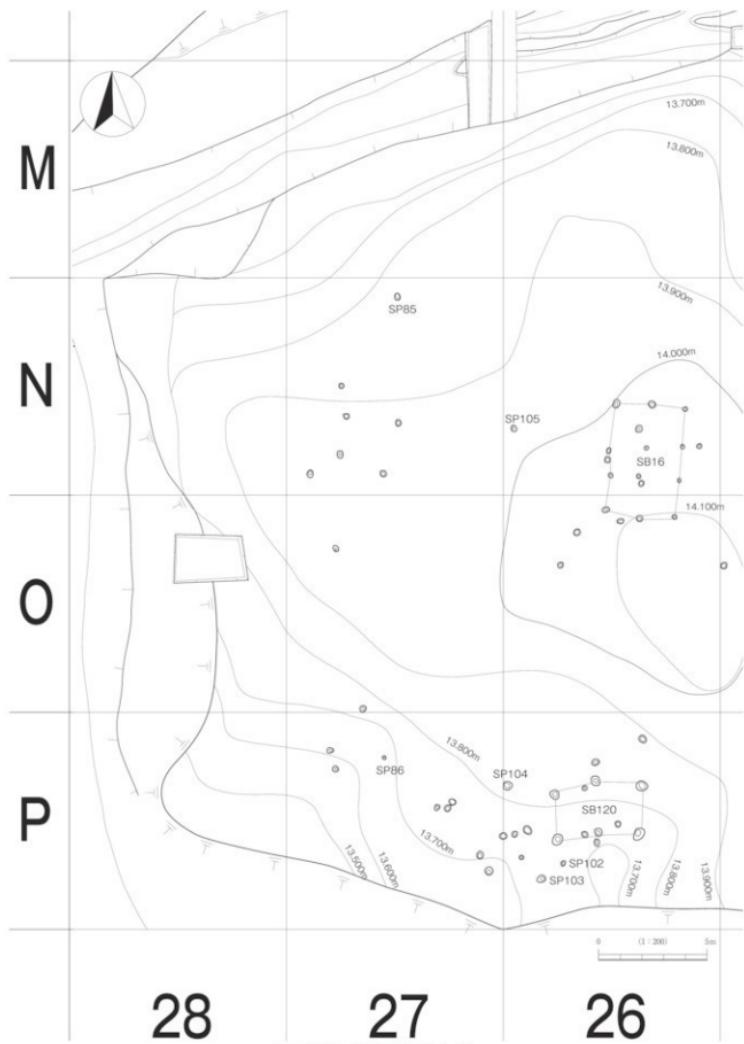
#### ウ 方形堅穴建物・堅穴状遺構

平面形が方形で、一辺が 2m を超えるものを方形堅穴建物・堅穴状遺構とした。確実に建物跡と判断できたものは方形堅穴建物、それ以外のものを堅穴状遺構とした。

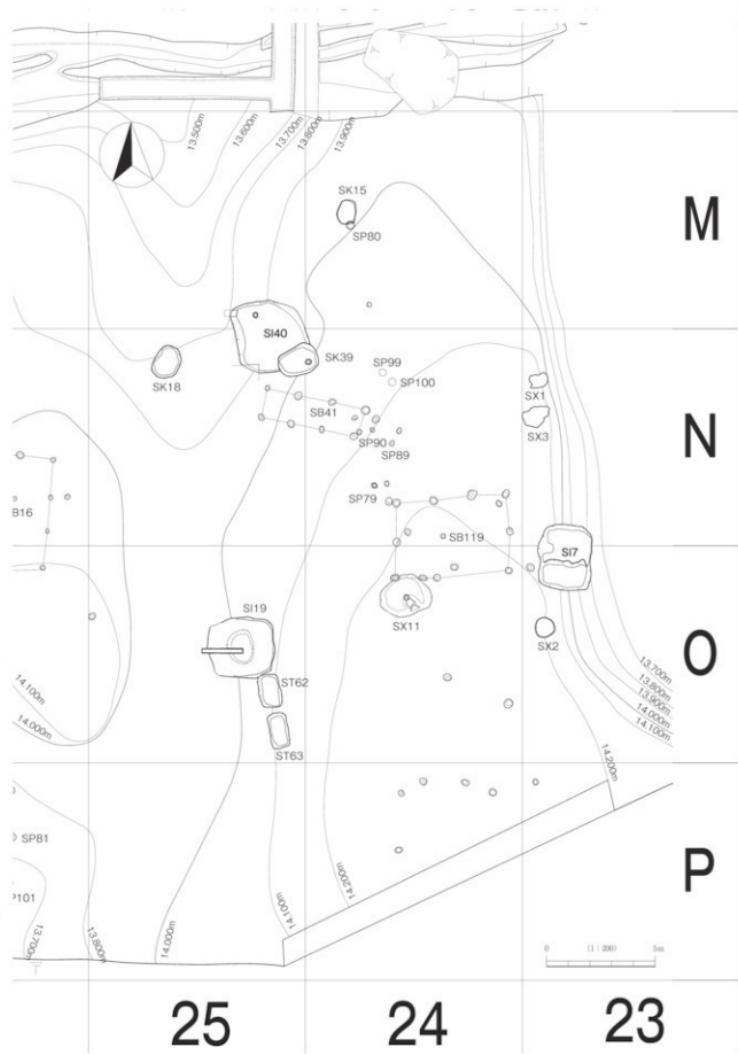
##### (ア) 方形堅穴建物 (第 111・112 図)

##### S17 (第 111・112 図)

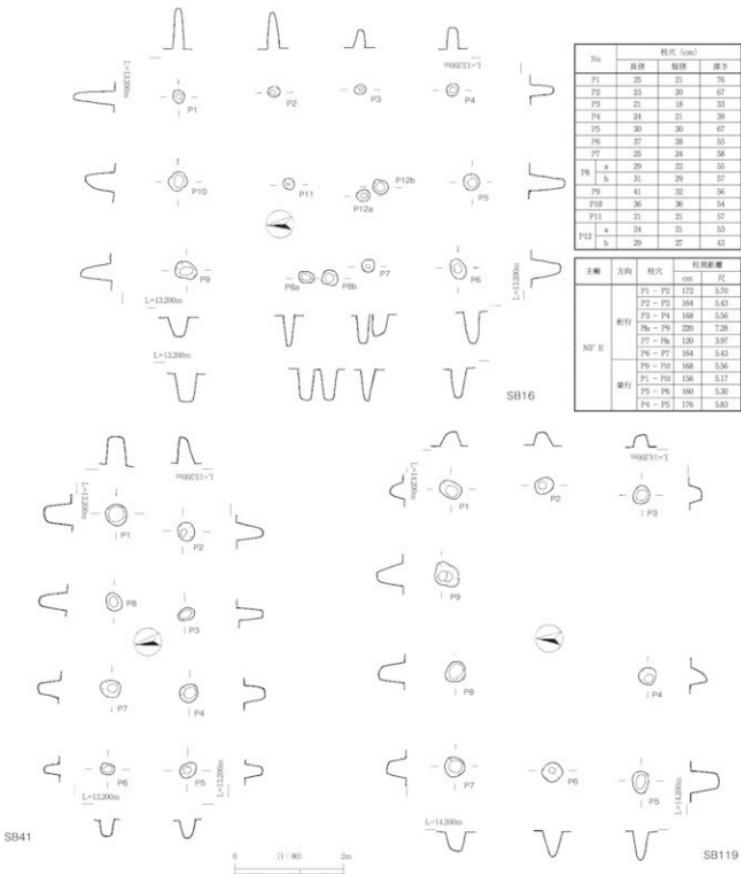
検出状況 N-O - 23 区、V・VI 層上面で検出された。後世の削平により、遺構の東側の上部は残存していない。



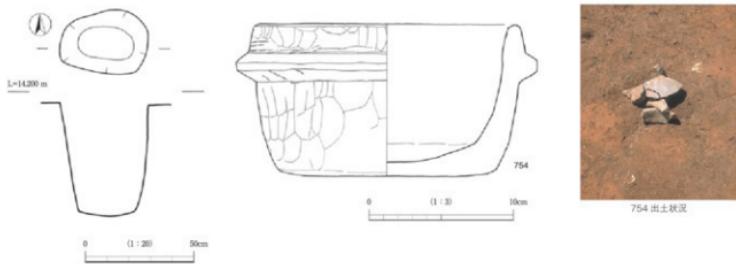
第105図 中世の渡構配置図(1)



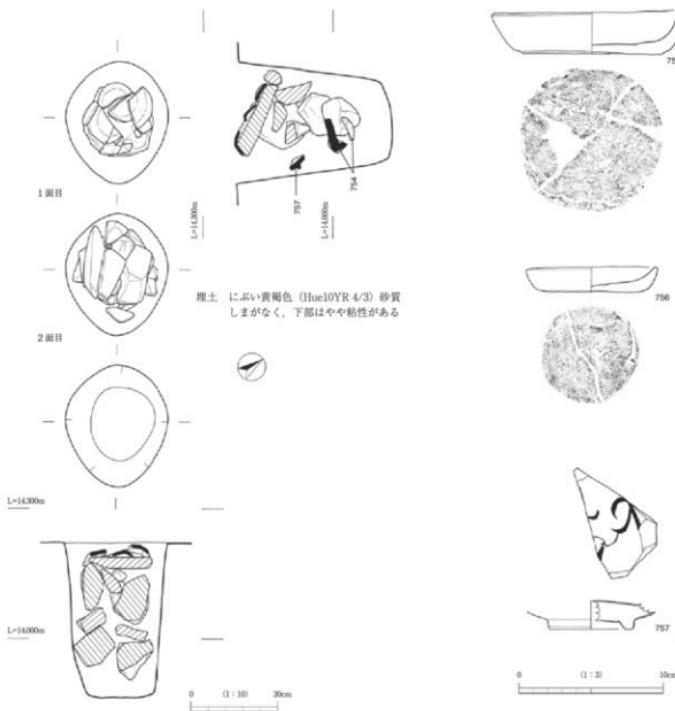
第 106 図 中世の遺構配置図 (2)



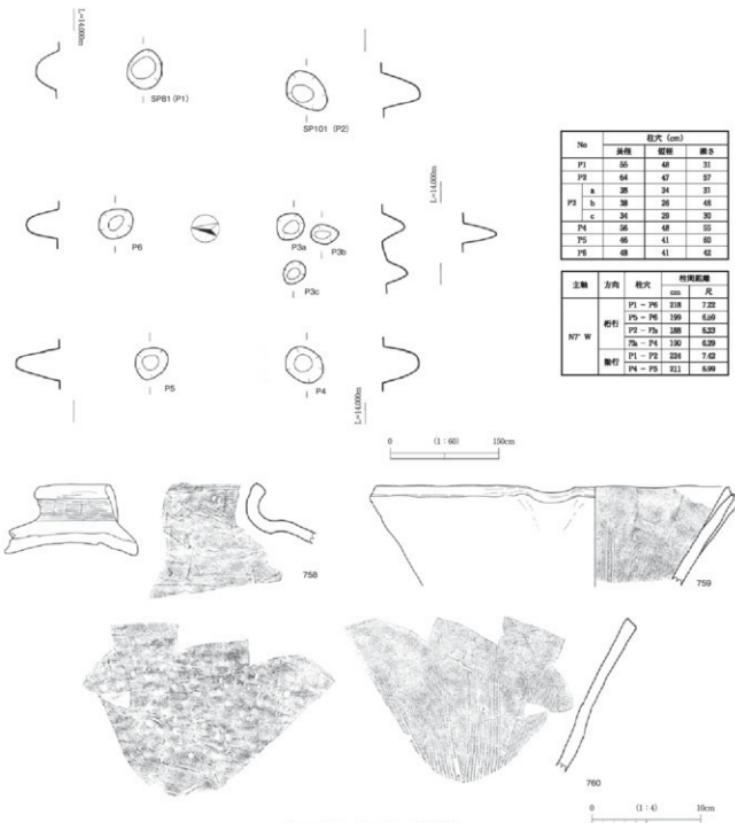
第 107 図 SB16, SB41, SB119



第108図 SB119-P5・出土遺物



第109図 SP79・出土遺物



第 110 図 SB120・出土遺物

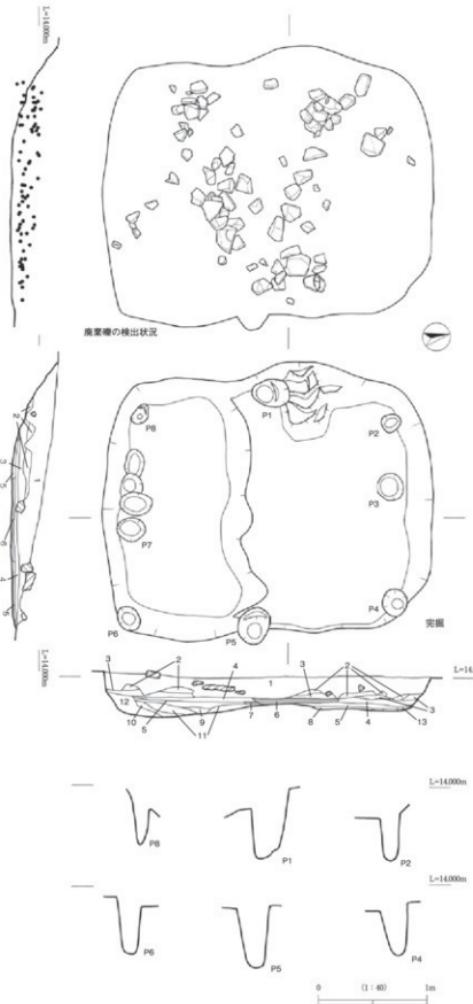
**形状・規模** 平面形は南北に長い長方形で、規模は南北304cm、東西247cmである。床面は平坦でなく、南側が10~15cm程度深く掘り下げられていて、段掘り状になる。壁面は、床面からほぼ垂直に立ち上がるが、西側中央部は、地山がスロープ状に掘り残されている。

**埋土** 埋土は13層に分層した。埋土2・4・5及び8は、粘性が強くしまりもよいことから、床面と判断した。床面は貼り床ではなく、床面として利用する際に、叩きしめられたような状況であった。また、埋土6・7は遺

構の中央付近で確認されたが、しまりがなく炭化物を多く含む。堆積状況から、埋土4・5が床面として機能していた際の地床炉と想定される。

南側の段掘り部分には、粘性のあるややしまる埋土が堆積していたが、床として機能していたものか否かは判断できなかった。また、埋土12はP7の埋土である。

**柱穴** 柱穴は8基確認された。P1・P2、P4・P6、P8は、平面形が円形ないし楕円形で、規模は長径20~30cmである。床面からの深さは40~55cmで、しつ



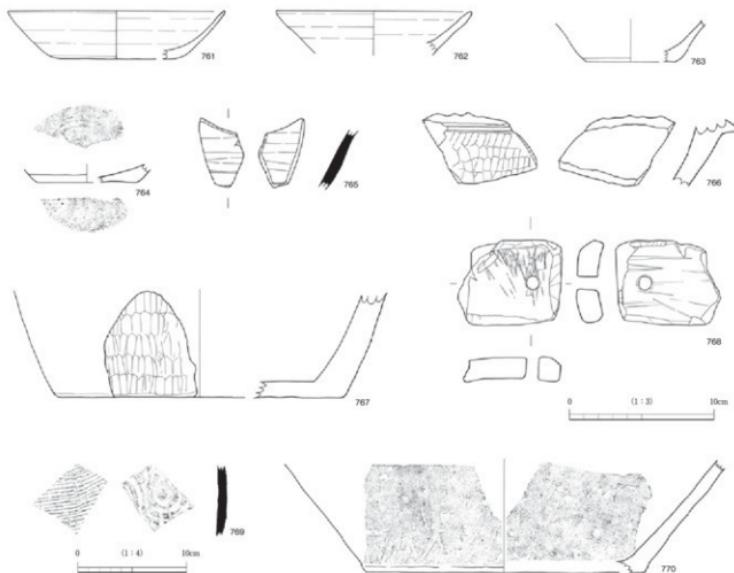
#### 地図注記

- 黒褐色土 (Hue10YR 2/2)  
やや粘性があるが、しまりはない
- 床面1  
黒褐色～褐色土 (Hue10YR 2/2 ~ Hue7.5YR 4/4)  
粘性があり、固くしまる
- 床面2  
褐色土 (Hue10YR 3/4)  
とても粘性が強くよくしまる
- 床面3  
褐色土 (Hue10YR 4/4)  
水分を含むと粘性が強くなる  
固くしまる。10mm程度の軽石が混じる  
上面は上から2段目の地床
- 床面4  
褐色土 (Hue10YR 4/2)  
かなり粘性が強く、固くしまる
- 床面5  
暗褐色土 (Hue2.5Y3/2)  
粘性は弱く、しまりもない  
多量のカーボンを含む。床面2・3の地床が
- 理5にカーボンも多量に含む
- 床面6  
褐色土 (Hue10YR 4/6)  
粘性が強く、しまる
- にふり黄褐色土 (Hue10YR 5/4)  
砂質
- 暗褐色土 (Hue10YR 3/4)  
砂質でやや粘性がある。1~10mm程度の疊合む
- 暗褐色土 (Hue2.5Y 3/3)  
粘性があり、しまる
- 暗褐色土 (Hue10YR 3/3) P7 の理土  
粘性があり、固くしまる
- にふり黄褐色土 (Hue10YR 5/4)  
砂質

No	積式 (cm)		
	貫径	幅解	深さ
P1	32	35	58
P2	20	16	40
P4	25	24	43
P5	30	22	55
P6	24	20	48
P8	20	16	40

主軸	方向	積式 cm	柱間距離	
			cm	尺
	P1 - P2	120	3.97	
	P3 - P8	116	3.84	
	P4 - P5	130	4.30	
	P5 - P6	117	3.87	
NP E	P2 - P4	168	5.56	
	P6 - P8	158	5.23	

第 111 図 SI 7



第112図 SI 7出土遺物

かりと掘り込まれている。埋土はにぶい黄褐色を呈し、やや粘性がある。P 1とP 5は埋土3の直下で、P 2・P 4・P 6・P 8は埋土4の直下で検出された。なお、P 6とP 8は段掘り部分に掘り込まれているが、柱穴に沿って地山が盛り上がったような状況である。そのことから、まず柱穴を掘り込み、その後に、段掘り部分が掘削された可能性が高い。

P 7は埋土3の直下で、4つの柱穴が切り合ったような状況で検出された。掘り込みは浅く、地山までは及んでいない。P 8は完掘後に、深さ2~3cm程度の凹みとして検出された。

**磯** 埋土1に含まれる形で、磯が多数検出された。磯には縄文時代の石器も含まれる。方形竪穴建物としての機能喪失後に、西側から廃棄あるいは流れ込んだものと想定される。

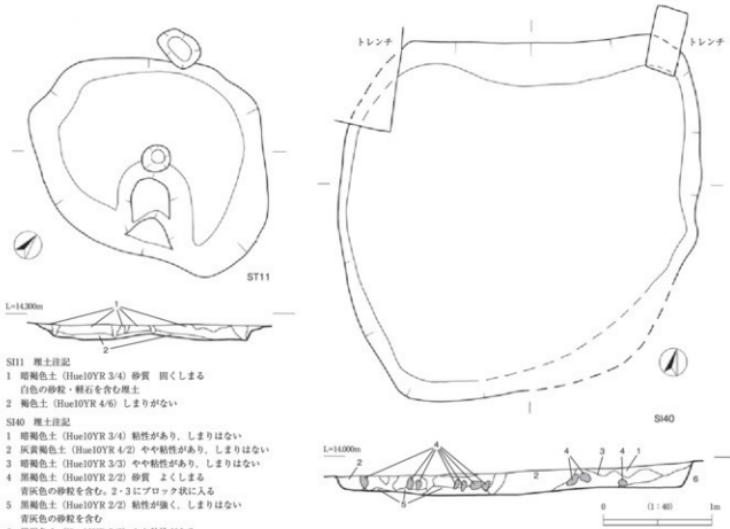
**遺物** SI 7の埋土からは、土器108点、須恵器3点、陶器1点、滑石製品3点が出土した。遺物はいずれも破片である。土器4点、須恵器2点、陶器1点、滑石製品3点を図化した。

761は土師器の壺で、段掘り部分から出土した。胎土に1~3mm程度の砂礫を含む。器面は摩滅していて、底部の切り離し技法は不明である。底部から体部の立ち上がりは丸みを帯び、口縁部に向かって先細りする。

762~764は土師器で、埋土1から出土した。色調は橙色を呈し、胎土に1~2mm程度の白色の鉱物を含む。762・763は壺で、底部から体部の立ち上がりは丸みを帯びて、体部は外傾する。764は底部で、切り離しは系切りによってなされる。

765は須恵器の碗である。769は須恵器の甕で、傾きは不明である。770は陶器の甕である。

766・767は滑石製の石鍋である。766は鶴が巡るタイプである。外面には盤による加工痕が明瞭に残り、全体に煤が付着する。767も外面に煤が付着する。また、割れ口が研磨されていて、再利用が試みられている。768は滑石製石鍋の底部付近を温石として再利用したもので、左側は欠損する。穿孔され、裏面にはその上部に紐擦れ痕と想定される擦痕が認められる。表面には線刻状の加工痕がみられる。



第 113 図 SI11, SI40

(イ) 穴状空造構 (第 113・114 図)

SI11 (第 113 図)

**検出状況** O-24 区, V 層上面で検出された。黒くシミ状に検出され、平面形が不明瞭であった。そこで、検出後にトレンチを設定し埋土の堆積を観察し、平面形を決定した。また、SB119-P5 や他の柱穴に切られる。

**形状・規模** 平面形は歪んだ円形で、規模は長軸 208cm、短軸 194cm である。検出面からの深さは 14cm で、床面は四凸を残し、特に南側は地山が掘り残されていて盛り上がる。壁面は緩やかに立ち上がり、外傾する。

**埋土** 埋土は暗褐色土で、砂質で固くしまっている。埋土は樹根により汚染されている。

**遺物** 遺物は青磁の小破片が 1 点のみ出土したが、詳細は不明である。

SI40 (第 113 図)

**検出状況** M-N-25 区, VI 層上面で検出された。南東側は SK39 に切られる。

**形状・規模** 平面形は隅丸方形で、規模は長軸 328cm、短軸 320cm である。検出面からの深さは 22cm で、断面形は、床面はほぼ水平で、壁面の立ち上がりは垂直に近い。

**埋土** 埋土は粘性のある灰~黒褐色土を基本とする。

埋土 2 及び埋土 3 に、埋土 4 がブロック状に入る。小林哲夫氏によると、埋土 4 にはアカホヤ火山灰とシラスに由来する高溫石英や小岩片、結晶片が含まれることから、アカホヤ火山灰とシラス物質が泥水のように流入し、その後土壌化したものと想定されるという。なお、埋土から遺物は出土しなかった。

SI19 (第 114 図)

**検出状況** O-25 区, VI 層上面で検出された。以下で述べるように、残存状況や、調査時の所見から複数の土坑が切り合ったものである可能性も捨てきれない。東側 2 分の 1 は、II 層が堆積していた凹地の直下から検出されたため、ほとんど残存していない。また、縄文時代の土坑 SK60 と中世の土壤墓 ST62 を切っている。

**形状・規模** 平面形は隅丸方形を呈し、現状での規模は、長軸 305cm、短軸 275cm である。検出面からの深さは 22cm である。断面形は、床面はほぼ水平だが、中央付近に土坑状の凹みがある。壁面は緩やかに立ち上がる。ただし、埋土と地山の区別が困難であったため、床面を把握できたのは土層観察用ベルトと西側の一部のみである。

床面の中央の土坑状の凹みは、規模は長軸 156cm、短軸 122cm、深さは床面から 13cm である。

**埋土** 埋土は 2 層に分層した。埋土 1 を基本とし、中央の土坑状の凹みには埋土 2 が堆積している。床面付近でも硬化面は認められなかった。

**柱穴** 柱穴が埋土 1 の直下で 1 基検出された。規模は長軸 30cm、短軸 26cm で、床面からの深さは 26cm である。埋土は黒褐色で、粘性が強くこじまる。

**遺物** 土器が 61 点、鉄釘が 12 点出土した。SK60 を切っていることから、繩文土器も多数出土した。土師器 7 点と鉄釘 2 点を圓化した。

土師器は柱穴の北で、床面からやや浮いた状態でまとまって検出された。底部の切り離し技法は全て糸切りである。771～773 は坏で、底径に対して口径が大きく、体部は外傾する。器面には内外面ともにナゲが施されるが、外面下端は雜である。774～777 は小皿である。774 は、他の小皿と比較して器高が高い。

鉄釘は埋土 1 から出土した。全て和釘で、779 のよう

に木材が付着するものもある。

## 工 土壙墓・土坑（第 115・116 図）

土壙墓は 2 基、土坑は 3 基検出された。

### ST62（第 115 図）

**検出状況** O-25 区で、VI 層をやや掘り下げた段階で検出された。南側 25cm には ST63 が隣接する。また、検出状況では SI19 に切られるが、検出面が異なるため本来の新旧関係は不明である。

**人骨** は出土していないが、形状及び隣接する ST63 との比較から土壙墓と判断した。

**形状・規模** 平面形は南北方向に長い隅丸長方形を呈し、長軸は N12° W を示す。規模は、長軸 156cm、短軸 98cm であり、検出面からの深さは 32cm である。断面形は、床面はほぼ水平で、壁面はやや外傾する。

**埋土** 埋土は褐色土をベースとして、アカホヤ火山灰やシラスのブロックを含む。

**遺物出土状況** 遺物は、土師器 3 点と洪武通宝 1 点が出土した。遺物は全て床面から浮いた状態で検出されたが、ほぼ同じレベルである。出土状況から、供獻品と判断される。

**土師器** 土師器は、全て底部切り離し技法が糸切りである。780・781 は坏である。780 は外面にヘラケズの痕跡を明瞭に残す。781 は、器形が歪む。782 は小皿である。洪武通宝 783 は洪武通宝である。

### ST63（第 115 図）

**検出状況** O-25 区で、VI 層をやや掘り下げた段階で検出された。平面形はやや角のとれた長方形を呈し、長

軸は N10° W を示す。規模は、長軸 154cm、短軸 83cm、検出面からの深さ 34cm である。断面形は、床面はほぼ水平で、床面から壁面にかけて稜を持って立ち上がる。

**埋土** 褐色土をベースとし、アカホヤ火山灰やシラスのブロックを含む。

**遺物** ST63 では、床面付近で骨片が検出された。また、鉄製の釘が 19 点出土した。実測図では、遺構の西側だけ出土地点を図示しているが、東側から出土したものは、出土地点を記録していないためである。また、供獻品・副葬品と考えられる遺物は出土していない。784 は釜で、埋土中から出土したが、混入物と判断した。

鉄釘の出土状況から ST63 は木棺を伴う土壙墓であつたと判断される。

### SK15（第 116 図）

**検出状況** M-24 区、V 層上面で検出された。複数の遺構との切り合いが認められ、SP80 に切られ、SK 4 を切る。

**形状・規模** 平面形は東側がやや突き出していて、五角形状になる。規模は、長軸 114cm、短軸 89cm、検出面からの深さ 24cm である。床面はほぼ水平で、壁面はほぼ垂直である。

**埋土** 埋土は 3 層に分層した。いずれも粘性が強い。なお、遺物は含まれなかつた。

### SK18（第 116 図）

**検出状況** N-25 区、VI 層上面で検出された。

**形状・規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は、長軸 156cm、短軸 118cm、検出面からの深さ 30cm である。断面形は、床面は一部凹んでいるがほぼ水平で、壁面はやや外傾する。

**埋土** 埋土は 2 層に分層した。遺物は含まれなかつた。

### SK39（第 116 図）

**検出状況** N-24-25 区、VI 層上面で検出された。SI40 と隣接していて、北側の一部は SI40 を切っている。

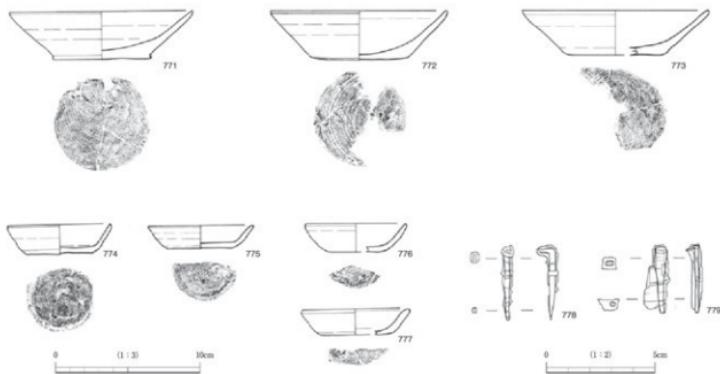
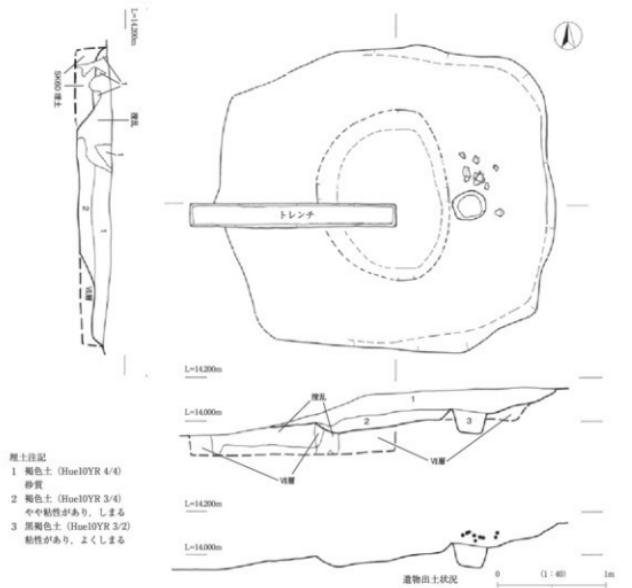
**形状・規模** 平面形は、北東側が突出する歪んだ長方形を呈する。規模は長軸 187cm、短軸 137cm、検出面からの深さ 34cm である。断面形は、床面はほぼ水平で、壁面はやや外傾する。

**埋土** 埋土は暗褐色の砂質土を基本とする。埋土 2 は SI40 の埋土 4 と類似し、アカホヤ火山灰とシラスに由来する高温石英や小岩片、結晶片が含まれる。

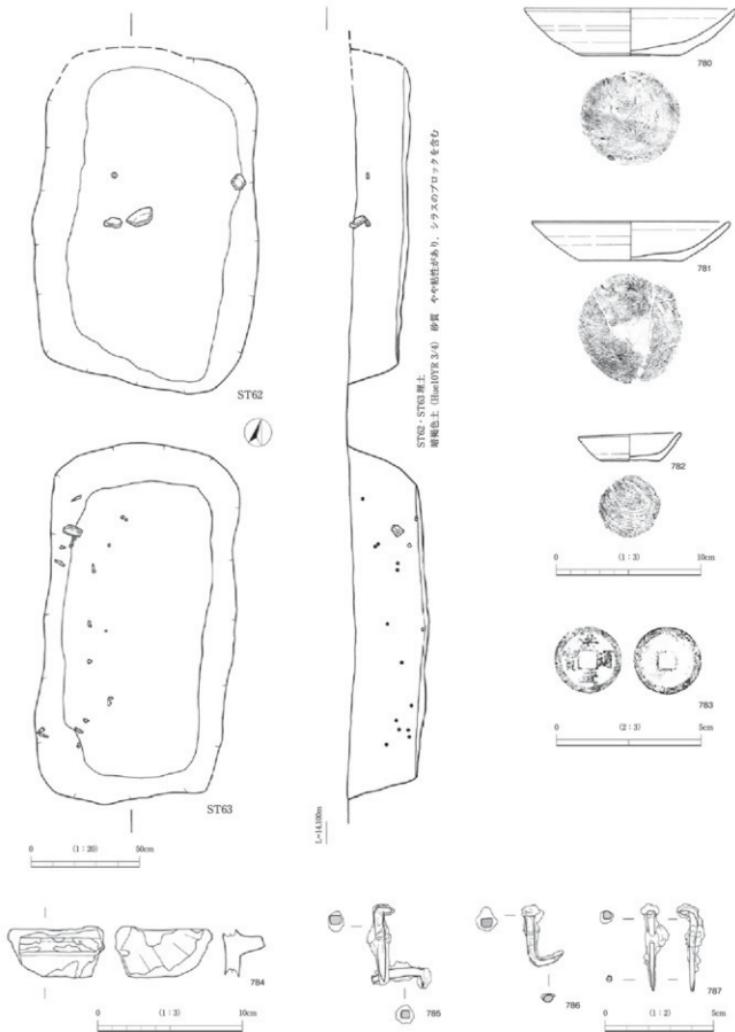
### オ 燃土遺構（第 116 図）

#### SX1・SX3（第 116 図）

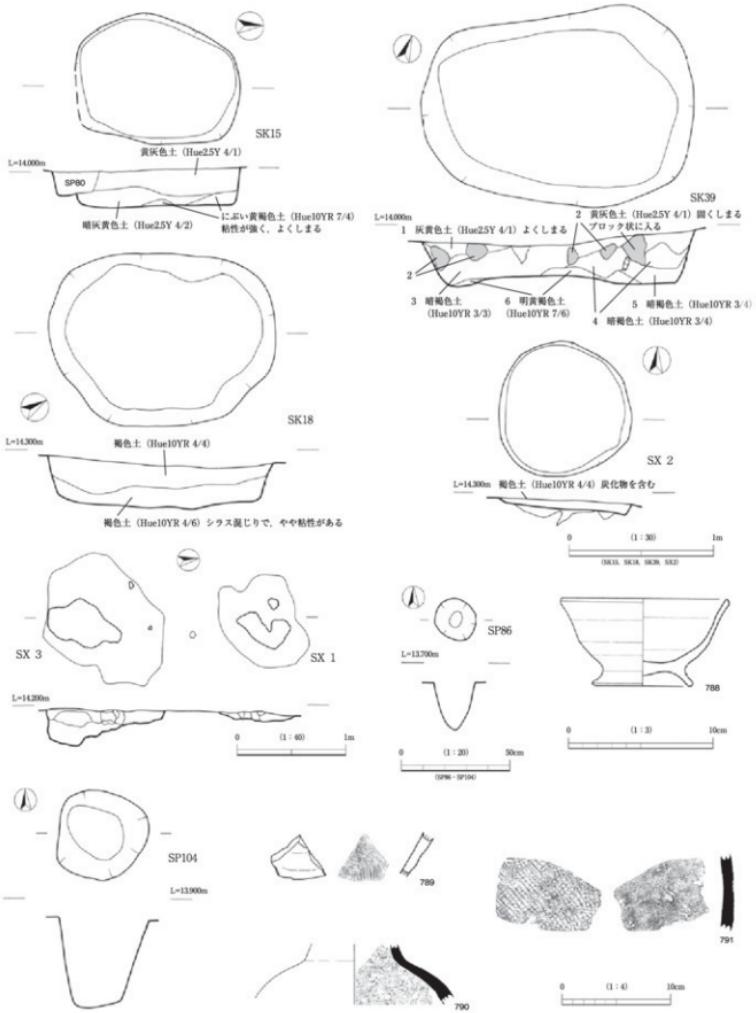
**検出状況** N-23 区、V 層上面で、被熱により赤褐色に変色し、硬化した状態で検出された。周辺から土師器が出土していることから、中世のものであると判断した。



第 114 図 SI19・出土遺物



第 115 図 ST62, ST63・出土遺物



第116図 土坑・柱穴ほか

**赤色化の範囲** SX1 は長軸 84cm、短軸 70cm、検出面からの深さ 9cm で赤色化する。SX 3 は長軸 120cm、短軸 106cm、検出面からの深さ 34cm で赤色化が認められた。

#### カ 炭化物集中箇所（第 116 図）

##### SX2（第 116 図）

**検出状況** N - 23 区、V 層上面で検出された。

**形状・規模** 平面形は円形を呈し、直径約 90cm である。

**埋土** 埋土は褐色で、炭化物を含む。

**遺物** 埋土から土師器の小破片が 4 点出土したが、炭化には至らなかった。

#### キ 柱穴（第 116 図）

中世に該当する柱穴は 60 基検出された。埋土は黒褐色を基本とするが、調査区の東から西に向かってしまりがなくなる。また、P - 26・27 区の柱穴は、埋土がやや明るい。当該期の遺物が出土した 3 基を報告する。

#### SP86（第 116 図）

**検出状況** P - 27 区、VI 層と VII 層の境界付近で検出された。層堆積が不安定な地点で検出されたため、本来の掘り込み面は不明である。

**形状・規模** 平面形は円形で、直径 20cm である。検出面からの深さは 23cm である。

**遺物** 検出面直下で、土師器の塊が検出された。788 は、高台が「ハ」の字状に開き、体部は丸をもって立ち上がり、口縁部は外反する。体部の下半にはヘラによるケズリの痕跡がみられる。底部の切り離し技法は不明だが、高台内面の中央の粘土が盛り上がる。

#### SP104（第 116 図）

**検出状況** P - 26 区、VI 層上面で検出された。

**形状・規模** 平面形は角の取れた方形状となる。規模は一辺が 43cm 程度で、検出面からの深さ 42cm である。

**断面形** 是、床面はほぼ平坦で、壁面はやや外傾する。

**遺物** 789 は瓦質の擂鉢である。

#### SP99（第 116 図）

**検出状況** SP99 は N - 24 区、V 層上面で検出された。

**遺構の実測図** に不備があったため、遺物のみ報告する。

**遺物** 790 は須恵器の壺の頭部である。791 は須恵器の壺で、外面に格子目のタタキが施されている。

#### (3) 遷構外出土遺物（第 117 ~ 119 図）

中世の遷構外における遺物は、包含層及び表土のものがあるが、出土量が少ないので一括して報告する。

#### ア 土師器（第 117 図 792 ~ 808）

792 ~ 807 は土師器である。底部の切り離し技法はいずれも糸切りである。

792 ~ 796 は壺である。器壁が厚めで、底部から体部の立ち上がりは丸みを帯びる。792 は、体部がわずかに内湾しながら口縁部へと至る。793 は口縁部は欠損している。底部内面の外縁に同心円状にナデが施され、底部内面中央が盛り上がる。794 は、体部は直線的で外傾する。口縁部内面に強めのナデが施され、口縁部は先細りする。

795 ~ 796 は底部から、体部にかけての破片である。795 は、体部が外傾するが、796 は、体部が直線的である。

797 ~ 801 は、口径が 8 ~ 10cm の小皿である。798 ~ 801 は、底部から体部の立ち上がりは丸みを帯び、器形は 792 ~ 796 の壺に類似する。798 ~ 799 は、底部内面の外縁に同心円状に強いナデが施される。体部外縁の中程に棱をもって内湾する。800 ~ 801 は、器壁が厚く、口縁部は丸みを帯びる。797 は、底部から体部は棱をもって立ち上がり、体部から口縁部に向かって先細りする。

802 は、色調が暗灰黄色を呈する。底部から体部の立ち上がりに棱を伴い、体部は直線的で、792 と比較して壺部が深い。外面にはヘラケズリの痕跡が明瞭に残る。

803 ~ 805 は、口径が約 7cm の皿である。底部から体部の立ち上がりは棱を伴い、体部は直線的で外傾する。804 ~ 805 は、体部外縁の下端に強いナデが施される。805 は近世以降のもの可能性もある。

806 は、やや大型の壺である。体部が外傾する。807 は大型で、鉢か盤になるものと思われる。胎土に角閃石を多く含む。他の土師器と比較して焼成が堅密である。

808 はこね鉢である。口縁が玉縁状を呈し、体部はやや内湾する。底部が欠損しているため全体の形状は不明だが、東播系の須恵器を模倣したもの可能性がある。

#### イ 滑石製品（第 117 図 809）

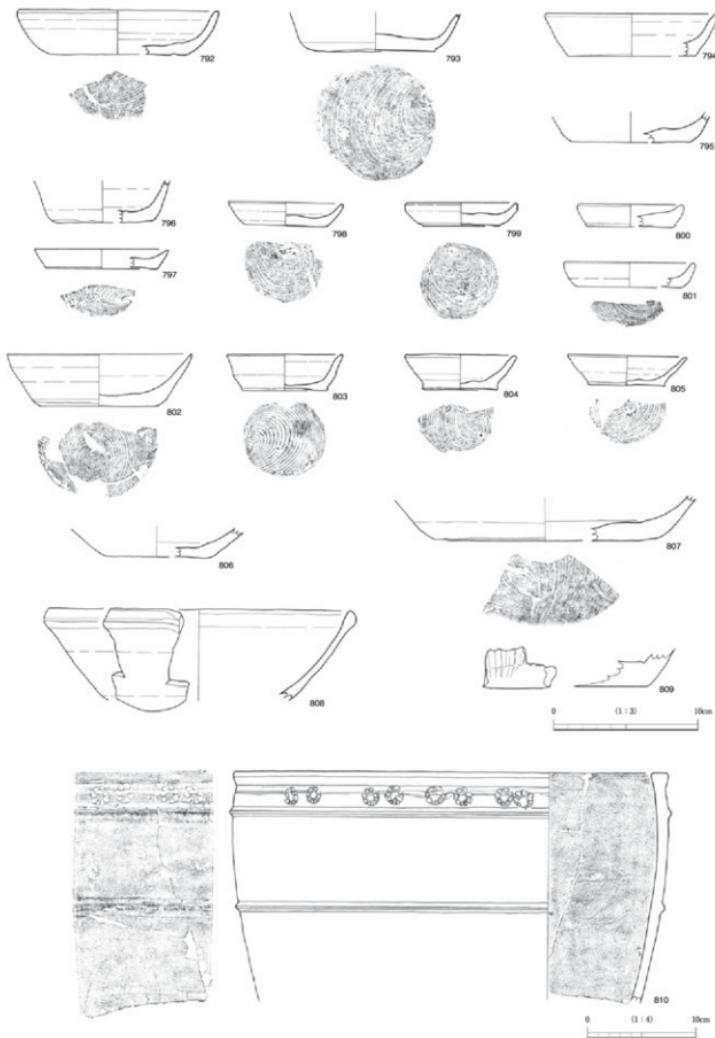
809 は滑石製石鍋の底部である。外面に製作時の工具の痕跡が観察される。

#### ウ 瓦質土器（第 117 図 810）

810 は口径約 40cm で、火鉢である。口縁部は平坦に成形され、口縁部はやや肥厚し、断面形は台形となる。口縁部外縁の口唇から下 4cm と胴部中程には突帯が巡る。また、口縁部と口縁部の突帯の間に、2 つ 1 組の花弁状のスタンプが施文される。

#### エ 白磁（第 118 図 811 ~ 823）

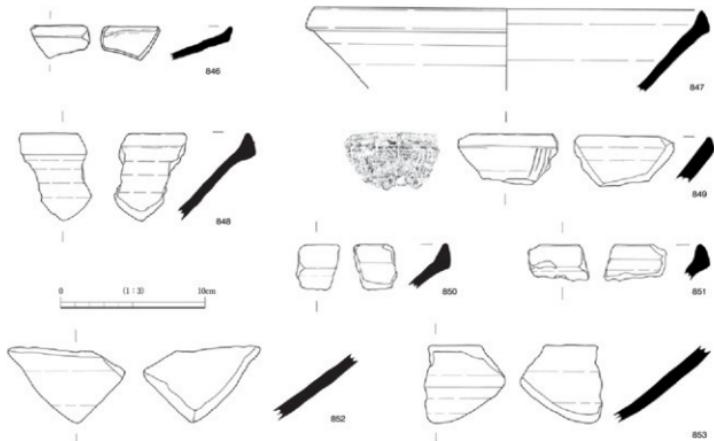
811 ~ 813 は、口縁が玉縁状を呈する白磁の碗で、大宰府編年の白磁碗 IV 類である。814 は、白磁碗 IV 類の底部である。高台が幅広で、削り出しが浅い。施袖は内面のみに認められ、体部外縁と底部には施釉されていない。



第117図 遺構外出土遺物①



第 118 図 遺構外出土遺物②



第119図 遺構外出土遺物③

見込みには、沈線が巡る。

815～818は、法量から皿と判断した。口縁部先端が口禿げとなり、口縁部は外反する。大宰府編年白磁皿Ⅱ類に該当する。815は、外反が大きい。全面に施釉されると、底部外面は釉薬を工具でのばしている。

819～823は、皿の底部である。819は、高台を持ち、外面には施釉されない。820は、上げ底状になる。

821・822は平底で、底部外面は施釉後に削り取られている。見込みにはヘラ書きで草木文が描かれている。大宰府編年白磁皿Ⅱ類に相当する。

#### オ 青磁(第118図 824～845)

生産地により分類を行ったが、龍泉窯系に比べて同安窯系のものは極めて少ない。

824は、同安窯系の青磁である。小片のため傾きは不明である。外面にはやや目の粗い綫の柳目文が施される。

825・826は龍泉窯系青磁碗Ⅰ類である。外面は無文で、内面には方彫りで劃花文が描かれる。

827～837は、龍泉窯系青磁の碗で、外面には蓮弁文を有するが、内面は無文のものである。827は脇部の小破片で、傾きは不明だが、外面に柳条状の蓮弁文を有する。

828～831は幅広の蓮弁文で中央に稜を持ち、脇部は直線的で口縁部へと至る。龍泉窯系青磁碗Ⅱ類に該当する。832・833は蓮弁の中央に稜はみられない。

835～837は、外面に線引きの蓮弁文が施される。施文が簡略化していて、継縫と波状文を組み合わせて蓮弁

状の文様が構成される。上田秀夫氏による青磁碗B類に該当する。835はやや幅広の蓮弁文が施される。836・837はヘラ先による線描蓮弁文である。836は細綫と剣頭が蓮弁としての単位を意識していない。834は、外面にやや崩れた雷文が施される。

838～845は底部である。838・839・843は、高台は断面四角形で、削り出しが浅く、底部は肉厚になる。

大宰府編年青磁碗Ⅱ類である。見込みには、838・839には草花文が、843には幾何学文が刻印される。

840は、施釉が内部にまで及ぶ。見込みには「寿」の印刻が見られる。841は、小型で皿の可能性もある。

844・845は、線描の蓮弁文が施される。844は見込みに文字状の刻印が施される。845は、見込みの釉が削り取られる。

#### カ 須恵器(第119図 846～853)

846～853はこね鉢で、産地は全て東播系のものである。846は、外輪が強いため、口縁部付近で口が開くタイプであると考えられる。847・848は外面と口縁部内面にナデによる調整が施されている。

849は外面と口縁部内面にナデによる調整が施されている。外面の一部には櫛状の工具によるヘラ記号がみられる。850は、外面と口縁部内面にナデによる調整が施されている。851は、外面と口縁部内面にナデによる調整が施されており。全体的に丁寧に作られている。852・853は脇部である。内面は使用により摩滅する。

## 5 近世ほかの調査

### (1) 調査の概要（第120図）

近世の遺構は、K・L－23・24区で土壙墓15基と、溝状遺構1条が検出された。遺構は全て、表土直下のシラス上面（青層）で検出された。K・L－23・24区周辺は、調査直前まで畠地として利用されていた。また、近隣の住民の方によると、平成以降に大規模な造成が行われたということである。したがって、本来の遺構掘り込み面は、遺構検出面よりも數十cmから数百m上である。

遺構の調査は、他の時代の調査と同様に、平面プランの確定後に検出状況の記録写真を撮影した。ただし、土壙墓の数基と、溝状遺構の一部については、調査の当初、擾乱と判断し平面プランを確定せずに掘り下げを行ったため、検出状況の記録写真を撮影していない。

土壙墓からは、人骨、錢、釘が出土した。人骨と錢については、検出状況の写真撮影と実測を行った後に取り上げを行った。釘については、理土から多数出土したため、一定の本数を検出した段階で検出状況の写真を撮影し、その後は釘の取り上げと掘り下げを併行して行った。なお、釘の取り上げ方はトータルステーションを用いて出土地点を記録しながら行ったが、木棺の構造を想定させるような出土状況ではなかったため、図示していない。なお、出土人骨の鑑定は鹿児島女子短期大学竹中正巳氏に依頼した。

溝状遺構（SD36）については、土層観察用のベルトを2か所設定し、掘り下げを行った。

土壙墓群とSD36は、南西から北東へ向かって弧を描くように配置されていて、SD36は土壙墓群を区画するための何らかの施設であったと想定される。また、土壙墓群及びSD36は、北に向かって調査区外へ拡がる可能性が高い。

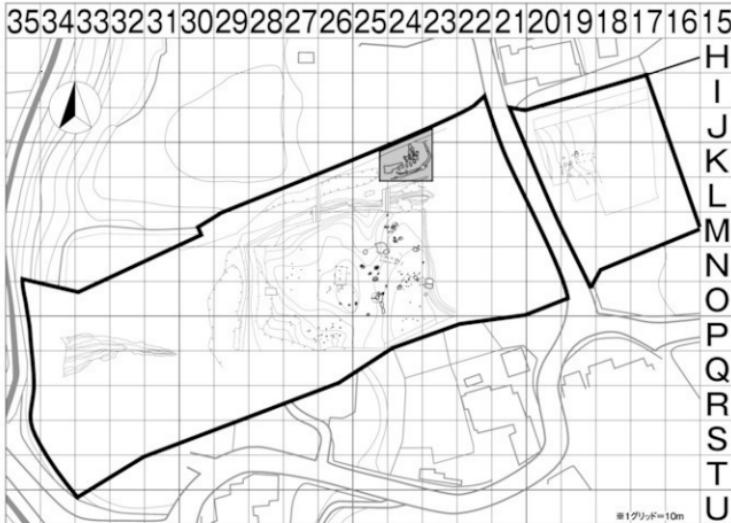
### (2) 遺構

#### ア 溝状遺構（第121図）

#### SD36（第121図）

検出状況・形状 SD36は、K・L－23・24区、Ⅶ層上面で検出された。南西から北西に向かって弧状に形成されている。遺構の南端は自然に消滅し、北端は調査区境界付近で擾乱を受ける。

**埋土** 大部分は削平により消滅している。検出面からの深さは最大でも30cm程度である。埋土は暗褐色でⅡ層に類似する。なお埋土中から遺物は出土しなかった。



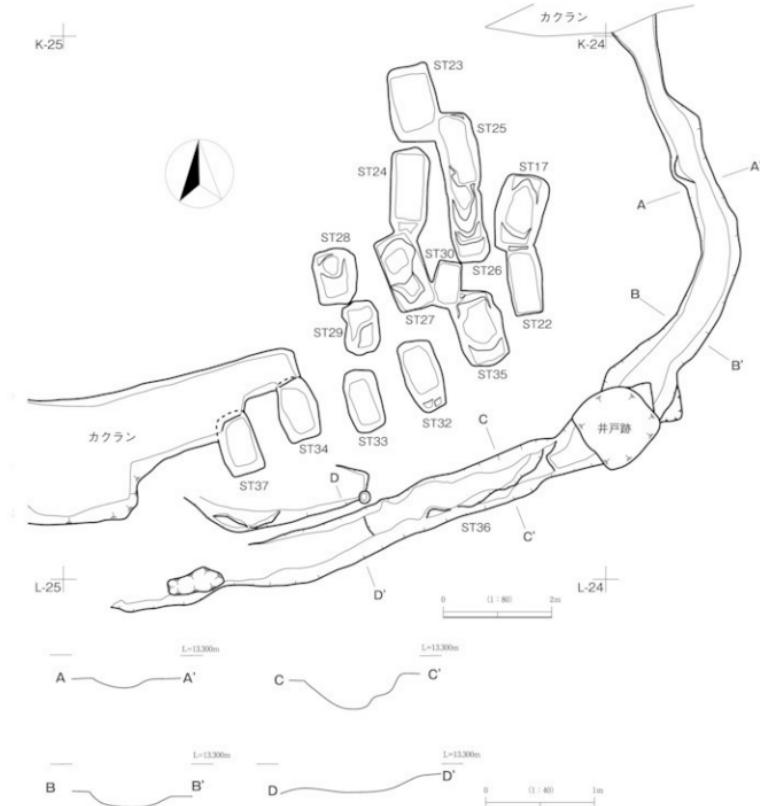
#### イ 土壙墓（第122～130図）

土壙墓は15基検出された。その内9基から埋葬人骨や骨片、歯が検出された。人骨が検出された9基を中心紹介する。

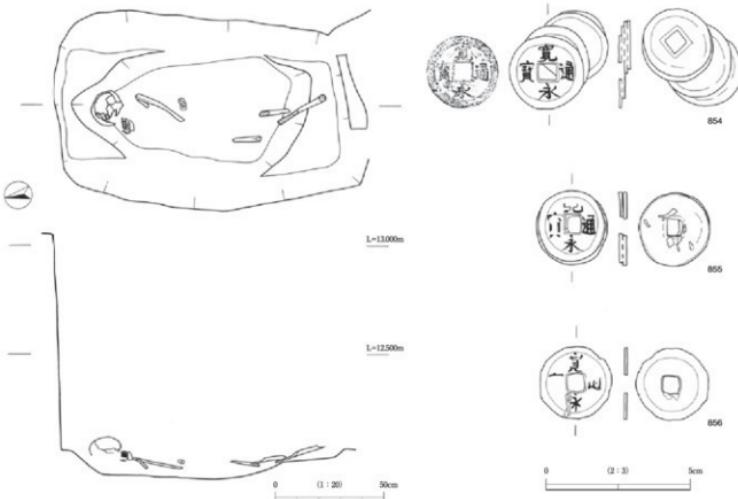
平面形態は全て長方形であり、長軸方向は全て北方向である。検出面からの深さが約80～120cm程度の深いもの(ST17, 22～27, 35)と、30～60cm程度の浅いもの(ST28～30, 32～34, 37)の2パターンがみられる。

墓壙は、深いものと浅いもの一部は埴層まで掘り込んでいる。断面形は、床面がやや凹むものが多い。それは人体の腐食によって汚染された地山を、調査時に掘り下げてしまったためであると考えられる。したがって、本来の床面は平坦であったと考えられる。

墓壙埋土からは合計159点の釘が出土した。釘は全て鉄製の和釘であり、木材が付着しているものがみられる。さらに、墓壙の平面形態が全て長方形であることを考慮



第121図 土壙墓群・SD36



第122図 ST17・出土遺物

すると木棺であった可能性が高い。

土壙墓からは、六道銭と考えられる銭が出土している。銭はほとんどが銅銭で、鉄銭はわずかに含まれる。銅銭については、判読できたものは全て「寛永通寶」である。「寛」と「寶」の書体によりいわゆる「古寛永」と「新寛永」に分類し、「新寛永」はさらに背面に「文」の文字があるものを「文銭」とした。

人骨が出土しなかった土壙墓で、ST29, ST32, ST33, ST37からも寛永通寶が出土した。土壙墓群から出土した釘と、ST29, ST32, ST33, ST37から出土した寛永通寶は、第130図に一括で掲載した。

#### ST17 (第122図)

**検出状況・形状・規模** K-24区、Ⅷ層上面で検出された。平面形態は長軸140cm×短軸88cmの長方形を呈する。長軸方向はN10°Eである。床面の中央付近はやや凹むが、上述のような理由で本来は平坦であったと考えられる。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。検出面からの深さは112cmである。なお、墓壙の南側は隣接するST22に切られている。

**遺物** 墓壙からは人骨1体分、寛永通寶7枚、釘17点が出土した。人骨は成人で、性別は男性である。埋葬形態は

頭位を北にした横臥屈葬であり、顔は西に向かっていた。寛永通寶は墓壙の中央付近の、埋葬人骨の胸付近から出土した。銘文を確認できたものは全て「新寛永」である。

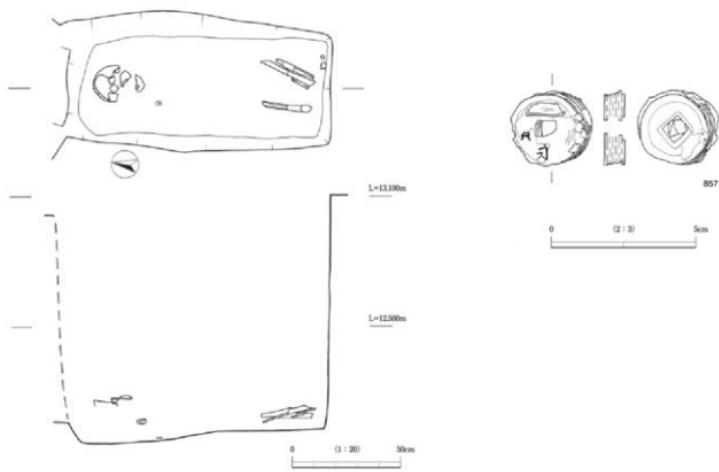
#### ST22 (第123図)

**検出状況・形状・規模** K-24区、Ⅷ層上面で検出された。平面形態は長軸135cm×短軸65cmの長方形を呈する。長軸方向はN10°Wである。断面形態は、床面の北側がやや凹み、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。検出面からの深さは109cmである。

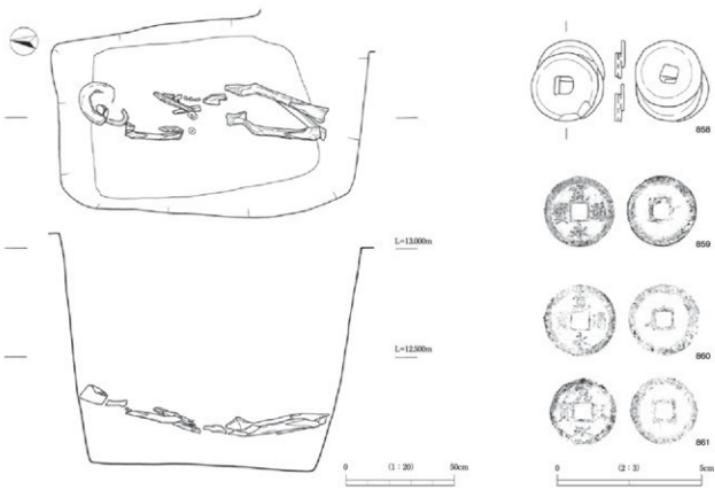
**遺物** 墓壙からは人骨1体分、寛永通寶7枚、釘21点が出土した。人骨は成人で、性別は女性である。埋葬形態は頭位を北にした横臥屈葬である。寛永通寶は、7枚が密着した状態で胸付近から出土した。857の一番上のものは「新寛永」である。

#### ST23 (第124図)

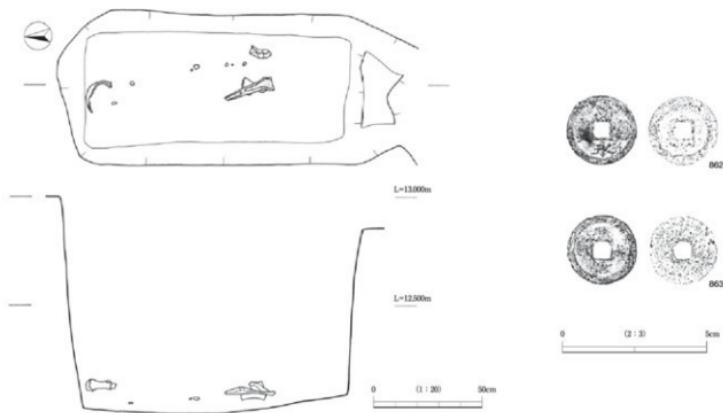
**検出状況・形状・規模** K-24区、Ⅷ層上面で検出された。平面形態は長軸140cm×短軸88cmの長方形を呈する。長軸方向はN8°Wである。断面形態は、床面はほぼ平坦であり、壁面はやや開き気味に立ち上がる。検出面からの深さは109cmである。人骨の検出状況か



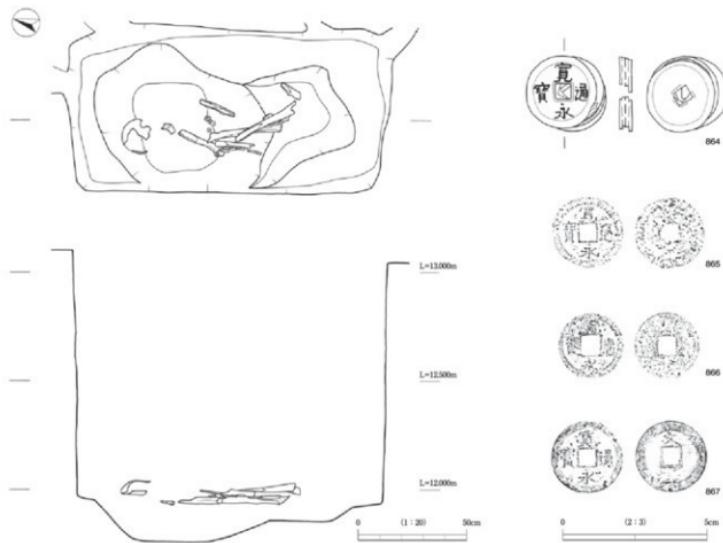
第 123 図 ST22・出土遺物



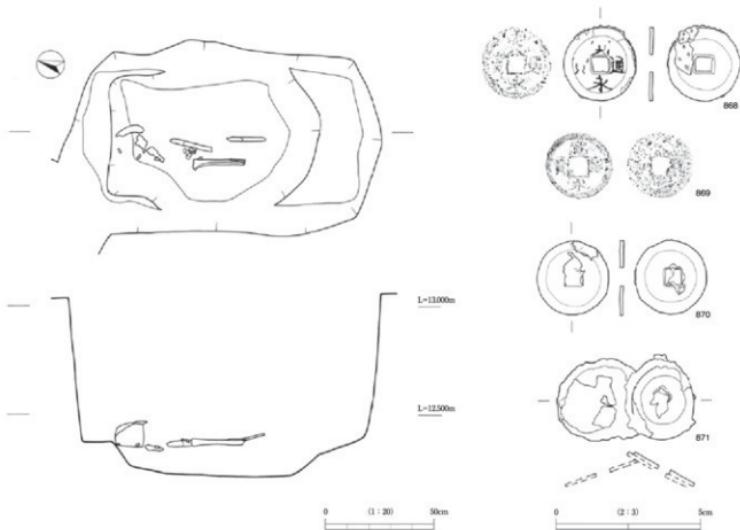
第 124 図 ST23・出土遺物



第125図 ST24・出土遺物



第126図 ST27・出土遺物



第127図 ST35・出土遺物

ら、本来の床面は、検出面から80~85cm程度の深さで、ほぼ水平な面であったと想定される。

**遺物** 墓壙からは人骨1体分、寛永通寶6枚、釘14点が出土した。人骨は老年の女性で、埋葬形態は頭位を北にした横臥屈葬である。寛永通寶は墓壙の中央で、埋葬人骨の腹部付近から出土した。確認できたものは全て「新寛永」である。

#### ST24(第125図)

**検出状況・形状・規模** K-24区、VII層上面で検出された。平面形態は長軸150cm×短軸66cmの長方形を呈する。長軸方向はN3°Eである。断面形態は、床面がほぼ平坦であり、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。検出面からの深さは101cmである。

**遺物** 墓壙からは人骨1体分、寛永通寶2枚、釘10点が出土した。人骨は男性で、頭位を北に埋葬されている。年齢及び埋葬形態は不明である。寛永通寶は墓壙から出土したが、出土地点は不明である。862は「古寛永」で、863は「新寛永」である。

#### ST27(第126図)

**検出状況・形状・規模** K-24区、VII層上面で検出さ

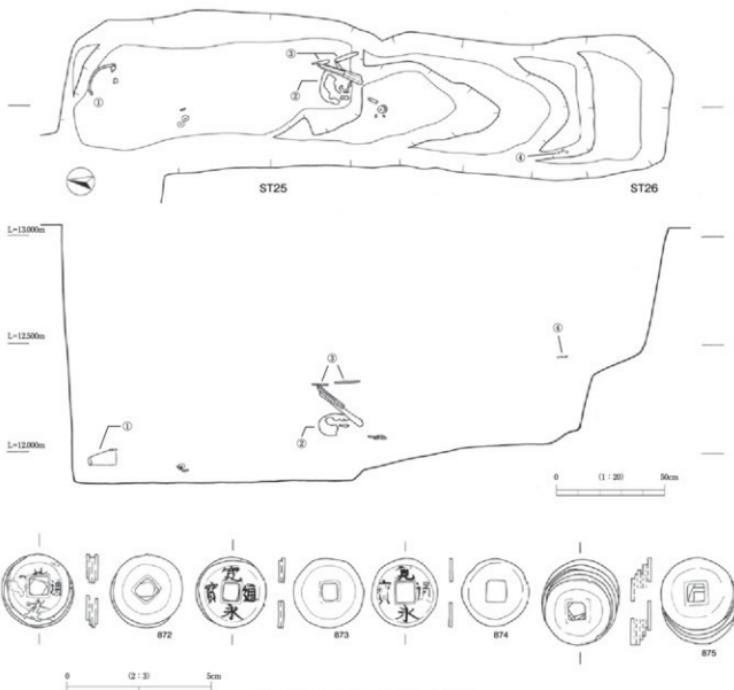
れた。平面形態は長軸146cm×短軸75cmの長方形を呈する。長軸方向はN25°Wである。断面形態は、中央が2段に凹み、壁面の立ち上がりはほぼ垂直である。検出面からの深さは128cmである。

**遺物** 墓壙からは人骨1体分、寛永通寶7枚、釘9点が出土した。人骨は老年の男性と考えられる。埋葬形態は頭位を北にした横臥屈葬で、顔は西に向かっていた。検出状況では右肘の上に右膝が重なり、さらに右膝の上に左膝が重なっていた。寛永通寶は墓壙の中央付近から出土した。確認できたものは全て「新寛永」であり、867は「文銭」である。

#### ST30(第129図)

**検出状況・形状・規模** K-24区、VII層上面で検出された。平面形態は長方形を呈し、規模は長軸75cm、短軸53cmで、検出面からの深さ60cmである。他の土壙と比較して小型である。

**遺物** 歯が1点と寛永通寶7枚が墓壙の中央付近から出土した。歯は4歳程度の幼児のものである。寛永通寶は、7枚が付着した状態で出土した。確認出来たものは全て「新寛永」である。また、埋土から鉄釘が10点出土した。



第128図 ST25, ST26・出土遺物

#### ST35（第127図）

検出状況・形状・規模 K-24区、VII層上面で検出された。平面形態は長軸145cm×短軸75cmで、やや不整形な長方形を呈する。長軸方向はN19°Wである。断面形態は、中央がやや凹み、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。検出面からの深さは78cmである。

**遺物** 墓域からは人骨1体分、寛永通寶6枚が出土した。人骨は成人の男性である。埋葬形態は頭位を北にした横臥屈葬であり、顔は西に向かっていた。寛永通寶は墓域の中央付近からやや北よりの地点から出土した。871の内1枚は鉄錢で、それ以外はすべて「新寛永」である。868には布と考えられる繊維が付着している。なお、ST35から釘は出土しなかった。

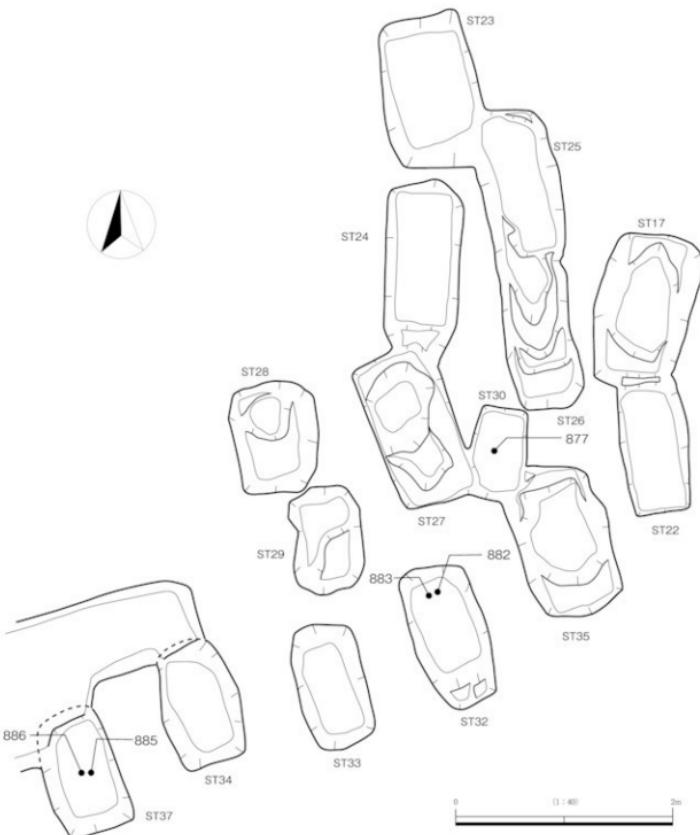
#### ST25・ST26（第128図）

検出状況・形状・規模 K-24区、VII層上面で検出された。ST25の南側の墓壙をST26が切っていて、二つの墓壙が連結し一つの墓壙のようになっている。二つの墓壙をあわせた長軸は280cmである。

それぞれの想定される規模は、ST25が長軸約140cm×短軸74cmで、長軸方向はN9°Wである。ST26は長軸160cm×短軸65cmで、長軸方向はN8°Wである。

断面形態は、ST25の床面が最も深く、ST26の南側が段掘り状になる。検出面からの深さは、ST25は118cm、ST26は100cmである。

**ST25出土遺物** ST25からは、人骨が1体分（第128図①）、寛永通寶が7枚出土した。人骨の残存状況は悪いが、成人の女性と判断される。頭位を北に向けて埋葬



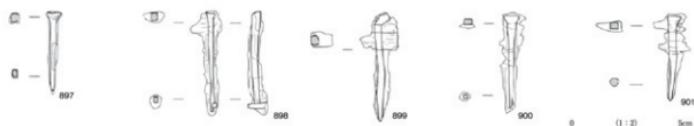
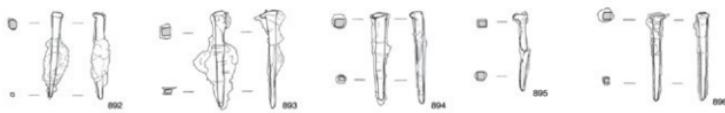
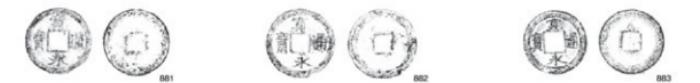
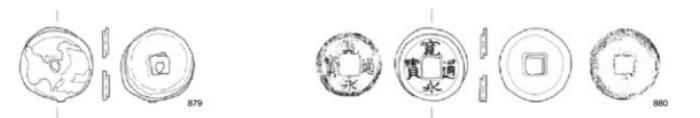
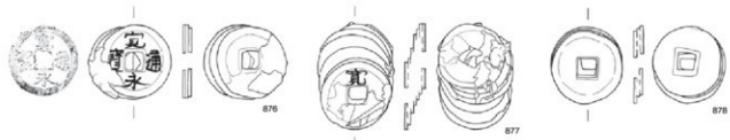
第129図 土坑墓都・遺物出土地点

されている。寛永通寶は墓壙の中央からやや北東の地点で出土した。確認できたものは全て「新寛永」である。  
**ST26 出土遺物** ST26からは、2体分以上の人骨が出土している。人骨②は、熟年の男性で、頭位を北に、顔を西に向いた状態で埋葬されていた。これに伴う銅銭は7枚出土している。7枚は全て付着している。また、最上面の銅銭の文字は摩滅しており、銭種を特定することはできなかった。出土状況から判断して、この人骨②が

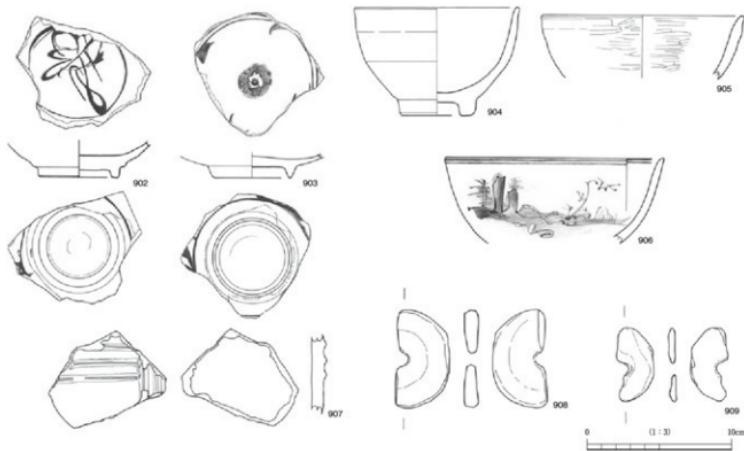
ST26に埋葬されたものである。

**不明遺物** 人骨③と人骨④は、人骨②とは別人のものである可能性が高いが、詳細は不明である。ただし、人骨④の付近からビニールが出土して、さらに、人骨③及び④の出土したレベルと、ST26墓壙の南側の段掘り部分の立ち上がりがほぼ一致する。以上のことから、ST26についても、改葬が行われた可能性が高い。

なお、二つの墓壙からは、合計68点の釘が出土した。



第130図 土墳墓出土遺物



第131図 遺構外出土遺物①

(3) 遺物 (第131・132図)

遺構外から出土した近世及び近代、時代が不明の遺物を一括で紹介する。

902・903は、漳州窯の碗または皿である。ともに施釉は一部高台外面にまで及ぶ。

904・906は肥前系の陶器類である。904は碗である。豊付きを除く全面に施釉されている陶器である。色調は深緑色で、豊付には砂目が残る。906は、外面に山水文を描く鉢である。905は土師質の土器で、器形は天目碗に似る。

908・909は、土師器の底部を加工した土製の筋鉢車状のものである。いずれも半成品であり、風化が著しい。

910～914は、T～34区の近代墓群周辺で出土した遺物である。910・911は、仏具である。土師質で無釉、底部の切り離しは糸切りで、腰部から内溝し、体部から大きく外反して口縁部へ至る。912は、糸切り底でやや開きながら口縁部へと至るものである。土師質で無釉である。913は、肥前系の碗である。2次焼成を受けたために、色調は青白色に近い色に変色している。914は、灰白色を呈し、体部は緩やかに内溝して口縁部で外反する白天目茶碗である。

916は、中国あるいは朝鮮半島産の利器と思われる。平坦な底部からやや内溝しながら立ち上がるもので、色調は暗褐色である。

917は、断面三角形の細い突帯を貼り付け、その1cm

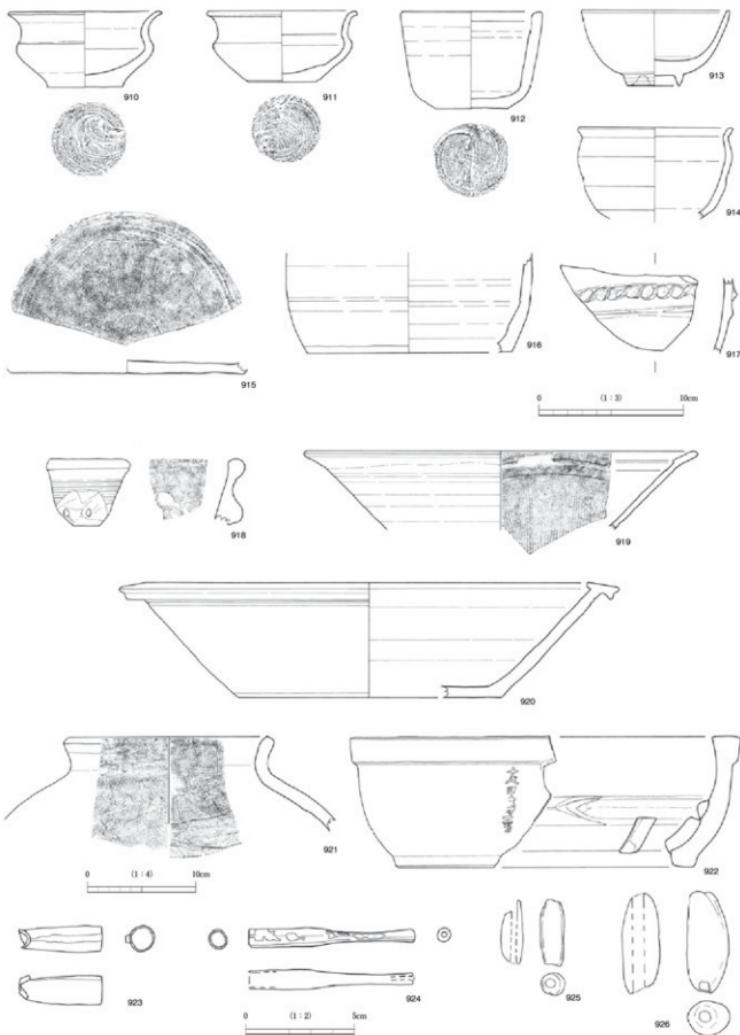
ほど上位に棒状工具による刺目突帯を施す苗代川系の壺の胴部である。915は明茶褐色を呈する陶器の円盤状の底部である、丁寧なナブ調整が施されている。

919は肥前系の陶器の描鉢である。肩部から口縁部は大きく開き、口縁内部が口厚するものである。

922は、レンガあるいは瓦質の材質で、内面の煤の付着が著しいことから、窓または五能状に用いられたと考えられる。近代以降のもので底部径27cm、口縁径37cm、高さ12cmである。内面の下位に約4cmの凝位の突帯が現存で2か所観察できる。間隔からするとこの突帯が4か所あったものと思われる。また、この凝位の突帯上部には、横位の突帯も施されている。外面には「ナベヨ□□工場」のスタンプがある。

煙管 923・924は、煙管である。923の雁首は材質に銅が含まれるために暗緑色に変色している。

土製品 925・926は、筒状の土製品に穴を貫通させたものである。これら2点の土製品については、古代から近世までの広い時期の可能性がある。



第132図 遺構外出土遺物②

第7表 縄文時代の遺物観察表(1)

標印番号	相続番号	遺構	取上番号	器種	部位	文様・器面調整等	色調			土	焼成	備考
							外面	内面	石英 長石 ガラ	他		
10	1	SK4		骨形土器	完形	外 内 未調査	ナデ→沈縞文、擬似縞文、利突文	黄褐色 Hue2.5Y5/4	黄褐色 Hue2.5Y5/4	○ ○ ○	白色織物	良 口径4.7cm、器高9.3cm 胴径10.6cm
11	2	SK4	埋土2-1	深鉢	口縁部	外 内 ナデ	ナデ→眉目状の沈縞文、利突文	黄褐色 Hue2.5Y5/2	にぶい黄褐色 Hue10YR5/4	○	黒雲母 白色織物	良 市来式土器系
	3	SK4	埋土2-1	深鉢	底部	外 内 ナデ	ナデ→沈縞文	黄褐色 Hue2.5Y5/4	にぶい黄褐色 Hue7.5YR6/6	○ ○ ○	白色織物	良 平底
13	9	SK6	一括	深鉢	口縁部	外 内 ナデ	ナデ→沈縞文、利突文	明赤褐色 Hue5YR5/8	明赤褐色 Hue5YR5/8	○ ○ ○		良 市来式土器系
	10	SK6	埋土1-1	深鉢?	口縁部	外 内 ナデ	ナデ→眉目状の利突文、横位の沈縞文	にぶい褐色 Hue5YR6/4	にぶい褐色 Hue10YR6/4	○		良
	11	SK6	埋土1-1	不明	口縁部	外 内 ナデ	ナデ→眉目状の沈縞文	にぶい褐色 Hue10YR7/4	にぶい褐色 Hue10YR6/4	○	白色織物	良
	12	SK6	埋土2-1	深鉢	側面	外 内 ナデ	ナデ	黒褐色 Hue10YR3/1	黒褐色 Hue7.5YR4/6	○ ○ ○		良
16	16	SK8	一括	深鉢	口縁部	外 内 ナデ	ナデ→眉目状の沈縞文、横位の沈縞文	褐色 Hue2.5YR4/1	褐色 Hue2.5YR5/4	○ ○ ○		良
	17	SK8	一括	深鉢	口縁部	外 内 ナデ	ナデ→利突文?	赤褐色 Hue5YR4/8	赤褐色 Hue5YR4/8	○ ○ ○		良
	18	SK8	40	?	口縁部	外 内 ナデ	ナデ・ミガキ→潜頭縞文	明黄褐色 Hue10YR7/4	褐色 Hue7.5YR6/6	○ ○ ○	白色織物	良
	19	SK8	一括	台付皿	口縁部	外 内 ナデ	ナデ→沈縞文、利突文?	明赤褐色 Hue5YR5/6	黒褐色 Hue5YR2/1	○ ○ ○		良 市来式土器系
	20	SK8	26-1	一括	不明	側面	外 内 ナデ	にぶい褐色 Hue10YR5/4	にぶい褐色 Hue10YR6/4	○ ○ ○	茶色織物	良
	21	SK8	22, 24, 25, 29 36, 37, 38	深鉢	側面	外 内 ナデ	ナデ	褐色 Hue2.5YR6/8	明黄褐色 Hue10YR6/6	○ ○ ○		摩滅が著しい
	22	SK8	25	深鉢	側面	外 内 ナデ	ナデ	にぶい褐色 Hue10YR3/4	にぶい褐色 Hue10YR4/3	○ ○ ○	白色織物	良 23と同一個体か?
	23	SK8	10, 13, 18, 20	深鉢	口縁部 -腹部	外 内 ナデ	ナデ→沈縞文	にぶい褐色 Hue2.5YR5/4	にぶい褐色 Hue10YR5/4	○ ○ ○	白色織物	良 松皮式土?
	24	SK8	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7 8, 14, 23, 27	鉢	側面 -腹部	外 内 ナデ	ナデ・ミガキ→ 沈縞文、潜頭縞文、渦巻文	にぶい黄色 Hue2.5Y6/4	黑色 Hue10YR2/1	○ ○ ○		良 錐形土式?
	26	SK55	10	深鉢	口縁部	外 内 ナデ	ナデ→沈縞文	明赤褐色 Hue5YR5/6	明赤褐色 Hue5YR5/6	○ ○ ○		良 市来式土器
19	27	SK55	11	深鉢	側面	外 内 ミガキ	ミガキ	黒褐色 Hue10YR3/1	黒褐色 Hue10YR3/1	○ ○ ○	白色織物	良
	28	SK55	1	深鉢	口縁部	外 内 ミガキ種のナデ	ミガキ種のナデ	にぶい褐色 Hue2.5Y4/3	赤褐色 Hue2.5Y3/3	○	移裡	良 檢出面出土
	29	SK55	5	深鉢	側面	外 内 ナデ	ナデ	にぶい褐色 Hue10YR5/6	にぶい褐色 Hue2.5YR5/3	○		良 内面に保付着
	30	SK55	2	鉢	底部	外 内 ナデ	一	明赤褐色 Hue5YR6/6	褐色 Hue2.5YR6/6	○ ○ ○	黒雲母	良 平底、やや上げ底状の底部、底部の横板あり
25	31	SK55	1	深鉢	口縁部	外 内 ナデ	ナデ	にぶい褐色 Hue2.5Y6/4	にぶい褐色 Hue10YR6/4	○ ○ ○	白色織物	良 燒成相当の深鉢 檢出面出土
	32	SK55	1	深鉢	側面	外 内 ナデ	ナデ	にぶい褐色 Hue10YR7/4	褐色 Hue10YR6/4	○ ○ ○	白色織物	良 檢出面出土
	33	SK33	1	深鉢	口縁部	外 内 ナデ	ナデ→沈縞文、眉目状の沈縞文	褐色 Hue2.5YR4/4	褐色 Hue7.5YR7/6	○ ○ ○		良 市来式土器
	34	SK34	1	深鉢?	側面	外 内 ナデ	ナデ	にぶい褐色 Hue10YR7/4	にぶい褐色 Hue10YR7/4	○ ○ ○		良
28	35	SK37	1	深鉢?	口縁部	外 内 ナデ	ナデ→沈縞文	黑色 Hue2.5Y2/1	黒褐色 Hue2.5Y3/2	○ ○ ○		良
	36	SK37	2	深鉢	側面	外 内 ナデ	ナデ	にぶい褐色 Hue2.5YR5/4	にぶい褐色 Hue2.5YR7/4	○ ○ ○		良 内面に保付着
	37	SK37	6, 7	深鉢	側面	外 内 ナデ	ナデ→沈縞文、貼付文	オリーブ褐色 Hue2.5Y4/4	オリーブ褐色 Hue2.5Y4/4	○	白色織物	良 北九州市山式土器
	38	SK13	10	白付皿 形器	側面	外 内 ミガキ	ミガキ→ 眉目状の沈縞文、横位の沈縞文	褐赤色 Hue5YR4/6	褐色 Hue2.5YR6/6	○ ○ ○	黒雲母 白色織物	良 底径13.0cm 通し穴孔あり 北九州市山式土器
28	39	SK13	1	深鉢	脚台付	外 内 ナデ	ナデ	明赤褐色 Hue2.5YR5/8	明赤褐色 Hue5YR5/6	○ ○ ○	白色織物	良
	40	SK13	28	深鉢	脚台付	外 内 ナデ	ナデ	褐色 Hue2.5YR6/6	灰色 Hue5Y4/1	○ ○ ○	白色織物 茶色織物	良 底径7.7cm
	41	SK13	9	深鉢	底部	外 内 ナデ	ナデ	明赤褐色 Hue2.5YR5/8	明赤褐色 Hue2.5YR5/6	○ ○ ○	白色織物	良 摩滅が著しい
28	42	SK13	14, 23, 24	深鉢	底部	外 内 ミガキ種のナデ	ミガキ種のナデ	にぶい褐色 Hue10YR8/4	にぶい褐色 Hue10YR6/4	○ ○ ○		良

第8表 縄文時代の遺物観察表(2)

擇回 番号	規範 番号	遺構	取上番号	器種	部位	文様・器皿調整等	色調		胎土	長石 カゼ	焼成	備考
							外面	内面				
29	54	SK13	1, 8, 16 17, 18	浅鉢	口縁部 →腹部	外 ナデ→沈縄文、刻目、穿孔 (口脣部) 濃縄文 (瓶底)	黒褐色 Hue25Y3/1	黄灰色 Hue10YR4/1	○ ○ ○	○	良	口径 27.6cm、底径 6.0cm 市来式土器骨行間の 濃縮縄文土器
	55	SK13	12	鉢	口縁部	外 ナデ→沈縄文、濃縄文 内 ミガキ	黒褐色 Hue25Y3/2	黒褐色 Hue25Y3/2	○ ○ ○	○	良	外面に赤色顔料施布
	56	SK13	一括	浅鉢	胴部	外 ミガキ→沈縄文、刻目 内 ミガキ	黒褐色 Hue10YR3/1	にぶい 黃褐色 Hue10YR5/3	○	■ 横石	良	
	57	SK13	5	鉢	胴部	外 ナデ→濃縄純文、楕位の沈縄文 内 ミガキ	にぶい 濃褐色 Hue10YR6/4	にぶい 黑褐色 Hue25YR4/8	○ ○ ○	○	良	縄文の原形が幅広
	58	SK13	22	鉢	胴部	外 ナデ 内 ナデ	褐色 Hue7.5YR6/6	にぶい 黄褐色 Hue10YR7/4	○ ○ ○	○	良	
	59	SK13	6, 29	浅鉢	胴部	外 ミガキ→刻突文 内 ミガキ	黒褐色 Hue10YR3/1	にぶい 黄褐色 Hue10YR3/3	○ ○ ○	○	良	銅部が屈曲する
30	60	SK13	2	鉢	胴部	外 ナデ、ミガキ→濃縮縄文、沈縄文 内 ミガキ	明褐色 Hue25Y7/6	暗オーラー褐色 Hue25Y3/2	○ ○ ○	○	良	
	61	SK13	36, 11	深鉢	口縁部	外 ナデ→沈縄文 内 ナデ	明赤褐色 Hue10YR5/6	にぶい 黄褐色 Hue10YR4/6	○ ○ ○	○	良	市来式土器
	62	SK13	37	深鉢	口縁部	外 ナデ→押引文? 内 ナデ	灰黃褐色 Hue10YR4/2	灰黃褐色 Hue10YR4/2	○ ○ ○	○	白色顔料	良 63と同一個体か?
	63	SK13	21	深鉢	口縁部	外 ナデ→押引文? 内 ナデ	灰黃褐色 Hue10YR4/2	にぶい 黄褐色 Hue10YR4/3	○ ○ ○	○	白色顔料	良 62と同一個体か?
	64	SK13	32	深鉢	胴部	外 ナデ 内 ナデ	褐色 Hue7.5YR4/6	灰黃褐色 Hue10YR5/2	○ ○ ○	○	良	
	65	SK13	25, 28	深鉢	胴部	外 ナデ 内 ナデ	赤褐色 Hue25YR4/8	にぶい 黄褐色 Hue10YR6/4	○ ○ ○	○	良	
32	66	SK13	30	深鉢?	胴部	外 ミガキ 内 ミガキ	明黃褐色 Hue10YR6/6	にぶい 黄褐色 Hue10YR5/6	○ ○ ○	○	良	鉢の可能性がある
	67	SK13	34	深鉢	胴部	外 ナデ 内 ナデ	褐色 Hue10YR4/4	褐色 Hue10YR4/4	○ ○ ○	○	白色顔料	良
	68	SK13	19, 26	深鉢	胴部	外 ナデ 内 ナデ	明赤褐色 Hue25Y5/6	明褐色 Hue10YR3/3	○ ○ ○	○	白色顔料	良
	69	SK20	4	深鉢	口縁部 →腹部	外 ナデ→沈縄文 内 ナデ	褐色 Hue7.5YR4/4	にぶい 暗褐色 Hue7.5YR5/4	○ ○ ○	○	良	市来式土器系
	70	SK20	一括	深鉢	口縁部	外 ナデ→沈縄文 内 ナデ	明黃褐色 Hue10YR6/6	明黃褐色 Hue10YR7/6	○ ○ ○	○	白色顔料	良 塵誠が著しい
	71	SK20	一括	鉢	口縁部	外 ナデ 内 ミガキ模のナデ	にぶい 濃褐色 Hue10YR7/3	にぶい 黄褐色 Hue10YR7/3	○ ○ ○	○	良	18-23 上に船形が幅狭 濃縮縄文土器系
32	72	SK20	8	深鉢	胴部	外 ナデ 内 ナデ	明赤褐色 Hue25YR5/6	にぶい 黑褐色 Hue25YR4/6	○ ○ ○	○	良	
	73	SK20	2	深鉢	胴部	外 ナデ 内 ナデ	褐色 Hue7.5YR4/3	赤褐色 Hue25YR4/6	○ ○ ○	○	良	
	74	SK20	一括	鉢	胴部	外 ミガキ模のナデ 内 ナデ	黄褐色 Hue25Y5/3	黄褐色 Hue25Y5/3	○ ○ ○	○	良	
	75	SK20	一括	鉢	胴部	外 ナデ 内 ナデ	にぶい 黄褐色 Hue10YR7/3	にぶい 黄褐色 Hue10YR7/4	○ ○ ○	○	良	
	76	SK20	一括	不明	胴部	外 ナデ 内 ナデ	にぶい 暗褐色 Hue10YR6/4	にぶい 黄褐色 Hue10YR5/4	○ ○ ○	○	良	焼成が良好で硬質 内面に工具痕
	77	SK20	一括	鉢	胴部	外 ナデ 内 ナデ	褐色 Hue25YR6/6	黄褐色 Hue25YR5/6	○ ○ ○	○	良	
32	78	SK20	一括	鉢	胴部	外 ナデ→条状文 内 ナデ→条状文	にぶい 黄褐色 Hue10YR6/4	褐色 Hue10YR6/6	○ ○ ○	○	黒雲母 滑理	良
	79	SK20	1	深鉢	底部	外 ナデ 内 ナデ	赤褐色 Hue25YR4/6	褐色 Hue10YR4/4	○ ○ ○	○	白色顔料	良 塵滅
	80	SK20	一括	脚台付 深鉢	底部	外 — 内 ナデ	赤褐色 Hue25YR4/8	にぶい 黄褐色 Hue10YR5/4	○ ○ ○ ○	○	良	
	81	SK20	一括	浅鉢?	口縁部	外 ナデ→刻突文 内 ナデ	にぶい 暗褐色 Hue10YR6/3	にぶい 黄褐色 Hue10YR6/4	○ ○ ○	○	良	
	82	SK20	10, 11	浅鉢	胴部	外 ナデ、ミガキ→沈縄文 内 ナデ	浅黄色 Hue25Y7/4	黄褐色 Hue25Y5/4	○ ○ ○	○	良	銅部が屈曲する
	83	SK20	一括	鉢	胴部	外 ナデ→沈縄文、擦消縄文 (渦巻文?) 内 ナデ→腹位の沈縄文	赤褐色 Hue25YR4/6	赤褐色 Hue25YR4/6	○ ○ ○	○	黒雲母 白色顔料	良
32	84	SK20	7	台付組 脚部	脚部	外 ナデ→沈縄文、刻突文 内 ミガキ	褐色 Hue25YR6/6	褐色 Hue5YR6/6	○ ○ ○	○	黒雲母 白色顔料	良 市来式土器

第9表 繩文時代の遺物観察表(3)

種別 番号	規範 番号	遺構	取上番号	器種	部位	文様・器面調整等	色調		胎土	焼成	備考	
							外面	内面	石英 長石 ガゼ	他		
33	85	SK44	1B	深鉢	口縁部	外 内 →沈繩文、継縫の刺文文(二枚貝)	黒褐色 Hue7SYR3/2	暗褐色 Hue7SYR3/2	○ ○ ○	良	市来式土器	
	86	SK44	13	深鉢	口縁部	外 内 ナメ	明褐色 Hue7SYR5/6	黒褐色 Hue7SYR3/1	○ ○ ○	白色粘物	良 市来式土器	
	87	SK44	10	深鉢	側面 底部	外 内 ミガキ	オーリーブ褐色 Hue2SY4/6	オーリーブ褐色 Hue2SY4/4	○ ○ ○	良 詳細不明		
	88	SK44	3	深鉢	口縁部	外 内 ナメ→沈繩文	明赤褐色 HueSYR5/5	暗褐色 Hue7SYR3/3	○ ○ ○	白色粘物 黒色粘物	良 市来式土器	
	89	SK44	一括	深鉢	側面	外 内 ナメ	褐色 HueSYR7/6	褐色 Hue5YR7/6	○ ○ ○	白色粘物	良	
34	94	SK60	4	深鉢	口縁部	外 内 ナメ→刺文文、凹繩文	にぶい黄褐色 Hue10YR5/3	褐色 Hue5YR6/6	○ ○	白色粘物 滑石	良 阿高式土器 流れ込み	
	95	SK60	7	台付瓦 粘土器	口縁部	外 内 ナメ	にぶい黄褐色 Hue10YR7/4	明黃褐色 Hue10YR7/6	○ ○ ○		良 他成が良好で硬質 松山式土器?	
	96	SK60	6	鉢?	側面	外 内 ミガキ ミガキ	にぶい黄褐色 Hue10YR6/4	にぶい黄褐色 Hue2SY4/6	○ ○	黒雲母 白色粘物	良	
	97	SK60	2,3	深鉢	側面	外 内 ナメ ナメ	褐色 HueSYR6/6	にぶい黄褐色 Hue10YR6/4	○ ○		良	
	98	SK60	1,5	深鉢	底部	外 内 ナメ	褐色 Hue7SYR7/6	褐色 Hue7SYR6/6	○ ○	黒雲母 滑石 赤色粘物	良 阿高式土器 流れ込み	
35	99	SK60	9	深鉢	側面 底部	外 内 ナメ→沈繩文、刺文文(二枚貝)	赤褐色 HueSYR4/6	褐色 Hue7SYR4/6	○ ○ ○	黒雲母 白色粘物	良	
	100	SK60	一括	台付瓦 粘土器	口縁部	外 内 ナメ	褐色 HueSYR6/6	褐色 Hue5YR6/6	○ ○ ○		良	
	105	SK61	28	鉢	口縁部	外 内 ナメ→凹点文、渋巻状の突起	にぶい黄褐色 Hue10YR5/3	にぶい黄褐色 Hue5YR5/2	○ ○ ○	滑石	良 阿高式土器 流れ込み	
	106	SK61	1, 2, 3, 5, 7	深鉢 →脚部	口縁部 →脚部	外 内 ナメ	→脚位の沈繩文、'V'字状の沈繩文	暗赤褐色 HueSYR3/4	暗赤褐色 Hue5YR4/3	○ ○ ○	白色粘物	良 北九島山式土器
	107	SK61	32	深鉢	口縁部	外 内 ナメ	オーリーブ褐色 Hue2SY4/3	褐色 Hue7SYR4/4	○ ○ ○	白色粘物	良 市来式土器系	
36	108	SK61	48	深鉢	側面	外 内 ナメ	にぶい褐色 Hue7SYR5/4	灰黃褐色 Hue7SYR4/2	○ ○ ○	輝石	良	
	109	SK61	56	深鉢	側面	外 内 ナメ	暗褐色 Hue10YR3/3	褐色 Hue10YR4/4	○ ○ ○	滑石	良 阿高式土器 流れ込み	
	110	SK61	42	深鉢	口縁部	外 内 ミガキ	灰黃色 Hue2SY6/2	褐色 Hue2SY2/1	○ ○ ○	粘物	良 北九島山式土器	
	111	SK61	5, 30	鉢	口縁部	外 内 ミガキ	→刺文文、沈繩文(口唇部) →沈繩文、沈繩文(口縁部)	にぶい褐色 Hue7SYR5/3	にぶい褐色 Hue7SYR5/4	○ ○ ○	黒雲母 白色粘物	良 初期の縄帶土器
	112	SK61	6	鉢?	側面	外 内 ミガキ	黒褐色 Hue10YR3/1	にぶい黄褐色 Hue10YR5/4	○ ○ ○	白色粘物	良	
37	113	SK61	49	鉢?	底部	外 内 ミガキ	赤褐色 Hue10YR4/6	赤褐色 Hue10YR4/6	○ ○ ○		良	
	114	SK61	41, 51, 55	深鉢	底部	外 内 ナメ	にぶい褐色 Hue10YR5/4	明褐色 Hue7SYR5/6	○ ○ ○	白色粘物	良	
	115	SK49	一括	浅鉢	側面	外 内 ミガキ	黒褐色 Hue10YR2/1	褐色 Hue5YR2/1	○ ○ ○		良 晩期の浅鉢	
	116	SK49	3	深鉢	側面	外 内 ナメ	にぶい褐色 Hue10YR6/4	褐色 Hue10YR5/1	○ ○ ○	黑色粘物 黑色粘物	良 他成が良好で硬質	
	117	SK50	2	深鉢	口縁部	外 内 ナメ	→沈繩文	褐色 Hue2SYR6/8	褐色 Hue7SYR7/8	○ ○ ○	黑色粘物	良 市来式土器
38	120	SK51	2	深鉢	側面	外 内 ナメ	灰黃褐色 Hue10YR5/2	明黃褐色 Hue2SY7/6	○ ○ ○		良	
	121	SK51	一括	浅鉢?	側面	外 内 ナメ	沈繩文、磨消繩文	褐色 Hue7SYR7/6	褐色 Hue7SYR7/8	○ ○ ○		良
	122	SK51	3	鉢?	側面	外 内 ナメ	→沈繩文、磨消繩文	暗褐色 Hue7SYR4/1	暗褐色 Hue7SYR5/4	○ ○ ○	黒雲母 白色粘物	良
	123	SK51	一括	浅鉢	底部	外 内 ミガキ後のナメ	黒褐色 Hue2SY3/1	にぶい黄色 Hue2SY6/3	○ ○ ○ ○	白色粘物	良	
	125	SK42	一括	深鉢	側面	外 内 ナメ	にぶい黄褐色 Hue10YR6/4	明赤褐色 Hue5YR6/6	○ ○ ○ ○	白色粘物	良	
39	126	SK42	1	深鉢	側面	外 内 ミガキ ミガキ	暗黃褐色 Hue2SY5/2	暗黃褐色 Hue2SY4/2	○ ○ ○ ○	白色粘物	良	
	129	SK46	2	深鉢	側面 底部	外 内 ミガキ ミガキ	赤褐色 HueSYR4/6	にぶい黄褐色 Hue10YR5/4	○ ○ ○ ○	黒雲母 滑石	良	

第10表 繩文時代の遺物観察表(4)

掲団 番号	掲載 番号	遺構	取上番号	器種	部位	文様・器面調整等	色調		胎土	焼成	備考		
							外側	内面	石英	長石	ガゼ		
45	130	SK69	3	深鉢	口縁部	外 ナデ→沈繩文 内 ナデ	褐色	にふい・黄褐色 Hue7SYR6/6	Hue10YR5/3	○	○	輝石 茶色系物	良 市来式土器系
	131	SK69	一括	深鉢	胴部	外 ナデ 内 ナデ	にふい・黄褐色 Hue7SYR5/4	明黄褐色 Hue10YR4/2	○	○		良	
	132	SK69	一括	鉢?	胴部	外 ナデ 内 ナデ	褐灰色 Hue10YR4/1	黒褐色 Hue10YR4/1	○	○	白色系物 茶色系物	良 外面に赤色顔料帯有	
	133	SK69	4	深鉢	底部	外 ナデ 内 ナデ	明黄褐色 Hue10YR6/6	Hue25YR4/2	○	○	白色系物	良	
48	136	SK32	7	深鉢	胴部	外 ナデ→沈繩文 内 ナデ	明黄褐色 Hue10YR3/1	にふい・褐色 Hue7SYR5/4	○	○	黒墨垂	良	
52	140	SK45	7	碗?	底部	外 ナデ 内 ナデ	褐色	Hue10YR4/4	Hue10YR6/6	○	○	古墳時代の丸底碗の か?	
	141	SK45	1	深鉢	口縁部	外 ナデ 内 ナデ	明黄褐色 HueGYR5/6	褐灰色 Hue7SYR4/1	○	○	白色系物	良 外縁の摩滅が著しい	
	142	SK45	4.5.一括	深鉢	口縁部 一部部	外 ナデ→沈繩文 内 ナデ	褐灰色 HueSYR2/4	にふい・黄褐色 Hue10YR5/4	○	○	良		
	143	SK45	3	深鉢	口縁部	外 ナデ→沈繩文 内 ナデ	にふい・黄褐色 Hue10YR5/3	にふい・黄褐色 Hue10YR5/4	○			良	

第11表 繩文時代の遺物観察表(5)

掲団 番号	掲載 番号	出土地点	層	器種	部位	文様・器面調整等	色調		胎土	焼成	備考		
							外側	内面	石英	長石	ガゼ		
	144	P - 24 IX	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ→凹繩文 内 ナデ	赤褐色	明褐色 Hue25YR3/6	○	○		良 河内式土器	
	145	O - 27 - 28 IX	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ→位の凹繩文 内 ナデ	にふい・黄褐色 Hue10YR5/4	にふい・黄褐色 Hue10YR5/4	○	○	滑石	良 河内式土器	
	146	SD38	下	深鉢	口縁部	外 ナデ→位の凹繩文 内 ナデ	灰黃褐色 HueSYR4/2	褐色 Hue10YR4/4	○	○		良 河内式土器	
	147	N - 26 IX	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ→位の凹繩文 内 ナデ	暗褐色 HueSYR3/2	にふい・赤褐色 HueSYR4/3	○	○		良 河内式土器	
	148	SD38	下	深鉢	口縁部	外 ナデ→四繩文 内 ナデ	にふい・褐色 Hue7SYR5/4	にふい・褐色 Hue7SYR5/4	○	○		良 河内式土器	
	149	N - 26 IX	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ→四繩文 内 ナデ	明赤褐色 Hue25YR5/4	にふい・褐色 Hue7SYR5/4	○	○		良 南福寺式土器	
	150	P - 24 IX	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ→凹繩文 内 ナデ	褐色	Hue7SYR6/6	赤褐色 HueSYR4/8	○	○		良 南福寺式土器
	151	O - 24 IX	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ→凹繩文 内 ミガキ	明赤褐色 HueSYR5/6	にふい・黄褐色 Hue10YR3/3	○	○		良 南福寺式土器, 赤色顔料帯有	
	152	O - 26 IX	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ→凹繩文 内 ミガキ	赤褐色	にふい・赤褐色 Hue25YR5/3	○	○	滑石	良 河内式土器	
	153	O - 27 IX	不明	深鉢	胴部	外 ナデ→機位の凹繩文 内 ミガキ	褐色	HueSYR6/6	にふい・黄色 Hue10YR5/4	○	○		良 南福寺式土器
	154	O - 25 IX	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ→刺突文(突起部) 内 ナデ	にふい・黄褐色 Hue10YR5/4	褐色 Hue10YR4/1	○	○		良 山武式土器	
	155	N - 25 IX O - 27 IX	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ→刺目状の沈繩文(口縁部) 内 ナデ	黒褐色 Hue10YR3/1	黒褐色 Hue10YR3/1	○	○		良 市来式土器系	
	156	M - 25 IX	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ→刺目状の沈繩文 内 ナデ	にふい・赤褐色 Hue10YR4/4	明赤褐色 Hue10YR5/8	○	○		良 市来式土器系	
	157	N - 24 IX	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ→刺目状の沈繩文 内 ナデ	褐色	Hue7SYR6/6	褐灰色 Hue10YR4/1	○	○		良 市来式土器系
	158	N - 23 IX	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ→刺目状の刺突文(口縁部) 内 ナデ	黒褐色 Hue10YR5/8	明黄褐色 Hue10YR6/6	○	○		良 市来式土器系	
	159	N - 26 IX	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ→刺目状の刺突文(口縁部) 内 ナデ	暗赤褐色 Hue7SYR2/4	赤褐色 Hue5YR4/8	○	○		良 市来式土器系	
	160	O - 24 IX	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ→刺目状の刺突文(口縁部) 内 ナデ	にふい・赤褐色 Hue10YR4/3	褐色 Hue5YR6/6	○	○		良 市来式土器系	
55	161	N - 27 IX	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ→沈繩文 内 ナデ	にふい・黄褐色 Hue7SYR5/4	黒褐色 Hue7SYR3/1	○	○		良 市来式土器系	
	162	N - 24 IX	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ→刺目状の刺突文 内 ナデ	明黄褐色 Hue7SYR5/6	明褐色 Hue5YR5/6	○	○		良 市来式土器系	
	163	O - 25 IX	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ→「S」字状の駒付文 内 ナデ	にふい・褐色 Hue7SYR5/4	褐色 Hue5YR6/6	○	○		良 市来式土器系	

第12表 縄文時代の遺物観察表(6)

標団 番号	規範 番号	出土地点	層	器種	部位	文様・器面調整等	色調		胎土	焼成	備考			
							外	内						
							石英	長石						
	164	N - 24 区	Ⅲ	漆鉢	口縁部	外 ナデ→斜目 (口唇部) 斜位の沈縞文 (口縁部) 内 ナデ	赤褐色 Hue5YR4/6	赤褐色 Hue5YR6-6	○ ○ ○	良	東北式土器系			
	165	SF80	堆土	漆鉢	口縁部	外 ナデ→斜目 (山唇部) 斜位と斜位の沈縞文 (口縁部) 内 ナデ	にふい褐色 Hue5YR6-3	にふい褐色 Hue5YR6-3	○	良	東北式土器系			
	166	N - 24 区	Ⅲ	漆鉢	口縁部	外 ナデ→貝殻刺突文 (口縁部・口特部) 内 ナデ	褐色 Hue7SYR4/6	褐色 Hue7SYR4/6	○ ○ ○	良	東北式土器系			
	167	SD38	下	漆鉢	口縁部	外 ナデ→沈縞文、貝殻刺突文 内 ナデ	褐色 Hue5YR6-6	褐色 Hue5YR6-6	○ ○ ○	良	東北式土器系 御手洗C式土器の影響			
	168	O - 24 区	Ⅲ	漆鉢	口縁部	外 ナデ→貝殻刺突文 (口唇部) 沈縞文、貝殻刺突文 (口縁部) 内 ナデ	明褐色 Hue7SYR5-6	黃褐色 Hue10YRS-6	○ ○ ○	良	東北式土器系 御手洗C式土器の影響			
	169	N - 24 区	Ⅲ	漆鉢	口縁部	外 ナデ→貝殻刺突文 内 ナデ	褐色 Hue7SYR6-6	明褐色 Hue10YRS-6	○ ○ ○	良	東北式土器系			
55	170	M-N - 24 区	Ⅲ	漆鉢	口縁部	外 ナデ→貝殻刺突文 内 ナデ	褐色 Hue7SYR3/3	褐色 Hue7SYR3/3	○ ○ ○	良	東北式土器系			
	171	O-P - 25 区	Ⅲ	漆鉢	口縁部	外 ナデ→斜位の沈縞文 内 ナデ	褐色 Hue7SYR3/3	にふい褐色 Hue7YR5/3	○ ○ ○	良	東北式土器系 側面に穿孔あり			
	172	M - 24 区	Ⅲ	漆鉢	口縁部	外 ナデ→斜目付文、斜目状の刺突文 内 ナデ	褐色 Hue5YR6-6	明褐色 Hue10YRS-6	○ ○ ○	良	東北式土器系 北九州市立土器の影響			
	173	SF102	埋土	漆鉢	口縁部	外 ナデ→斜目状の刺突文 内 ナデ	褐色 Hue7SYR5-2	にふい褐色 Hue7SYR5-4	○ ○ ○	良	東北式土器系			
	174	O - 25 区	Ⅲ	漆鉢	口縁部	外 ナデ	にふい褐色 Hue10YR4/3	にふい褐色 Hue10YR5/4	○ ○ ○	良	無文			
	175	P - 23 区	不明	漆鉢	脚部	外 ナデ	明褐色 Hue7SYR5-6	にふい褐色 Hue10YR7/4	○ ○ ○	良	東北式土器系			
	176	O - 24 区	Ⅲ	漆鉢	口縁部	外 ナデ→沈縞文 内 ナデ	褐色 Hue5YR4/8	暗赤色 Hue2SYR3/1	○ ○ ○	良	東北式土器系			
	177	N - 24 区	Ⅲ	漆鉢	口縁部	外 ナデ→沈縞文 内 ナデ	褐色 Hue5YR2/1	にふい褐色 Hue10YR6/4	○ ○ ○	良	東北式土器系			
	178	N - 26 区	Ⅲ	漆鉢	口縁部	外 ナデ→「W」字状の附付文 羽状の沈縞文 内 ナデ	にふい褐色 Hue10YR5/4	にふい褐色 Hue2SYR6/3	○ ○ ○	良	北九州市立土器			
	179	O - 26 区	Ⅲ	漆鉢	口縁部	外 ナデ→「W」字状の附付文 羽状の沈縞文 内 ナデ	明褐色 Hue2SYT7/6	浅褐色 Hue2SYT7/4	○ ○ ○ ○	良	北九州市立土器			
56	180	O - 26 区	I	漆鉢	口縁部	外 ナデ→「W」字状の附付文 神し引状の螺旋模様 内 ナデ	にふい褐色 Hue2SYR6/4	にふい褐色 Hue2SYR6/4	○ ○ ○ ○	白色粘物	北九州市立土器			
	181	O - 26 区	Ⅲ	漆鉢	口縁部	外 ナデ→斜目状の沈縞文 (口唇部) 斜位の沈縞文 (口縁部) 内 ナデ	暗灰褐色 Hue2SY5/2	にふい褐色 Hue2SY6/3	○ ○	輝石 白色粘物	北九州市立土器			
	182	P - 23 区	不明	漆鉢	口縁部	外 ナデ→斜位の沈縞文 内 ナデ	褐色 Hue7SYR3/1	褐色 Hue7SYR6/6	○ ○ ○ ○	良	北九州市立土器			
	183	M - 25 区	Ⅲ	漆鉢	口縁部	外 ナデ	にふい褐色 Hue2SY6/3	褐色 Hue2SY5/2	○ ○ ○ ○	良	西平大土器もしくは 太郎山古墳・櫛型?			
	184	N - 24 区	Ⅲ	漆鉢	底部	外 ナデ	にふい褐色 Hue7SYR5/4	にふい褐色 Hue2SYR6/4	○ ○ ○ ○	良	直径 13.4cm			
	185	O - 24 区	Ⅲ	漆鉢	底部	外 ナデ	褐色 Hue7SYR6/6	褐色 Hue7SYR7/4	○ ○ ○ ○	良	底部に圧痕あり			
	186	O-P - 28 - 29 区	不明	漆鉢	底部	外 ナデ	褐色 Hue5YR6/3	褐色 Hue7SYR3/1	○ ○ ○ ○	良	底部に圧痕あり			
	187	O-P - 25 区	Ⅲ	漆鉢	底部	外 ナデ	にふい褐色 Hue10YR7/4	明褐色 Hue10YR6/6	○ ○ ○ ○	良	底径 11.0cm			
	188	M - 24 区	不明	漆鉢	底部	外 ナデ	褐色 Hue5YR6/4	にふい褐色 Hue10YR6/4	○ ○ ○ ○	良	底径 12.0cm			
	189	N - 24 区	Ⅲ	漆鉢	底部	外 ナデ	明褐色 Hue7SYR5/8	褐色 Hue7SYR7/6	○ ○ ○ ○	良				
57	190	P - 24 区	Ⅲ	漆鉢	底部	外 ナデ	褐色 Hue7SYR6/6	にふい褐色 Hue10YR6/3	○ ○ ○ ○	良	底径 12.4cm			
	191	P - 24 区	不明	漆鉢	脚部	外 ミガキ 内 ナデ	明赤褐色 Hue5YR5/6	明赤褐色 Hue5YR5/6	○ ○ ○ ○	黒墨 白色粘物	底径 12.0cm			
	192	N - 25 区 O - 27 区	Ⅲ	漆鉢	脚部	外 ナデ	黑色 Hue10YR2/1	褐色 Hue7SYR4/4	○ ○ ○ ○	良				
	193	Q - 31 区	I	漆鉢	脚部	外 ナデ	にふい褐色 Hue7SYR7/4	明褐色 Hue9YR5/8	○ ○ ○ ○	良				
	194	M - 25 区	Ⅲ	漆鉢	脚部	外 ナデ	明赤褐色 Hue5YR5/6	明赤褐色 Hue9YR5/6	○ ○ ○ ○	良				
	195	O - 24 区	Ⅲ	漆鉢	脚部	外 ナデ	赤褐色 Hue5YR4/8	明褐色 Hue9YR5/6	○ ○ ○ ○	良				

第13表 縄文時代の遺物觀察表(7)

擇因 標記 番号	掲載 番号	出土地点	層	器種	部位	文様・器型調整等	色調		胎土		焼成	備考
							外側	内面	石英 石	長石 矽ビ	他	
56	196	M - 25 区	Ⅲ	深鉢	脚部	外 ナデ 内 ナデ	赤褐色 Hue5YR4/6	にぶい赤褐色 Hue5YR4/4	○	○ ○		良
	197	N - 24 区	Ⅲ	深鉢	脚部	外 ナデ 内 ナデ	赤褐色 Hue5YR4/6	明赤褐色 Hue5YR5/6	○	○		良
	198	O - 24 区	Ⅲ	深鉢	底部	外 ナデ 内 ナデ	明赤褐色 Hue5YR5/6	橙色 Hue5YR6/6	○	○		良
57	199	O - 25 区	Ⅲ	鉢	口縁部 下脚部	ミガキ→沈繩文、刺突文。 2箇の穿孔(口唇部) 沈繩文、磨削繩文、 鉗子文(脚部) 内 ミガキ	灰黃褐色 Hue10YR6/2	灰黃褐色 Hue10YR6/2	○	○	茶色系物	口径 34.0cm 縦幅式土器
	200	不明	不明	洗鉢	口縁部	外 ナデ→沈繩文、刺突文 内 ナデ	明黃褐色 Hue10YR7/6	明黃褐色 Hue10YR7/6	○		表面が堅厚する 縦幅式土器	
	201	N - 26 区	Ⅲ	浅鉢	口縁部	ミガキ→沈繩文(口唇部) 磨削繩文(脚部) 内 ナデ	暗灰黄色 Hue25Y4/2	暗灰黄色 Hue25Y4/2	○	○ ○		縦幅式土器
58	202	SD38	中	浅鉢	口縁部	外 ナデ→刺突文、沈繩文、 穿孔(口唇部) 内 ナデ	褐色 Hue7YR6/6	にぶい褐色 Hue7YR6/4	○	○ ○		縦幅式土器
	203	O - 26 区	Ⅲ	鉢	口縁部	ミガキ→沈繩文、竹管状の工具による 刺突文(口唇部) 沈繩文、磨削繩文(脚部) 内 ミガキ	暗灰黄色 Hue25Y4/2	暗灰黄色 Hue25Y4/2	○	○		縦幅式土器
	204	N - 25 区	Ⅲ	鉢	口縁部	外 ナデ→刺突文の追跡 磨削繩文(脚部縦文か?) 内 ナデ	黄褐色 Hue25Y5/6	黄褐色 Hue25Y5/6	○	○ ○		北九極山式土器
59	205	N - 25 区	Ⅲ	鉢	口縁部	外 ミガキ→横位の沈繩文 磨削繩文(脚部) 内 ミガキ	黑褐色 Hue10YR3/1	黑色 Hue10YR1/1	○	○ ○	白色系物	北九極山式土器
	206	N - 24 区	Ⅲ	鉢	口縁部	外 ナデ→刺突文(口唇部) 沈繩文、磨削繩文(脚部) 内 ナデ	明黃褐色 Hue10YR7/6	にぶい黃褐色 Hue10YR6/4	○	○ ○	白色系物	北九極山式土器
	207	P - 24 区	Ⅲ	鉢	口縁部	外 ナデ→磨削繩文 内 ナデ	にぶい黄褐色 Hue10YR7/4	にぶい黄褐色 Hue10YR6/3	○	○ ○		北九極山式土器
58	208	N - 25 区	Ⅲ	鉢	口縁部	外 ナデ→磨削繩文 内 ナデ	にぶい黑色 Hue10YR6/4	にぶい黑色 Hue10YR6/4	○	○ ○		北九極山式土器
	209	P - 24 区	Ⅲ	鉢	口縁部	外 ナデ→沈繩文、穿孔 内 ミガキ	暗灰褐色 Hue10YR5/2	暗灰褐色 Hue10YR5/2	○	○ ○		北九極山式土器
	210	M - 27 区	I	鉢	口縁部	内 ミガキ→沈繩文 内 ミガキ	黑色 Hue25Y2/1	黑色 Hue25Y2/1	○	○ ○	白色系物	芋田式土器
58	211	SD38	下	鉢	口縁部	外 ナデ→磨削繩文、沈繩文 内 ナデ	にぶい黑色 Hue10YR6/4	にぶい黑色 Hue10YR5/2	○	○ ○	白色系物	芋田式土器
	212	N - 26 区	Ⅲ	鉢	脚部	外 ミガキ→沈繩文 内 ミガキ	黑色 Hue25Y2/1	黑色 Hue25Y2/1	○	○ ○		縦幅式土器
	213	N - 24 区	Ⅲ	鉢	脚部	内 ミガキ→沈繩文 内 ミガキ	暗褐色 Hue7YR6/6	にぶい褐色 Hue7YR5/4	○	○ ○		縦幅式土器
59	214	O - 25 区	不明	鉢	脚部	外 ナデ→竹管状の工具による刺突文、 錐状の穿孔 内 ナデ	にぶい黃褐色 Hue10YR6/4	にぶい黃褐色 Hue10YR6/4	○	○ ○		縦幅式土器
	215	M - 25 区	Ⅲ	鉢	脚部	外 ナデ→沈繩文、磨削繩文、渋繩文 内 ナデ	明黃褐色 Hue10YR7/6	黃褐色 Hue10YR6/4	○	○ ○	白色系物	縦幅式土器
	216	O - 25 区	Ⅲ	鉢	脚部	外 ナデ→沈繩文、渋繩文 内 ナデ	明赤褐色 Hue25YR5/8	黃褐色 Hue25YR6/6	○	○ ○	黒帶母	縦幅式土器
59	217	N - 24 区	Ⅲ	鉢	脚部	外 ナデ→沈繩文、渋繩文、刺突文 内 ナデ	黑褐色 Hue25YR5/3	黃褐色 Hue25YR5/3	○	○ ○		縦幅式土器
	218	N - 26 区	Ⅲ	鉢	脚部	外 ナデ→沈繩文、渋繩文 内 ナデ	黑色 Hue10YR2/1	にぶい黃褐色 Hue10YR6/4	○	○ ○		縦幅式土器
	219	O - 25 区	I	鉢	脚部	外 ナデ→沈繩文、磨削繩文 内 ミガキ	暗褐色 Hue10YR5/2	暗褐色 Hue10YR4/2	○	○ ○		西式土器
58	220	SD38	下	鉢	脚部	内 ミガキ→悲愁作の沈繩文、磨削繩文 内 ミガキ	暗黃褐色 Hue10YR4/2	暗黃褐色 Hue10YR4/2	○	○ ○		太郎追式土器
	221	L - 19 区	Ⅲ	鉢	底部	外 ナデ 内 ナデ	にぶい黑色 Hue10YR6/3	暗褐色 Hue25Y4/2	○	○ ○	白色系物	良
	222	N - 30 区	I	鉢	底部	外 ナデ 内 ナデ	暗褐色 Hue7YR6/6	にぶい黃褐色 Hue10YR6/4	○	○ ○		良
59	223	不明	I	鉢	底部	外 ナデ 内 ナデ	にぶい黑色 Hue10YR6/4	にぶい黃褐色 Hue10YR6/4	○	○ ○		上げ底状になる 底盤に圧痕あり
	224	N - 24 区	Ⅲ	浅鉢	底部	外 ナデ 内 ナデ	明黃褐色 Hue10YR7/6	にぶい黃褐色 Hue25Y4/3	○	○ ○	上昇底状になる 底盤に圧痕あり	
	225	不明	I	浅鉢	底部	外 ナデ 内 ナデ	黃褐色 Hue25Y4/1	淺黃色 Hue25Y7/3	○	○ ○	黒帶母 白色系物	良
59	226	不明	不明	浅鉢	底部	外 ミガキ 内 ナデ	黃褐色 Hue25Y4/4	黃褐色 Hue25Y5/4	○	○ ○		底部に压痕あり

第14表 縄文時代の遺物観察表(8)

擇団 番号	査載 番号	出土地点	層	器種	部位	文様・器面調整等	色調		胎土	焼成	備考
							外面	内面	石英 長石 角閃 石	他	
59	227	P - 26区	Ⅲ	鉢	底部	外 ミガキ 内 ミガキ	赤褐色 Hue10R5-6	褐色 Hue75YR4/1	○ ○ ○	良	
	228	N - 24区	Ⅲ	鉢	底部	外 ナデ 内 ナデ	明黄褐色 Hue10YR6-6	に赤い黄褐色 Hue10YR7/4	○ ○	黒雲母	良 底部に圧痕あり
	229	N - 25区	Ⅲ	台付皿 盤上部	口縁部	外 ナデ→剥目状の沈織文 (口部) 内 ナデ→沈織文 (側部)	暗褐色 Hue75YR3/4	褐色 Hue75YR4-6	○ ○	良	市来式土器系
	230	N - 24区	Ⅲ	台付皿 盤上部	口縁部	外 ナデ→剥文文 (口縫部) 内 ナデ	明黄色 Hue75YR5-6	に赤い黄褐色 Hue10YR5/4	○ ○ ○	良	市来式土器系
	231	不明	渡浜	白付皿 盤上部	突帯部	外 ナデ→剥文文、沈織文 (突帯部) 内 ナデ	に赤い褐色 Hue75YR5/4	褐色 Hue75YR3/3	○ ○	黒雲母	良 暗緑織文土器系
	232	不明	Ⅲ	台付皿 盤上部	口縁部	外 ナデ→沈織文 (口縫部) 内 ナデ→剥文文 (口縫部) 内 ナデ→口字形の沈織文	明黄褐色 Hue25YR5-8	赤褐色 Hue5YR3-3	○ ○	良	市来式土器系
	233	M - 26区	Ⅲ	台付皿 盤上部	口縁部	外 ナデ→沈織文 (突起部) 内 ナデ	赤褐色 Hue5YR4/6	褐色 Hue75YR4/4	○ ○ ○	黒雲母 白色粘物	良 暗緑織文土器系
	234	N - 25区	Ⅲ	白付皿 盤上部	口縁部	外 ナデ→剥文文 (口縫部) 内 ナデ→沈織文 (側部)	黑色 Hue10YR2/1	褐色 Hue75YR7/6	○ ○	良	
	235	N - 26区	Ⅲ	直形 土器	口縁部	外 ミガキ→浮織状の文様 内 ミガキ	に赤い赤褐色 Hue5YR5-6	褐色 Hue5YR6-6	○ ○	良	
	236	O - 27区	不明	直形 土器	口縁部	外 ミガキ→浮織状の文様 内 ミガキ	に赤い黄褐色 Hue10YR7/3	に赤い黄褐色 Hue10YR7/3	○ ○	良	
60	237	SD38	上 下	台付皿 盤上部	脚部	外 ナデ→剥文文 内 ナデ	赤褐色 Hue5YR4/6	明赤褐色 Hue5YR5/6	○ ○ ○	良	市来式土器系
	238	O - 28区	Ⅲ	台付皿 盤上部	脚部	外 ナデ→剥目状の沈織文 内 ナデ	褐色 Hue10YR4/6	灰黄褐色 Hue10YR5/2	○ ○ ○	良	市来式土器系
	239	O - 25区	I	台付皿 盤上部	脚部	外 ナデ→管状の工具による剥文文 内 ナデ	栗褐色 Hue25Y4/1	栗褐色 Hue25Y4/1	○ ○ ○	良	暗緑織文土器系
	240	N - 25区	Ⅲ	台付皿 盤上部	脚部	外 ナデ→管状の工具による剥文文 内 ナデ	に赤い黄褐色 Hue10YR6/4	に赤い黄褐色 Hue10YR6/4	○ ○ ○	良	暗緑織文土器系
	241	N - 26区	Ⅲ	台付皿 盤上部	脚部	外 ナデ→剥目状の剥文文 内 ナデ	に赤い褐色 Hue75YR6/4	に赤い赤褐色 Hue75YR5/4	○ ○ ○	良	市来式土器系
	242	L - 19区	Ⅲ	台付皿 盤上部	脚部	外 ハケ目状のナデ 内 ハケ目状のナデ	に赤い赤褐色 Hue5YR4/4	に赤い赤褐色 Hue5YR4/4	○ ○ ○	白色粘物	良 ほりし土器 上部剥離の可能性あり
	243	SD38	下	漆鉢	口縁部	外 ナデ→沈織文 内 ナデ	12.5YR8/3	に赤い赤褐色 Hue10YR6/3	○ ○ ○	良	上加賀田式土器 もしくは市来式土器
	244	SD38	下	漆鉢	口縁部	外 条板 内 条板	灰褐色 Hue75YR4/2	に赤い褐色 Hue31YR6/4	○ ○ ○	良	後期末～後期
	245	P - 24区	不明	漆鉢	口縁部	外 条板 内 条板	12.5YR8/4	褐色 Hue10YR4/1	○ ○ ○	良	後期末～後期
	246	SD38	下	漆鉢	口縁部	外 条板 内 条板	褐色 Hue75YR6/6	に赤い黄褐色 Hue10YR7/4	○ ○ ○	良	後期末～後期
	247	O - 24区	Ⅲ	漆鉢	口縁部	外 条板 内 条板	褐色 Hue10YR1/2	褐色 Hue31YR2/2	○ ○ ○	良	後期末～後期
	248	N - 26区	Ⅲ	漆鉢	口縁部	外 条板 内 条板	褐色 Hue75YR6/6	に赤い黄褐色 Hue10YR6/4	○ ○ ○	黒雲母	後期末～後期 補修孔あり
	249	N - 24区	Ⅲ	漆鉢	口縁部	外 条板 内 条板	褐色 Hue75YR4/3	明褐色 Hue10YR5/6	○ ○ ○	黒雲母	後期末～後期
	250	M - 25区	Ⅲ	漆鉢	口縁部	外 ナデ 内 ナデ	に赤い黄褐色 Hue25Y4/4	に赤い黄褐色 Hue25Y6/3	○ ○ ○	良	後期末～後期
	251	J - M 17 - 20 2	I	漆鉢	外 条板 内 条板	に赤い黄褐色 Hue10YR2/3	に赤い黄褐色 Hue25Y6/3	○ ○ ○	黒雲母	後期末～後期	
	252	O - 24区	Ⅲ	漆鉢	口縁部	外 条板 内 条板	に赤い黄褐色 Hue10YR4/4	褐色 Hue75YR6/6	○ ○ ○	良	後期末～後期
	253	N - 24区	Ⅲ	漆鉢	口縁部	外 ナデ 内 ナデ	に赤い黄褐色 Hue10YR4/4	に赤い黄褐色 Hue10YR3/3	○ ○ ○	良	後期末～後期
	254	SD38	下	漆鉢	口縁部	外 条板 内 条板	に赤い黄褐色 Hue75YR5/3	に赤い黄褐色 Hue10YR6/4	○ ○ ○	良	後期末～後期
	255	SD38	下	漆鉢	口縁部	外 条板 内 ナデ	に赤い黄褐色 Hue10YR6/4	に赤い黄褐色 Hue10YR3/4	○ ○ ○	良	後期末～後期
	256	M - 24区	Ⅲ	漆鉢	口縁部	外 条板 内 条板、ナデ	に赤い黄褐色 Hue25Y6/3	に赤い黄褐色 Hue10YR6/4	○ ○ ○	黒雲母	後期末～後期
	257	O - 25区	Ⅲ	漆鉢	口縁部	外 ナデ 内 ナデ	に赤い黄褐色 Hue10YR6/4	に赤い黄褐色 Hue10YR6/4	○ ○ ○	黒雲母	後期末～後期

第15表 縄文時代の遺物観察表(9)

掲団 番号	掲載 番号	出土地点	層位	器種	部位	文様・器面調整等	色調		胎土		焼成	
							外顔	内顔	石英	長石		
60	258	SD38	下	深鉢	口縁部	外・柔板 内・柔板	黒灰色 Hue25Y4/1	黒灰色 Hue25Y4/1	○	○	良	後期末～晩期
	259	SD38	下	深鉢	口縁部	外・ナデ 内・ナデ	に・ふ・黄褐色 Hue10Y8E/3	に・ふ・黄褐色 Hue10Y8E/3	○	○	黒墨母 白色胚物	後期末～晩期
	260	O-24区	II	深鉢	口縁部	外・ナデ 内・ミガキ様のナデ	に・ふ・黄褐色 Hue10Y8E/4	黒色 Hue10Y8E/2/1	○	○	白色胚物	後期末～晩期
	261	M-24区	II	深鉢	口縁部	外・ナデ 内・ナデ	明黄褐色 Hue10Y8E/6	黒灰色 Hue10Y8E/1	○	○	良	後期末～晩期
	262	N-25区	II	深鉢	口縁部	外・ナデ 内・ナデ	褐色 Hue5Y8E/6	黒褐色 Hue5Y8E/2/1	○	○	良	後期末～晩期
	263	O-26区	II	深鉢	口縁部	外・ナデ 内・ナデ	灰黄褐色 Hue10Y8E/2	に・ふ・黄褐色 Hue10Y8E/3	○	○	良	後期末～晩期
61	264	K-20区	II	深鉢	口縁部	外・ナデ 内・ナデ	に・ふ・黄褐色 Hue10Y8E/4	黒色 Hue10Y8E/1	○	○	良	後期末～晩期
	265	M-25区	II	深鉢	口縁部	外・ナデ・ミガキ 内・ナデ・ミガキ	浅黄褐色 Hue10Y8E/4	浅黄褐色 Hue10Y8E/4	○	○	良	後期末～晩期
	266	P-24区	II	深鉢	口縁部	外・ナデ 内・ナデ	灰黄褐色 Hue10Y8E/2	に・ふ・黄褐色 Hue10Y8E/4	○	○	白色胚物	後期末～晩期
	267	N-26区	II	深鉢	口縁部	外・ナデ 内・ナデ	黒褐色 Hue5Y8E/2	黒褐色 Hue5Y3/2	○	○	黒墨母	後期末～晩期
	268	N-24区	II	深鉢	口縁部	外・ナデ 内・ナデ	黒褐色 Hue10Y8E/1	黒褐色 Hue10Y8E/1	○	○	良	後期末～晩期
	269	不明	II	深鉢	口縁部	外・ナデ・斜肩による隙孔(2箇所) 内・ナデ	黒褐色 Hue10Y8E/1	浅黄色 Hue25Y7/4	○	○	良	後期末～晩期 孔列式の可能性あり
	270	N-27区	III	深鉢	口縁部	外・ナデ・汎縞文 内・ナデ	暗灰褐色 Hue25Y7/5	明黄褐色 Hue10Y8E/6	○	○	良	人佐式土器新段階
	271	L-19区	II	深鉢	脚部	外・ナデ・汎縞文 内・ナデ	に・ふ・黄褐色 Hue25Y7/6/3	に・ふ・黄褐色 Hue25Y7/3	○	○	黒墨母	人佐式土器新段階
	272	O-25区	II	深鉢	脚部	外・ナデ 内・ナデ	に・ふ・黄褐色 Hue10Y8E/4	に・ふ・黄褐色 Hue25Y7/3	○	○	良	後期末～晩期
	273	SD38	下	深鉢	脚部	外・ナデ 内・ナデ	灰黄色 Hue25Y7/2	黄色 Hue25Y8E/6	○	○	良	後期末～晩期
62	274	N-25区	II	深鉢	脚部	外・ナデ 内・ナデ	に・ふ・褐色 Hue10Y8E/2	灰黄褐色 Hue10Y8E/2	○	○	良	後期末～晩期
	275	L-20区	II	深鉢	脚部	外・ナデ・柔板、リボン状の突起 内・ナデ	明黄褐色 Hue10Y8E/7	灰黄褐色 Hue25Y7/4	○	○	良	人佐式土器新段階から 黒川大土器
	276	N-27区	II	深鉢	口縁部	外・ナデ 内・ナデ	黒褐色 Hue10Y8E/3/1	に・ふ・黄褐色 Hue10Y8E/4	○	○	良	後期末～晩期
	277	N-28区	II	深鉢	脚部	外・ナデ 内・ナデ	に・ふ・褐色 Hue10Y8E/4	に・ふ・黄褐色 Hue10Y8E/3	○	○	良	後期末～晩期
	278	J-M-17-20区	I	深鉢	脚部	外・ナデ・柔板 内・ナデ・柔板	浅黄色 Hue25Y7/4	浅黄色 Hue25Y7/3	○	○	良	後期末～晩期
	279	O-23区	II	深鉢	脚部	外・柔板 内・ナデ	に・ふ・黄褐色 Hue10Y8E/3	に・ふ・褐色 Hue25Y8E/4	○	○	良	後期末～晩期
	280	M-24区	II	深鉢	脚部	外・ナデ 内・ナデ	に・ふ・褐色 Hue10Y8E/4	に・ふ・黄褐色 Hue10Y8E/3	○	○	白色胚物	後期末～晩期
	281	N-27区	II	深鉢	脚部	外・柔板 内・ナデ	褐色 Hue10Y8E/6	褐色 Hue25Y8E/6	○	○	良	後期末～晩期
	282	N-24区	II	深鉢	脚部	外・ナデ・柔板 内・ナデ	に・ふ・黄褐色 Hue10Y8E/7	灰黄色 Hue25Y6/2	○	○	良	後期末～晩期
	283	M-24区	II	深鉢	脚部	外・ナデ・柔板 内・ナデ	に・ふ・黄褐色 Hue10Y8E/4	に・ふ・黄褐色 Hue10Y8E/4	○	○	黒墨母 白色胚物	後期末～晩期
63	284	L-19区	I	深鉢	脚部	外・柔板 内・ナデ	浅黄色 Hue25Y7/4	浅黄色 Hue25Y7/3	○	○	良	後期末～晩期
	285	不明	深鉢	脚部	外・ナデ 内・ナデ	に・ふ・褐色 Hue10Y8E/4	に・ふ・黄褐色 Hue25Y8E/3	○	○	白色胚物	後期末～晩期	
	286	O-27区	II	深鉢	底部	外・ナデ 内・ナデ	明赤褐色 Hue25Y8E/6	暗赤褐色 Hue25Y3/4	○	○	良	後期末～晩期
	287	P-26区	II	深鉢	底部	外・ナデ 内・ナデ	灰黄褐色 Hue10Y8E/2	に・ふ・黄褐色 Hue10Y8E/3	○	○	黒墨母	後期末～晩期
	288	P-27区	II	深鉢	底部	外・ナデ 内・ナデ	に・ふ・黄褐色 Hue10Y8E/4	に・ふ・黄褐色 Hue10Y8E/4	○	○	良	後期末～晩期
	289	O-26区	I	深鉢	底部	外・ナデ 内・ナデ	に・ふ・黄褐色 Hue10Y8E/5	黄褐色 Hue25Y5/3	○	○	良	後期末～晩期 底部に圧痕あり
	290	M-27区	I	深鉢	底部	外・ナデ 内・ナデ	褐色 Hue10Y8E/8	に・ふ・褐色 Hue25Y8E/6	○	○	黒墨母 白色胚物	後期末～晩期 底部に圧痕あり
	291	O-26区	I	深鉢	底部	外・ナデ 内・ナデ	に・ふ・黄褐色 Hue25Y6/3	黄灰色 Hue25Y3/1	○	○	黒墨母	後期末～晩期 底部に圧痕あり

第 16 表 繩文時代の遺物観察表 (10)

擇団 番号	査載 番号	出土 地点	層位	器種	部位	文様・器面調整等	色調		胎土		焼成	
							外側	内面	石英	長石		
									ガラ	シ		
62	292	O - 24 区	Ⅲ	深鉢	底部	外 ナデ <sup>*</sup>	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	○ ○	○ ○	良	
	293	L - 19 区	I	深鉢	底部	外 ナデ <sup>*</sup>	Hue10YR5/4	Hue10YR6/4	○ ○	○ ○	良	
	294	O - 24 区 N - 26 区	Ⅲ	深鉢	底部	外 ナデ <sup>*</sup>	Hue10YR6/6	Hue10YR6/6	○ ○ ○	○ ○ ○	良	
	295	P - 24 区	Ⅲ	深鉢	底部	外 ナデ <sup>*</sup>	Hue10YR7/4	Hue10YR6/4	○ ○ ○	○ ○ ○	良	
	296	SD38	下	深鉢	底部	外 ミガキ→柔微文 内 ミガキ	Hue5Y5/7	Hue5Y6/2	○ ○ ○	○ ○ ○	良	
	297	O - 28 - 29 区	I	深鉢	底部	外 ナデ <sup>*</sup>	Hue7.5YR6/6	Hue5Y7/4	○ ○	○ ○	良	
	298	M - 27 区	I	深鉢	底部	外 一 内 ナデ <sup>*</sup>	Hue7YR5/4	Hue7YR5/4	○ ○ ○	○ ○ ○	良	
	299	N - 26 区	Ⅲ	鉢	口縁部	外 ミガキ→凹面状の文様 内 ミガキ	Hue10YR5/1	Hue10YR6/3	○ ○ ○	○ ○ ○	良 三万田式土器	
	300	N - 24 区	Ⅲ	鉢	口縁部	外 ミガキ→凹面状の文様 内 ミガキ	Hue10YR6/4	Hue2.5Y6/4	○ ○ ○	白色粘物	良 三万田式土器	
	301	N - 24 区	Ⅲ	鉢	口縁部	外 ミガキ→凹面状の文様 内 ナデ <sup>*</sup>	Hue10YR6/4	Hue10YR6/6	○ ○ ○	白色粘物	良 三万田式土器	
63	302	O - 24 区	Ⅲ	鉢	口縁部	外 ミガキ 内 ミガキ	にぶい 黄褐色	暗灰黄色	○ ○ ○	○ ○ ○	良 佐佐木式土器 黒川式土器	
	303	N - 24 区	Ⅲ	鉢	口縁部	外 ミガキ 内 ミガキ	Hue10YR7/6	Hue2.5Y5/2	○ ○ ○	○ ○ ○	良 佐佐木式土器 黒川式土器	
	304	O - 24 区	Ⅲ	鉢	口縁部	外 ミガキ→沈微文 内 ミガキ	Hue10YR6/4	Hue10YR6/4	○ ○ ○	○ ○ ○	良 黒川式土器	
	305	N - 25 区	Ⅲ	鉢	口縁部	外 ミガキ 内 ミガキ	Hue10YR6/4	Hue10YR4/2	○ ○ ○	○ ○ ○	良 黑川式土器	
	306	SD38	下	鉢	口縁部	外 ミガキ 内 ミガキ	Hue10YR4/2	Hue10YR6/4	○ ○ ○	○ ○ ○	良 佐佐木式土器 黒川式土器	
	307	J - 20 区	Ⅲ	鉢	口縁部 ~側部	外 ナデ <sup>*</sup> 内 ミガキ	にぶい 黄褐色	暗灰黄色	○ ○ ○	○ ○ ○	良 佐佐木式土器以前(後期末)	
	308	P - 24 区	深皿	深皿	口縁部 ~側部	外 ミガキ、ヒレ状突起(口縁部) 内 ミガキ	Hue10YR6/6	Hue10YR6/6	○ ○ ○	○ ○ ○	良 佐佐木式土器	
	309	K - 17 区	Ⅲ	鉢	口縁部	外 ミガキ 内 ミガキ	Hue10YR6/2	Hue2.5Y6/2	○ ○ ○	○ ○ ○	良 黑川式土器	
	310	SD38	下	鉢	側部	外 ミガキ 内 ミガキ	Hue10YR6/2	Hue2.5Y6/2	○ ○ ○	○ ○ ○	良 佐佐木式土器以前(後期末)	
	311	J - M - 17 - 20 区	I	鉢	側部	外 ミガキ 内 ミガキ	Hue10YR6/2	Hue2.5Y6/2	○ ○ ○	○ ○ ○	良 佐佐木式土器以前(後期末)	
64	312	P - 24 区	浅皿	側部	外 ミガキ 内 ミガキ	Hue10YR6/2	Hue2.5Y3/1	○ ○ ○	○ ○ ○	良 佐佐木式土器以前(後期末)		
	313	SD38	中	浅皿	側部	外 ミガキ 内 ミガキ	Hue7.5YR4/6	Hue2.5Y3/1	○ ○ ○	○ ○ ○	良 佐佐木式土器以前(後期末)	
	314	N - 25 区	Ⅲ	鉢	側部	外 ミガキ 内 ミガキ	Hue10YR6/4	Hue2.5Y2/1	○ ○ ○	○ ○ ○	良 佐佐木式土器以前(後期末)	
	315	I - J - 17 - 21 区	Ⅲ	鉢	側部	外 ミガキ 内 ミガキ	Hue10YR6/4	Hue2.5Y3/1	○ ○ ○	○ ○ ○	良	
	316	N - 25 区	Ⅲ	鉢	側部	外 ミガキ 内 ミガキ	Hue10YR2/1	Hue10YR5/2	○ ○ ○	○ ○ ○	良	
	317	K-L - 18 区	浅皿?	側部	外 ナデ <sup>*</sup> 内 ナデ <sup>*</sup>	Hue10YR5/2	Hue10YR7/4	○ ○ ○	○ ○ ○	良		
	318	L - 19 区	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ <sup>*</sup> 内 ナデ <sup>*</sup>	Hue7.5YR4/4	Hue2.5Y4/4	○ ○ ○	○ ○ ○	良 指宿式土器の影響か?	
	319	O - 25 区	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ <sup>*</sup> →沈微文 内 ナデ <sup>*</sup>	Hue10YR4/2	Hue2.5Y5/4	○ ○ ○	○ ○ ○	良	
	320	O - 27 区	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ <sup>*</sup> →割口・突葉、羽状の沈微文 内 ナデ <sup>*</sup>	Hue7.5YR5/6	Hue7.5YR6/6	○ ○ ○	○ ○ ○	良 衛府寺式土器や出水式 土器の影響	
	321	SD38	II	深鉢	側部	外 ナデ <sup>*</sup> →沈微文 内 ナデ <sup>*</sup>	Hue7.5YR5/4	Hue7.5YR5/4	○ ○ ○	○ ○ ○	良	
65	322	N - 25 区	Ⅲ	深鉢	側部	外 ナデ <sup>*</sup> →沈微文 内 ナデ <sup>*</sup>	Hue7.5YR5/6	Hue7.5YR6/6	○ ○ ○	○ ○ ○	良	
	323	SD38	深皿?	口縁部	外 ナデ <sup>*</sup> →2列の押引(口縁部) 内 ナデ <sup>*</sup>	にぶい 黄褐色	Hue2.5Y6/3	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	良	
	324	N - 25 区	Ⅲ	深鉢	口縁部	外 ナデ <sup>*</sup> →沈微文(口縁部) 内 ナデ <sup>*</sup>	にぶい 黄褐色	Hue10YR6/4	Hue10YR5/3	○ ○ ○	白色粘物	上加世田式土器以前 (後期末)

第 17 表 織文時代の遺物観察表 (11)

擇因 番号	規範 番号	出土地点	層	器種	部位	文様・器面調整等	色調		胎土	焼成	備考	
							外面	内面	石英	長石	カセ	
64	325	P - 24 区	Ⅲ	漆鉢	口縁部	外 ナデ→沈織文 (13斜部・1直線)	黄褐色 Hue25Y5/6	灰オモーブ色 Hue95Y5/2	○	○	白色織物	良 上加世田式土器以降(後期末)
	326	N - 26 区	Ⅲ	漆鉢	口縁部	内 ナデ→沈織文、利突文	C45-黄褐色 Hue10Y9E6/4	灰オモーブ色 Hue10Y9E6/4	○	○		良 北久根山式土器の影響?
	327	N - 25 区	Ⅲ	不明	口縁部	内 ナデ→沈織文、利突文、僧帽織文	暗紅褐色 Hue25Y5/6	黑褐色 Hue23Y3/2	○			極多不明 北久根山式土器の影響?
	328	O - 28 区	Ⅲ	漆鉢	口縁部	外 ナデ→空葉、斜目 内 ナデ	暗赤褐色 Hue9Y3E3/5	暗赤褐色 Hue9Y3E3/6	○	○		良
	329	O - 24 区	Ⅲ	不明	脚部	外 ナデ→ハ目状の沈織 内 ナデ	にぶい・黄褐色 Hue10Y9E6/4	にぶい・黄褐色 Hue10Y9E6/4	○	○	黒雲母	良
	330	SD38	上	不明	口縁部	外 ナデ→沈織 内 ナデ	にぶい・黄褐色 Hue10Y9E6/4	にぶい・黄褐色 Hue10Y9E7/4	○	○		良
	331	J - 20 区	I	漆鉢	脚部	内 ナデ→空葉→空葉・斜目 内 ナデ	赤褐色 Hue9Y4E4/6	褐色 Hue75Y4E4/6	○	○	白色織物	良
	332	L - 19 区	Ⅲ	漆鉢	脚部	外 ミガキ 内 ナデ	にぶい・黄色 Hue25Y6/4	暗赤褐色 Hue23Y5/2	○	○	黒雲母	良

第 18 表 織文時代の遺物観察表 (12)

擇因 番号	規範 番号	出土地点	層	器種	部位	文様・器面調整等	色調		胎土	焼成	備考	
							外面	内面	石英	長石	カセ	
64	333	N - 24 区	Ⅲ	-	-	外 ミガキ 内 ナデ	にぶい・V色 Hue25Y6/4	浅黄色 Hue23Y7/4	○	○	白色織物	良 円錐状土製品
64	334	N - 24 区	Ⅲ	-	-	外 ミガキ 内 ナデ	暗灰褐色 Hue25Y5/2	明黄褐色 Hue10Y9E7/6	○	○	白色織物	良 円錐状土製品
64	335	N - 26 区	Ⅲ	-	-	外 ミガキ 内 ミガキ	にぶい・V褐色 Hue10Y9E6/4	にぶい・V褐色 Hue23Y6/4	○	○	白色織物	良 円錐状土製品

第 19 表 織文時代の遺物観察表 (13)

擇因 番号	規範 番号	遺構	取上 番号	器種 1	器種 2	石材	長さ (mm)		幅さ (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
							1	2				
11	SK4	4	磨石・礫石類	-	砂岩	-	123	101	34	460		被熱による破壊
	5 SK4	3	磨石・礫石類	-	砂岩	-	105	(96)	48	725		
6	SK4	1	石皿・台石	-	砂岩	-	(2270)	(2840)	500	3600		
7	SK4	2	石皿・台石	-	安山岩	1	(1520)	(1290)	800	2000		
8	SK4	11	石皿・台石	-	安山岩	1	2990	3100	1110	14600		
13	SK6	5	磨石・礫石類	-	安山岩	1	132	115	48	1200		
14	SK6	9	打製石斧	-	碧玉	-	(1140)	635	175	114		
15	SK6	1	石皿・台石	-	安山岩	1	(3840)	3320	710	12800		
17	SK8	-	石皿・台石	-	安山岩	1	(4050)	3010	850	15600		
33	SK55	8	磨石・礫石類	-	花崗岩	-	95	79	21	228		
19	SK55	7	磨石・礫石類	-	安山岩	1	(104)	114	4.5	723		使用により表面が大きく剥離
35	SK55	6	磨石・礫石類	-	安山岩	1	122	91	4.7	920		風化著しく表面不整
20	SK55	9	石皿・台石	-	安山岩	1	4200	(2830)	1070	16200		
27	SK78	5	石核	-	黑曜石	5	710	680	29	155		
38	SK78	4	石核	-	砂岩	-	690	96	1070	752		
39	SK78	16	石皿・台石	-	安山岩	3	2950	2600	1020	10400		
40	SK78	6	石皿・台石	-	安山岩	1	3060	(2320)	690	8400		
26	SK59	1	石皿・台石	-	安山岩	1	(169)	(207)	610	3200		
27	SK57	4	石皿・台石	-	安山岩	1	3320	3340	560	10000		
28	SK13	35	砾石	-	砂岩	-	1180	1040	90	144		
90	SK44	2	石鏽	2	黑曜石	6	179	130	32	1		
33	SK44	14	石鍛	-	安山岩	1	610	710	230	157		
92	SK44	4	磨石・礫石類	-	石灰岩	-	(83)	730	400	335		敲打痕著
34	SK60	8	磨石・礫石類	-	砂岩	-	(53)	790	390	500	263	被熱による破壊
201	SK61	57	磨石・礫石類	-	砂岩	-	1130	1120	410	746		
302	SK61	29	磨石・礫石類	-	砂岩	-	690	520	900	247		日の焼け砂岩
203	SK61	43	磨石・礫石類	-	砂岩	-	940	630	510	372		
28	SK61	30	磨石・礫石類	-	安山岩	1	(110)	1260	620	1400	欠損	
38	SK50	1	磨石・礫石類	-	安山岩	1	1240	960	320	970		磨石面は限定的
39	SK51	1	磨石・礫石類	-	安山岩	1	1760	1680	450	1800		
40	SK42	3	磨石・礫石類	-	花崗岩	-	(91)	(68)	500	327		欠損
41	SK42	2	石皿・台石	1	安山岩	1	390	273	830	8800	SK51・SK42・SX64 領域	
43	SK48	1	石皿・台石	-	安山岩	1	1620	2320	1000	4200		
134	SK69	2	磨石・礫石類	-	石灰岩	-	730	(78)	540	444		敲打痕著
135	SK69	1	磨石・礫石類	-	安山岩	1	(91)	(116)	510	753		被熱による破壊
437	SK32	21	石皿・台石	-	安山岩	1	2910	3420	650	8800		
438	SK32	3	石皿・台石	-	砂岩	-	2940	2240	660	6200		
51	SK66	2	磨石・礫石類	-	安山岩	1	1190	1150	440	976		

第20表 縄文時代の遺物観察表(14)

標印番号	標記番号	出土地点	層	器種1	器種2	石材		長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
						1	2					
336	N - 25 区	Ⅲ	石鏡	1	安山岩	1	(18.4)	19.0	3.8	0.7		
337	L - 17 区	I	石鏡	1	黒曜石	2	164	147	5.1	0.8		
338	M - 25 区	I	石鏡	1	黒曜石	6	10.5	11.5	2.5	0.4		
339	O - 33 区	表探	石鏡	1	黒曜石	6	11.5	13.0	2.5	0.2		
340	O - 26 区	Ⅲ	石鏡	1	黒曜石	4	(10.3)	13.9	3.0	0.3		
341	O - 25 区	Ⅲ	石鏡	1	チャート	1	15.5	14.5	2.0	0.3		
342	M - 24 区	Ⅲ	石鏡	1	黒曜石	4	16.8	(13.7)	3.2	0.5		
343	-	表探	石鏡	1	黒曜石	6	(12.9)	16.7	3.0	0.5		
344	P - 32 区	I	石鏡	2	黒曜石	4	(17.3)	14.0	3.6	0.6		
345	O - 24 区	Ⅲ	石鏡	2	黒曜石	5	(16.3)	13.3	3.8	0.7		
346	P - 33 区	I	石鏡	2	黒曜石	7	25.4	15.8	3.4	0.9		
347	N - 28 区	Ⅲ	石鏡	2	黒曜石	6	23.9	15.0	3.9	0.8		
348	L - 18 区	Ⅲ	石鏡	2	安山岩	1	22.6	13.9	4.1	0.7		
349	M - 24 区	Ⅲ	石鏡	2	黒曜石	5	20.2	16.2	3.0	0.5		
350	O - 26 区	Ⅲ	石鏡	2	黒曜石	6	19.0	14.9	3.8	0.5		
351	SD38	下	石鏡	2	チャート	1	14.0	12.6	2.9	0.3		
352	O - 24 区	Ⅲ	石鏡	2	チャート	1	(15.2)	(14.3)	3.3	0.4		
353	SD38	下	石鏡	2	黒曜石	3	(15.8)	(12.8)	4.7	0.6		
354	M - 24 区	Ⅲ	石鏡	2	黒曜石	6	(16.9)	13.4	2.9	0.5		
355	-	I	石鏡	3	黒曜石	5	(20.1)	14.0	4.2	1.1		
356	N - 26 区	II	石鏡	3	チャート	2	(19.0)	16.5	4.3	1.5		
357	M - 26 区	Ⅲ	不明	-	黒曜石	4	14.0	13.0	6.0	0.9	微細網状面あり	
358	SD38	-	楕円形石器	-	黒曜石	4	14.0	36.0	5.0	2.0		
359	N - 25 区	Ⅲ	楕円形石器	-	黒曜石	4	20.0	16.0	6.0	2.4		
360	SD38	-	楕円形石器	-	黒曜石	4	40.0	25.0	6.0	5.1		
361	Q - 32 区	I	石臼	-	チャート	1	25.7	21.1	7.6	2.6		
362	Q - 32 区	I	石臼	-	安山岩	2	37.6	66.7	9.9	18.7		
363	N - 24 区	Ⅲ	スクレーパー	-	黒曜石	1	28.0	45.0	12.0	10.2		
364	N - 24 区	-	スクレーパー	-	黒曜石	1	30.0	45.0	11.0	16.5		
365	O - 24 区	Ⅲ	ドリル	-	黒曜石	4	60.0	27.0	9.0	8.0		
366	不明	不明	ドリル	-	黒曜石	4	46.0	20.0	10.0	1.8		
367	L - 24 区	Ⅲ	石核	-	黒曜石	5	26.0	42.0	20.0	16.5		
368	不明	不明	石核	-	黒曜石	1	37.0	50.0	25.0	41.2		
369	M - 25 区	Ⅲ	石核	-	黒曜石	1	67.0	56.0	21.0	85.5		
370	不明	Ⅲ	磨製石斧	-	安山岩	1	113.0	46.0	23.5	180.2		
371	不明	I	磨製石斧	-	安山岩	1	(122.0)	64.0	43.5	430.0		
372	不明	Ⅲ	磨製石斧	-	砂岩	-	(81.5)	48.0	27.5	162.3		
373	不明	Ⅲ	磨製石斧	-	砂岩	-	(107.5)	55.0	35.0	266.5		
374	不明	I	磨製石斧	-	キラフコカル	-	(133.5)	63.5	43.0	530.0		
375	SD38	下	磨製石斧	-	砂岩	-	(149.5)	61.0	43.0	470.0		
376	SD38	Ⅱ	磨製石斧	-	キラフコカル	-	(108.0)	61.0	35.5	322.1		
377	不明	Ⅲ	磨製石斧	-	砂岩	-	(100.5)	51.0	34.5	266.3		
378	不明	I	磨製石斧	-	砂岩	-	(118.0)	62.5	37.0	450.0		
379	不明	Ⅲ	磨製石斧	-	頁岩	-	(108.0)	70.0	30.0	328.4		
380	SD38	-	磨製石斧	-	頁岩	-	(67.0)	62.0	20.0	100.8		
381	不明	Ⅲ	磨製石斧	-	鈍敲岩	-	(66.0)	64.0	19.0	117.3		
382	不明	不明	磨製石斧	-	キラフコカル	-	(64.0)	54.0	30.0	103.5		
383	不明	Ⅲ	磨製石斧	-	頁岩	-	92.0	34.0	19.0	79.7	小形の弊状	
384	不明	I	打製石斧	-	頁岩	-	(126.0)	59.5	26.0	198.3		
385	SD38	-	打製石斧	-	鈍敲岩	-	(170.5)	67.0	30.5	390.0		
386	不明	Ⅲ	打製石斧	-	頁岩	-	(118.0)	67.5	18.0	118.3		
387	不明	表探	打製石斧	-	頁岩	-	(122.5)	71.5	24.0	181.3		
388	SD38	中	打製石斧	-	頁岩	-	(94.0)	66.0	24.0	189.6		
389	M - 25 区	Ⅲ	石製品	-	砂岩	-	62.0	37.0	11.0	236.0		

第 21 表 繩文時代の遺物観察表 (15)

掲図 番号	掲載 番号	出土地点	層	器種 1	石材		長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
					1	2					
70	390	SD38	下	石錐	安山岩	1	67.0	96.0	33.0	302	
	391	SD38	下	石錐	安山岩	1	66.0	75.0	31.0	221	
	392	P - 24 区	複数	磨石・砥石類	砂岩	-	(70.0)	96.0	47.0	427	裏面中央部への垂直打撃により破損
	393	SD38	上	磨石・砥石類	安山岩	1	163.0	97.0	59.0	1,400	
	394	N - 25 区	Ⅲ	磨石・砥石類	安山岩	1	(98.0)	(106.0)	55.0	772	被熱による破砕
	395	R - 31 区	表層	磨石・砥石類	安山岩	1	104.0	67.0	55.0	630	
	396	N - 25 区	Ⅲ	磨石・砥石類	石炭岩	-	90.0	86.0	66.0	629	
	397	N - 24 区	Ⅲ	磨石・砥石類	砂岩	-	91.0	65.0	61.0	542	
	398	M - 24 区	Ⅲ	磨石・砥石類	砂岩	-	(121.0)	99.0	45.0	748	欠損
	399	N - 23 区	Ⅲ	磨石・砥石類	砂岩	-	119.0	107.0	48.0	990	
71	400	N - 26 区	Ⅲ	磨石・砥石類	砂岩	-	127.0	95.0	51.0	934	
	401	N - 26 - 27 区	Ⅲ	磨石・砥石類	安山岩	1	141.0	118.0	62.0	1,600	被熱による破砕
	402	L - 19 区	Ⅲ	磨石・砥石類	安山岩	1	62.0	56.0	22.0	114	
	403	O - 23 区	Ⅲ	磨石・砥石類	砂岩	-	118.0	95.0	43.0	791	
	404	P - 28 区	I	磨石・砥石類	安山岩	1	130.0	123.0	48.0	1,200	被熱による破砕
	405	O - 24 区	Ⅲ	磨石・砥石類	安山岩	1	120.0	104.0	43.0	854	
	406	N - 25 区	Ⅲ	磨石・砥石類	安山岩	1	113.0	98.0	53.0	992	
	407	N - 26 区	Ⅲ	磨石・砥石類	砂岩	-	121.0	107.0	46.0	1,004	
	408	O - 24 区	Ⅲ	磨石・砥石類	砂岩	-	154.0	106.0	58.0	1,400	
	72	409	N - 26 区	Ⅲ	石皿・台石	安山岩	1	(368.0)	268.0	111.0	13,800
73	410	M - 25 区	Ⅲ	石皿・台石	安山岩	1	(217.0)	(225.0)	97.0	5,600	
	411	SD38	下	石皿・台石	安山岩	1	300.0	(268.0)	83.0	11,600	
	412	SD38	上	石皿・台石	安山岩	1	(328.0)	(341.0)	87.0	16,000	
	413	O - 26 区	Ⅲ	石皿・台石	安山岩	1	(327.0)	(241.0)	98.0	7,000	
	414	O - 25 区	Ⅲ	石皿・台石	安山岩	1	(188.0)	(162.0)	92.0	3,200	

第 22 表 弓浜時代・古墳時代の遺物観察表

掲図 番号	掲載 番号	出土 地点	層	器種	部位	文様・器面調整等	色調		胎土			焼成
							外面	内面	石英	長石	カセイ	
75	415	O - 27 区	II	要	口縁部	外 極ナデ	淡黄色	淡黄色	○ ○ ○	火山ガラス	かわせ	直燒 II 式土器
	416	N - 33 区	I	要	口縁部	外 極ナデ+丹塗り磨研	にぬい・黄褐色	にぬい・黄褐色	○ ○ ○	黒雲母	かわせ	黒雲母 II 式土器
	417	Q - 29 区	I	要	口縁部	外 極ナデ	淡黄色	淡黄色	○ ○ ○	黒雲母	かわせ	直燒 I 式土器
	418	O - 24 区	II	要	口縁部	外 ナデ	にぬい・黄褐色	にぬい・黄褐色	○ ○ ○	黒雲母	かわせ	不入窯 II 式土器
	419	10-20 区	II	要	底部	外 ハケナ	にぬい・褐色	にぬい・褐色	○ ○ ○	赤褐色の片岩	かわせ	直燒 I 式土器
	420	N - 28 区	II	要	脚部	外 ハケナ	にぬい・褐色	にぬい・褐色	○ ○ ○	赤褐色の片岩	かわせ	古墳時代前期
	421	N-O - 28 区	II	要	底部	外 ハケナ	にぬい・黄褐色	にぬい・黄褐色	○ ○ ○	黒雲母	かわせ	中津野式土器
	422	不明	I	要	尖部	外 丹塗り→ナデ	浅黃褐色	浅黃褐色	○ ○ ○	黒雲母	かわせ	不丹燒 II 式土器
	423	SD38	-	要	口縁部	外 ハケナ	褐色	褐色	○ ○ ○	赤褐色の片岩	かわせ	中津野式土器
	424	SD38	中	要	側部	外 ハケナ+横ナデ	にぬい・黄褐色	にぬい・黄褐色	○ ○ ○	火山ガラス	かわせ	直燒 II 式土器
76	425	SD38	下	要	側部	外 工具ナデ	にぬい・黄褐色	にぬい・黄褐色	○ ○ ○	火山ガラス	かわせ	古墳時代初期
	426	N - 25 区	II	要	側部	外 ハケナ	にぬい・黄褐色	にぬい・黄褐色	○ ○ ○	火山ガラス	かわせ	古墳時代初期
	427	SD38	-	高环	口縁部	外 丹塗り→ハケ目→ケズリ	明赤褐色	明赤褐色	○ ○ ○	赤褐色の片岩	かわせ	直燒 II 式土器
	428	SD38	-	高环	脚部	内 丹塗り磨研	Hue25YR8/8	Hue25YR8/8	○ ○ ○	火山ガラス	かわせ	不
	429	SD38	-	高环	脚部	内 ナデ	Hue25YR8/2	Hue25YR8/2	○ ○ ○	赤褐色の片岩	かわせ	不
	430	N - 25 区	II	萬环	器部	外 ハケナ	明赤褐色	明赤褐色	○ ○ ○	火山ガラス	かわせ	直燒 II 式土器
	431	O - 32 区	I	不明	不明	内 ナデ	Hue10YR8/3	Hue10YR8/3	○ ○ ○	火山ガラス	かわせ	不丹燒 II 式土器

第23表 古代の遺物観察表(1) 土器部

擇回 番号	標記 番号	出土 遺構	層 層	取上 番号	器種	分類	器面調整	色調		法量(cm)			胎土		構成	備考
								外面		内部		口径	底径	高さ		
								表面	底面	表面	底面	mm	mm	mm		
80	432	SK68	廻上	一括	(周・环)	-	外 回輪ヘラケズリ、横ナデ	浅黃褐色 Hue3YYR6/4	浅黃褐色 Hue3YYR6/4	125		○ ○			良	
	433	SK68	廻上	7	(周・环)	-	内 回輪ヘラケズリ、横ナデ	浅黃褐色 Hue3YYR6/3	浅黃褐色 Hue3YYR6/3	120		○ ○			良	
	434	SK68	廻上	3	(周・环)	-	内 横ナデ	浅黃褐色 Hue3YYR6/4	浅黃褐色 Hue3YYR6/4	118		○ ○ ○			良	
	435	SK68	廻上	一括	廻	-	外 横ナデ 内 ハラ切り→高台+ナデ(底面)	浅黃色 Hue3YYR6/3	浅黃色 Hue3YYR7/4			○ ○			良	
	436	SK68	廻上	一括	廻	-	内 横ナデ(体鉢) ハラ切り(底部) ミギタ	黃褐色 Hue3YS/3	黑色 Hue10YR2/1			○ ○			良 内黒土胎器	
	437	SK68	廻上	9	廻	外 ナタ、ハケ目 内 ハラ目、ケズリ+ナデ(口縁部)	にぶい褐色 Hue3YYR7/4	にぶい褐色 Hue3YYR6/4	260	120	○ ○ ○					良
	81	443	SK70	廻上	1	廻	外 ハラ切り→ナデ(脚部上半) 内 平手+ナデ(脚部下半) ハラ+ナデ(脚部)	にぶい褐色 Hue3YYR6/5	にぶい褐色 Hue3YYR7/3	256		○ ○ ○			良	
	446	SK72	廻上	一括	(周・环)	-	外 横ナデ+筋唐 内 横ナデ	にぶい褐色 Hue3YYR7/4	にぶい褐色 Hue3YYR6/4			○ ○			良 帶着土器	
	447	SK72	廻上	12	廻	-	内 横ナデ	にぶい褐色 Hue3YYR7/4	浅黃色 Hue3YYR8/3	144		○ ○			良	
83	448	SK72	廻上	11	廻	-	外 横ナデ	浅黃色 Hue3YYR8/3	浅黃色 Hue3YYR8/4			○ ○			良 付着	
	449	SK72	廻上	10	廻	-	内 横ナデ 内 横ナデ	浅黃色 Hue3YYR8/3	明黃褐色 Hue3YYR6/6			○ ○			良	
	450	SK72	廻上	4B	廻	1	外 横ナデ 内 ハラ切り→高台+ナデ ナデ+ナデ、斜江+ナデ(見込み)	浅黃色 Hue3YYR7/4	浅黃色 Hue3YYR7/4	79	68	○ ○ ○			良	
	451	SK72	廻上	1	廻	2	外 横ナデ(体鉢) 内 ハラ切り+ナデ(底部)	にぶい褐色 Hue3YYR6/4	にぶい褐色 Hue3YYR6/4	62		○ ○ ○	白色粘物	良		
	452	SK72	廻上	8	廻	-	外 横ナデ 内 ミギタ	明黃褐色 Hue3YYR7/4	ナーベル黑色 Hue3Y/1	134		○ ○			良 内黒土胎器	
	453	SK72	廻上	一括	廻	-	外 回輪ヘラケズリ+ナデ 内 ミギタ	にぶい褐色 Hue3YYR7/4	浅黃色 Hue3YYR2/1			○ ○			良 内黒土胎器	
	455	SK72	廻上	9	廻	横力方向のハケ目 外 ハラ+ナデ(脚部上半) 内 横ナデ(脚部上半) ケズリ+ナデ	にぶい黄色 Hue3YYR6/4	明黃褐色 Hue3YYR6/6	258	23.3	○ ○ ○			良 色は化物と被土層 を含む		
	459	SK73	廻上	5	廻	2	外 横ナデ 内 ミギタ	浅黃色 Hue3YYR7/4	浅黃色 Hue3YYR2/1	138		○ ○ ○			良 内黒土胎器 高台久松原摩滅	
	460	SK73	廻上	1	廻	-	外 横ナデ 内 ミギタ	にぶい褐色 Hue3YYR7/4	浅黃色 Hue3YYR2/1	150		○ ○ ○			良 内黒土胎器	
84	461	SK73	廻上	1	廻	3	内 横ナデ 内 ハラ切り+ナデ(底部)	にぶい褐色 Hue3YYR7/4	浅黃色 Hue3YYR7/4			○ ○ ○			良 詳細不明	
	462	SK73	廻上	一括	廻	-	外 横ナデ 内 横ナデ	にぶい褐色 Hue3YYR7/4	橙褐色 Hue3YYR7/6	144		○ ○ ○			良	
	463	SK73	廻上	一括	廻	-	内 横ナデ 内 横ナデ	にぶい褐色 Hue3YYR7/4	橙褐色 Hue3YYR7/4	144		○ ○ ○			良	
	464	SK73	廻上	2	廻	-	外 横ナデ 内 横ナデ	にぶい褐色 Hue3YYR7/4	明黃褐色 Hue3YYR8/6			○ ○ ○			良	
	465	SK73	廻上	一括	廻	-	内 横ナデ 内 横ナデ	にぶい褐色 Hue3YYR7/4	にぶい褐色 Hue3YYR7/4	120		○ ○ ○			良	
	466	SK73	廻上	一括	廻	-	外 ハラ切り+ナデ(底部)	浅黃色 Hue3YYR7/4	浅黃色 Hue3YYR8/4	64		○ ○ ○			良	
	467	SK73	廻上	一括	廻	-	内 ハケ目 内 ミギタ	にぶい褐色 Hue3YYR5/4	浅黃色 Hue3YYR8/3			○ ○ ○	白色粘物	良 既成後に穿孔		
	468	SK73	廻上	一括	廻	-	内 横ナデ 内 横ナデ	にぶい褐色 Hue3YYR7/4	にぶい褐色 Hue3YYR7/4			○ ○ ○			良	
	471	SK74	廻上	一括	(周・环)	-	外 横ナデ 内 ミギタ	浅黃色 Hue3YYR8/4	黑色 Hue3Y/0			○ ○ ○			良 内黒土胎器	
85	472	SK74	廻上	1	廻	4	外 ハラ切り→高台+ナデ(底部) 内 ナダ(脚部+脚部上半) ナダ(脚部+脚部上半)	にぶい褐色 Hue3YYR7/4	にぶい褐色 Hue3YYR7/4	66		○ ○ ○			良	
	474	SK74	廻上	11	廻	-	内 ナダ(脚部+脚部上半) ナダ(脚部+脚部上半)	橙色 Hue3YYR7/6	明黃褐色 Hue3YYR7/6	245		○ ○ ○			良	

第24表 古代の遺物観察表(2) 土師器

擇回 番号	複数 番号	出土 遺構	層	取上 番号	器種	分類	器面調整	色調		法量(cm)				胎土		構成	備考		
								外面	内面	外 寸 径 高			石英	長石	砂				
										口 徑	底 徑	高							
	482	SK77	埋土	23.5 8.0-10 11.12 16.17	裏	-	縦方向のハケ目(口縫部～脚部上半) 外 → ナメ(口縫部のみ) 不定方向のハケ目(脚部下半) 内 ハケ目(口縫部), ケズリ(脚部) ナメ(底部)	明黄褐色 Hue35YR6-6	明黄褐色 Hue35YR6-6	24.0	23.1	○ ○ ○	白色粘物 粉裡	且	黄化物と地土層が付着 基盤厚手				
	483	SK77	埋土	6.8-19 20.14 22.23 24.26	裏	-	外 子口(口縫部), 一部縦方向(脚部) 内 横方向のハケ目+一部にナメ(口縫部) 内 ナメ(底部)	灰白色 Hue35YR7-1	灰白色 Hue35YR6-1	25.5		○ ○ ○	白色粘物	且					
	484	SK77	埋土	一括	裏	-	外 ナメ(口縫部), 縦方向のハケ目(口縫部) 内 横方向のハケ目(口縫部), ケズリ(脚部)	暗褐色 Hue35YR7-6	暗褐色 Hue35YR8-6			○ ○ ○		且					
86	487	SK77	埋土	1	一括	2	外 反復割目(内側)ナメ(裏面) 内 ハケ切り・高台+ナメ(ナメ) 内 回転ナメ, ナメ(底部)	灰黃褐色 Hue35YR7-6	灰黃褐色 Hue35YR8-4	13.8	6.9	6.7	0.5	○ ○ ○	且	漆黒土層 SKC70とSK77間に埋合 回転割目			
	488	SK77	埋土	一括	裏	2	外 横ナメ	浅黃褐色 Hue35YR8-6	浅黃褐色 Hue35YR8-4	11.8				○ ○ ○	且				
	489	SK77	埋土	一括	裏	2	外 横ナメ	浅黃褐色 Hue35YR8-6	浅黃褐色 Hue35YR7-6					○ ○ ○	且				
	490	SK77	埋土	一括	環	2	外 横ナメ, ハラ切りナメ(底部) 内 横ナメ, 拝正+ナメ(底部)	浅黃褐色 Hue35YR8-4	浅黃褐色 Hue35YR7-4	14.4	7.4	3.6		○ ○ ○	且				
	491	SK77	埋土	一括	環	2	外 横ナメ	明黄色 Hue35YR7-6	明黄色 Hue35YR6-6	13.0				○ ○ ○	且				
	492	SK77	埋土	(周・环)	-	2	外 横ナメ→既剥 内 横ナメ	暗褐色 Hue35YR6-6	暗褐色 Hue35YR6-6	11.9				○ ○ ○	且	既成既剥削			
	493	SK77	埋土	一括	環	2?	外 横ナメ 内 横ナメ	浅黃褐色 Hue35YR8-6	浅黃褐色 Hue35YR6-6	5.6				○ ○ ○	且				
	494	SK77	埋土	一括	環	2	外 横ナメ, ハラ切り→高台+ナメ 内 横ナメ, ナメ(底部)	灰黃褐色 Hue35YR7-4	灰黃褐色 Hue35YR7-4	6.8	0.5	○ ○ ○		且					
	495	SK77	埋土	一括	裏	2	外 横ナメ 内 ミガキ	浅黄色 Hue35Y/3	黑色 Hue35Y/2					○ ○	且	内黒土胎器			
	496	SK77	埋土	1	环	1	外 回転ナメ, ハラ切りナメ(底部) 内 回転ナメ, 拜正+ナメ(底部)	浅黃褐色 Hue35YR8-6	浅黃褐色 Hue35YR7-6	12.5	5.0	4.2		○ ○ ○	且	回転台計画釣り			
87	498	SK77	埋土	(周・环)	-	2	外 ナメ 内 ミガキ	ナメ Hue35YR6-6	ナメ Hue35YR7-1					○ ○ ○	且	内黒土胎器 壁面不明			
	500	SP71	埋土	一括	環	2	外 横ナメ, ハラ切り→ナメ(底部) 内 ナメ	浅黃褐色 Hue35YR8-4	浅黃褐色 Hue35YR8-4	6.0				○ ○ ○	且				
	501	SP71	埋土	一括	裏	2	外 ナメ, ハラ切り→ナメ(底部) 内 ナメ	灰黃褐色 Hue35YR8-4	灰黃褐色 Hue35YR8-4	7.0				○ ○ ○	且				
	502	SP71	埋土	一括	裏	2	外 ナメ, ハラ切り→ナメ(底部) 内 ナメ	明黄色 Hue35YR7-6	黑色 Hue35Y/2					○ ○ ○	且	内黒土胎器			
	503	SP71	埋土	一括	裏	2	外 ナメ(口縫部), 縦方向のハケ目(脚部) 内 ナメ	灰黃褐色 Hue35YR8-4	灰黃褐色 Hue35YR7-6	22.2				○ ○ ○	且	ハケの目が細かい			
	509	SP706	埋土	一括	裏	2	外 横ナメ(口縫部・全体上半) 内 ハラ切り・高台+ナメ(ナメ) 内 回転ナメ, 拜正+ナメ(底部)	浅黃褐色 Hue35YR8-6	浅黃褐色 Hue35YR8-6	13.5	6.3	5.7	0.7	○ ○ ○	且	角白台			
	511	SP716	埋土	一括	裏	2	外 横ナメ 内 横ナメ	青灰色 Hue35Y/2	青灰色 Hue35Y/2	13.2				○ ○ ○	且	黑色土?			
	512	SP716	埋土	一括	裏	2	外 横ナメ 内 横ナメ, ナメ(底部)	灰黃褐色 Hue35YR8-2	灰黃褐色 Hue35YR8-2	6.3	0.5	○ ○ ○		且	黑色土?	両台貼付部に組み			
	513	SP707	埋土	一括	裏	2	外 横ナメのハケ目(脚部), ナメ(脚部) 内 ナメ	褐色 Hue35YR7-3	褐色 Hue35YR7-3					○ ○ ○	且	埋厚手			
	514	SD38	Y	180	16	1	外 横ナメ, ハラ切り→ナメ(底部) 内 横ナメ, ナメ(底部)	灰黃褐色 Hue35YR5-5	灰黃褐色 Hue35YR5-5	14.2	7.3	4.3		○ ○ ○	且	底部外面に泥斑痕			
92	515	SD38	Y	142	16	1	外 横ナメ, ハラ切り→ナメ(底部) 内 横ナメ, ナメ(底部)	褐色 Hue35YR8-8	褐色 Hue35YR8-8	13.1	6.2	3.9		○ ○ ○	且				
	516	SD38	Y	213	16	1	外 横ナメ, ハラ切り→ナメ(底部) 内 横ナメ, 拜正+ナメ(底部)	褐色 Hue35YR8-8	褐色 Hue35YR8-8	5.0				○ ○ ○	白色粘物	回転台計画釣り			
	517	SD38	Y	142	16	1	外 横ナメ, ハラ切り→ナメ(底部) 内 横ナメ, ナメ(底部)	浅黃褐色 Hue35YR8-6	浅黃褐色 Hue35YR8-6	6.4				○ ○ ○	且	角白台内斜引			
	518	SD38	Y	153	16	1	外 横ナメ, ハラ切り→ナメ(底部) 内 横ナメ, ナメ(底部)	灰黃褐色 Hue35YR7-4	灰黃褐色 Hue35YR7-4	5.4				○ ○ ○	且				
	519	SD38	Y	225	16	2	外 横ナメ, ハラ切り→ナメ(底部) 内 横ナメ, 拜正+ナメ(底部)	浅黄色 Hue35Y/3	浅黄色 Hue35Y/3	11.0	5.2	3.9		○ ○ ○	且				

第25表 古代の遺物観察表(3) 土器部

擇回 番号	標載 番号	出土 遺構	層	取上 番号	器種	分類	器面調整	色調		法量(cm)			胎土		焼成	備考		
								外面		内面		底径	器高	石英	長石			
								外径	内径	外径	内径							
	520	SD38	下	3	H6	2	横ナメ(口縁部-全体上半) 外側へラクリ(全体下半) 内側ナメ(底部)	に赤い黄褐色 Hue3YR7/4	に赤い黄褐色 Hue3YR7/4	105	53	34	○ ○ ○	○	△	△	回転台時計回り	
	521	SD38	下	34 40	H6	2	横ナメ(口縁部-全体上半) 外側へラクリ(全体下半) 内側ナメ(底部)	に赤い黄褐色 Hue3YR7/4	に赤い黄褐色 Hue3YR7/4	114	67	33	○ ○ ○	○	△	△	△	
	522	SD38	下	114	H6	2	横ナメ(口縁部-全体上半) 外側へラクリ(全体下半) 内側ナメ(底部)	淡黄色 Hue3YR8/3	淡黄色 Hue3YR8/3	104	60	33	○ ○ ○	○	△	△	回転台時計回り	
	523	SD38	下	7	H6	3	横ナメ ハラクリ→ナメ(底部) 内側ナメ ナメ(底部)	に赤い黄褐色 Hue3YR7/4	に赤い黄褐色 Hue3YR6/4	112	50	41	○ ○ ○	○	△	△	底部外面に棒状工具痕 回転台時計回り	
	524	SD38	下	152	H6	3	外 横ナメ ハラクリ→ナメ(底部) 内 横ナメ ナメ(底部)	淡黄色 Hue3YR8/3	淡黄色 Hue3YR8/3	104	50	47	○ ○ ○	○	△	△	△	
	525	SD38	下	26	H6	3	外 横ナメ ハラクリ→ナメ(底部) 内 横ナメ ナメ(底部)	淡黄色 Hue3YR8/3	淡黄色 Hue3YR8/3	106	60	39	○ ○ ○	○	△	△	△	
	526	SD38	下	216	H6	3	外 横ナメ ハラクリ→ナメ(底部) 内 横ナメ ナメ(底部)	淡黄色 Hue3YR7/3	淡黄色 Hue3YR7/3	102	53	39	○ ○ ○	○	△	△	△	
	527	SD38	下	140	H6	3	外 横ナメ ハラクリ→ナメ(底部) 内 横ナメ ナメ(底部)	明黄色 Hue3YR8/6	淡黄色 Hue3YR8/4	108	50	35	○ ○ ○	○	△	△	△	
	528	SD38	下	215	H6	3	外 横ナメ ハラクリ→ナメ(底部) 内 横ナメ ナメ(底部)	淡黄色 Hue3YR8/3	淡黄色 Hue3YR8/3	100	50	36	○ ○ ○	○	△	△	△	
	529	SD38	下	90	H6	3	外 横ナメ ハラクリ→ナメ(底部) 内 横ナメ ナメ(底部)	に赤い黄色 Hue3YR8/3	淡黄色 Hue3YR8/3	104	44	37	○ ○ ○	○	△	△	△	
	530	SD38	下	22	H6	3	外 横ナメ ハラクリ→ナメ(底部) 内 横ナメ ナメ(底部)	淡黄色 Hue3YR7/3	淡黄色 Hue3YR7/3	106	54	34	○ ○ ○	○	△	△	△	
92	531	SD38	下	133	H6	3	外 横ナメ ハラクリ→ナメ(底部) 内 横ナメ ナメ(底部) (表面が剥げた)	淡黄色 Hue3YR8/6	淡黄色 Hue3YR8/6	112	53	35	○ ○ ○	○	△	△	△	
	532	SD38	下	16	H6	3	外 横ナメ ハラクリ→ナメ(底部) 内 横ナメ ナメ(底部)	褐色 Hue3YR7/2	褐色 Hue3YR7/2	100	50	28	○ ○ ○	○	△	△	△	
	533	SD38	下	38	H6	3	外 横ナメ ハラクリ→ナメ(底部) 内 横ナメ ナメ(底部)	に赤い黄色 Hue3YR7/2	に赤い黄色 Hue3YR7/2	110	52	28	○ ○ ○	○	△	△	△	
	534	SD38	下	202	H6	3	外 横ナメ ハラクリ→ナメ(底部) 内 横ナメ ナメ(底部)	に赤い黄色 Hue3YR7/2	に赤い黄色 Hue3YR7/2	108	50	33	○ ○ ○	○	△	△	△	
	535	SD38	下	95	III	4	外 横ナメ ハラクリ→ナメ(底部) 内 横ナメ ナメ(底部)	淡黄色 Hue3YR8/6	淡黄色 Hue3YR8/6	95	52	25	○ ○ ○	○	△	△	△	
	536	SD38	下	198	H6	3	外 横ナメ ハラクリ→ナメ(底部) 内 横ナメ ナメ(底部)	灰褐色 Hue3YR7/2	灰褐色 Hue3YR7/2	105	54	24	○ ○ ○	○	△	△	△	
	537	SD38	下	17	H6	3	外 横ナメ ハラクリ→ナメ(底部) 内 横ナメ ナメ(底部)	淡黄色 Hue3YR8/4	淡黄色 Hue3YR8/4	96	50	27	○ ○ ○	○	△	△	△	
	538	SD38	下	113	H6	3	外 横ナメ ハラクリ→ナメ(底部) 内 横ナメ ナメ(底部)	淡黄色 Hue3YR8/6	淡黄色 Hue3YR8/3	64	○ ○ ○	○	△	△	△	△		
	539	SD38	下	122 130	H6	3	外 横ナメ ハラクリ→ナメ(底部) 内 横ナメ ナメ(底部)	淡黄色 Hue3YR8/6	淡黄色 Hue3YR8/3	52	○ ○ ○	○	△	△	△	△		
	540	SD38	下	15	H6	3	外 横ナメ ハラクリ→ナメ(底部) 内 横ナメ ナメ(底部)	に赤い黄色 Hue3YR7/2	に赤い黄色 Hue3YR7/2	55	○ ○ ○	○	△	△	△	△		
	541	SD38	下	60	H6	3	外 横ナメ ハラクリ→ナメ(底部) 内 横ナメ ナメ(底部)	淡黄色 Hue3YR7/4	淡黄色 Hue3YR7/4	53	○ ○ ○	○	△	△	△	△		
	542	SD38	下	164	H6	3	外 横ナメ ハラクリ→ナメ(底部) 内 横ナメ ナメ(底部)	淡黄色 Hue3YR7/2	淡黄色 Hue3YR7/2	51	○ ○ ○	○	△	△	△	△		
	543	SD38	下	104	H6	3	外 横ナメ ハラクリ→ナメ(底部) 内 横ナメ ナメ(底部)	淡黄色 Hue3YR7/3	淡黄色 Hue3YR7/3	51	○ ○ ○	○	△	△	△	△		
	544	SD38	下	132	H6	3	外 横ナメ ハラクリ→ナメ(底部) 内 横ナメ ナメ(底部)	淡黄色 Hue3YR7/3	淡黄色 Hue3YR7/3	48	○ ○ ○	○	△	△	△	△		
	545	SD38	下	184	H6	4	外 横ナメ ハラクリ→ナメ(底部) 内 横ナメ ナメ(底部)	灰白色 Hue3YR8/2	灰白色 Hue3YR8/2	126	66	46	○ ○ ○	○	△	△	△	
	546	SD38	下	37	H6	4	外 横ナメ ハラクリ→ナメ(底部) 内 横ナメ ナメ(底部)	淡黄色 Hue3YR8/6	淡黄色 Hue3YR8/4	119	64	45	○ ○ ○	○	△	△	△	
	547	SD38	下	25	H6	4	外 横ナメ ハラクリ→ナメ(底部) 内 横ナメ ナメ(底部)	に赤い黄色 Hue3YR7/4	に赤い黄色 Hue3YR7/4	115	60	43	○ ○ ○	○	△	△	△	
	548	SD38	下	94 192	H6	4	外 横ナメ ハラクリ→ナメ(底部) 内 横ナメ ナメ(底部)	に赤い褐色 Hue3YR7/4	に赤い褐色 Hue3YR7/4	110	62	42	○ ○ ○	○	△	△	△	
	549	SD38	下	211 234	H6	4	外 横ナメ ハラクリ→ナメ(底部) 内 横ナメ ナメ(底部)	褐色 Hue3YR6/6	褐色 Hue3YR6/6	104	58	38	○ ○ ○	○	△	△	△	
	550	SD38	下	121	H6	4	外 横ナメ ハラクリ→ナメ(底部) 内 横ナメ ナメ(底部)	浅黄色 Hue3YR7/3	浅黄色 Hue3YR7/4	110	60	51	○ ○ ○	○	△	△	△	

第26表 古代の遺物觀察表（4）土師器

機器番号	機器番号	出土遺構	層	取上番号	器種	分類	器面調整	色調		法量(cm)				胎土		焼成	備考	
								外側	内側	口徑	底径	高さ	基盤高さ	長角石	短角石			
551	SZ038	下	59	16	外 樹皮 (体部下端に粘土付着)		内 樹皮ナメ (ナメ)	に淡い黄褐色	に淡い黄褐色	6.4		○	○	黒墨	茶色墨	良	回転台焼成回り 底面外側に棒状工具痕	
552	SZ038	下	62	16	外 樹皮 (体部下端に粘土付着)		内 樹皮ナメ (ナメ)	浅黄褐色	浅黄褐色	6.8		○	○	良	回転台焼成回り			
553	SZ038	下	133	8	外 樹皮 (体部下端に粘土付着)		内 樹皮ナメ (ナメ)	浅黄褐色	浅黄褐色	6.4		○	○	良	回転台焼成回り			
554	SZ038	下	102	8	外 樹皮 (体部下端に粘土付着)		内 樹皮ナメ (ナメ)	浅黄褐色	浅黄褐色	6.0				○	○	茶色墨	回転台焼成回り 底面外側に棒状工具痕	
555	SZ038	下	119	8	外 樹皮 (体部下端に粘土付着)		内 樹皮ナメ (ナメ)	に淡い黄褐色	に淡い黄褐色	6.1		○	○	黒墨	茶色墨	良	回転台焼成回り	
556	SZ038	下	51	16	外 樹皮 (体部下端に粘土付着)		内 樹皮ナメ (ナメ)	褐色	褐色	11.2	6.2	5.1		○	○	良	回転台焼成回り	
557	SZ038	下	231	8	外 樹皮 (体部下端に粘土付着)		内 樹皮ナメ (ナメ)	に淡い黄褐色	に淡い黄褐色	8.8	6.4	4.2		○	○	黑色墨	回転台焼成回り 底面不確定	
558	SZ038	下	201	15	外 回転土子 (体部下端に粘土付着)		内 ナメ	浅黄褐色	浅黄褐色	9.4	5.8	3.7		○	○	良	回転台焼成回り	
559	SZ038	下	168	16	外 樹皮 (体部下端に粘土付着)		内 樹皮ナメ (ナメ)	褐色	褐色	6.0		○	○	黒墨	茶色墨	良	回転台焼成回り	
93	560	SZ038	下	8	外 樹皮 (体部下端に粘土付着)		内 樹皮ナメ (ナメ)	に淡い黄褐色	に淡い黄褐色	6.0				○	○	良	回転台焼成回り 底面外側に棒状工具痕	
561	SZ038	下	124	8	外 樹皮 (体部下端に粘土付着)		内 樹皮ナメ (ナメ)	浅黄褐色	浅黄褐色	7.0				○	○	茶色墨	回転台焼成回り	
562	SZ038	下	9	8	外 樹皮 (体部下端に粘土付着)		内 樹皮ナメ (ナメ)	褐色	褐色	5.9				○	○	良	回転台焼成回り 底面外側に棒状工具痕	
563	SZ038	下	145	8	外 樹皮 (体部下端に粘土付着)		内 樹皮ナメ (ナメ)	褐色	褐色	5.7				○	○	黒墨	回転台焼成回り	
564	SZ038	下	208	16	外 樹皮 (体部下端に粘土付着)		内 樹皮ナメ (ナメ)	に淡い黄褐色	に淡い黄褐色	5.8		○	○	○	○	良	回転台焼成回り 底面外側に工具痕	
565	SZ038	下	57	16	外 樹皮 (体部下端に粘土付着)		内 樹皮ナメ (ナメ)	灰白色	灰白色	6.7		○	○	○	○	茶色墨	回転台焼成回り	
566	SZ038	下	24	16	外 樹皮 (体部下端に粘土付着)		内 樹皮ナメ (ナメ)	浅黄褐色	浅黄褐色	6.0		○	○	○	○	黒墨	回転台焼成回り	
567	SZ038	下	45	16	外 樹皮 (体部下端に粘土付着)		内 樹皮ナメ (ナメ)	褐色	褐色	5.6		○	○	○	○	黒墨	良	回転台焼成回り
568	SZ038	下	94	16	外 樹皮 (体部下端に粘土付着)		内 樹皮ナメ (ナメ)	に淡い黄褐色	に淡い黄褐色	5.4		○	○	○	○	良	回転台焼成回り	
569	SZ038	下	41	217	外 樹皮 (体部下端に粘土付着)		内 樹皮ナメ (ナメ)	褐色	褐色	5.9		○	○	○	○	茶色墨	良	回転台焼成回り
570	SZ038	下	145	6	外 回転土子 (体部下端に粘土付着)		内 樹皮ナメ (ナメ)	浅黄褐色	浅黄褐色	6.0		○	○	○	○	黑色墨	回転台焼成回り	
571	SZ038	下	20	16	外 樹皮 (体部下端に粘土付着)		内 樹皮ナメ (ナメ)	に淡い黄褐色	に淡い黄褐色	6.2				○	○	良	回転台焼成回り 底面外側に棒状工具痕	
572	SZ038	下	1	16	外 樹皮 (体部下端に粘土付着)		内 樹皮ナメ (ナメ)	に淡い黄褐色	に淡い黄褐色	6.0				○	○	良	回転台焼成回り 底面外側に棒状工具痕	
573	SZ038	下	118	16	外 樹皮 (体部下端に粘土付着)		内 樹皮ナメ (ナメ)	灰白色	灰白色	6.0				○	○	白色墨	回転台焼成回り	
574	SZ038	下	83	16	外 樹皮 (体部下端に粘土付着)		内 樹皮ナメ (ナメ)	浅黄褐色	浅黄褐色	7.0		○	○	○	○	良	回転台焼成回り	
575	SZ038	下	145	16	外 樹皮 (体部下端に粘土付着)		内 樹皮ナメ (ナメ)	黄色	黄色	6.2		○	○	○	○	良	回転台焼成回り	
576	SZ038	下	191	6	外 樹皮 (体部下端に粘土付着)		内 樹皮ナメ (ナメ)	浅黄褐色	浅黄褐色	6.4		○	○	○	○	良	回転台焼成回り	
577	SZ038	下	39	16	外 回転土子 (体部下端に粘土付着)		内 樹皮ナメ (ナメ)	灰白色	灰白色	6.0				○	○	良	回転台焼成回り	
578	SZ038	下	172	16	外 樹皮 (体部下端に粘土付着)		内 回転土子	に淡い黄褐色	に淡い黄褐色	6.0		○	○	○	○	良	回転台焼成回り	
579	SZ038	下	145	16	外 樹皮 (体部下端に粘土付着)		内 樹皮ナメ (ナメ)	褐色	褐色	6.0		○	○	○	○	良	回転台焼成回り	
580	SZ038	下	32	16	外 樹皮 (体部下端に粘土付着)		内 樹皮ナメ (ナメ)	褐色	褐色	6.4		○	○	○	○	良	回転台焼成回り	
581	SZ038	下	145	16	外 樹皮 (体部下端に粘土付着)		内 樹皮ナメ (ナメ)	浅黄褐色	浅黄褐色	5.8		○	○	○	○	黒墨	良	回転台焼成回り
582	SZ038	下	48	16	外 樹皮 (体部下端に粘土付着)		内 樹皮ナメ (ナメ)	褐色	褐色	5.4		○	○	○	○	良	回転台焼成回り	
583	SZ038	下	93	16	外 樹皮 (体部下端に粘土付着)		内 ナメ	に淡い黄褐色	に淡い黄褐色	6.0		○	○	○	○	良	回転台焼成回り	

第27表 古代の遺物観察表(5) 土器部

標図 番号	標記 番号	出土 場所	層 層	取上 番号	器種 分類	器面調整	色調		法量(cm)			胎土		構成	備考	
							外面		内面			底 径 高		器 高		
							外 外	内 内	口 口	底 底	径 径	高 高	石 石英	長 長石	矽 矽利	
94	584	SD38	下	213	18-	6 内 横ナデ ハラ切り→ナデ(底部)	浅黄色	浅黄色	Hue0YYR8/3	54	○ ○ ○ ○ ○	良	回転台時計回り			
	585	SD38	下	35	18-	6 内 横ナデ ハラ切り→ナデ(底部)	浅黄色	浅黄色	Hue0YYR8/3	62	○ ○ ○ ○ ○	良	回転台時計回り			
	586	SD38	下	76	18-	6 内 ハラ切り→ナデ(底部)	浅黄色	浅黄色	Hue0YYR8/3	60	○ ○ ○ ○ ○	白色粘土 黑色粘土	良			
	587	SD38	下	96	18-	6 内 ハラ切り→ナデ(底部)	浅黄色	浅黄色	Hue0YYR7/2	62	○ ○ ○ ○ ○	黑色粘土	良			
	588	SD38	下	86	18-	外 横ナデ ハラ切り→ナデ(底部)	灰白色	灰白色	Hue0YYR8/2	56	○ ○ ○ ○ ○	底盤外側のハラ切り痕 深い				
	589	SD38	下	一概	-	外 横ナデ ハラ切り→工具痕?	灰白色	灰白色	Hue0YYR7/6	60	○ ○ ○ ○ ○	良	回転台時計回り			
	590	SD38	下	228	18-	- 内 ハラ切り→ナデ(底部)	浅黄色	浅黄色	Hue0YYR8/4	122	36 ○ ○ ○ ○	黒台付 回転台時計回り				
	591	SD38	下	185	陶	1 外 回転ナデ+赤色顔料他 内 ハラ切り→高台+ナデ(底部)	にぶい褐色	にぶい褐色	Hue0YYR7/4	92	07 ○ ○ ○ ○	良	内面に赤色顔料他 回転台時計回り			
	592	SD38	下	一概	陶	1 外 回転ナデ+赤色顔料他 内 ハラ切り→高台+ナデ(底部)	褐色	褐色	Hue0YYR7/6	100	07 ○ ○ ○ ○	内面に赤色顔料他 回転台時計回り				
	593	SD38	下	一概	陶	2 外 横ナデ 内 横ナデ ハラ切り→高台+ナデ(底部)	浅黄色	浅黄色	Hue0YYR8/2	74	06 ○ ○ ○ ○	白色粘土	良			
95	594	SD38	下	106	陶	3 外 横ナデ 内 横ナデ ハラ切り→高台+ナデ(底部)	浅黄色	浅黄色	Hue0YYR8/3	140	75 5.3 1.3 ○ ○ ○	黒背景 白色粘土 黑色粘土	不	回転台時計回り		
	595	SD38	下	109	陶	3 外 横ナデ 内 横ナデ ハラ切り→高台+ナデ(底部)	浅黄色	浅黄色	Hue0YYR8/3	130	75 5.2 1.2 ○ ○ ○	黒背景 白色粘土 黑色粘土	不	回転台時計回り		
	596	SD38	下	105	陶	3 外 横ナデ 内 横ナデ ハラ切り→高台+ナデ(底部)	にじく黄褐色	にじく黄褐色	Hue0YYR7/2	124	86 4.9 0.8 ○ ○ ○	黒背景 黑色粘土	回転台時計回り			
	597	SD38	下	163	陶	3 外 横ナデ 内 横ナデ ハラ切り→高台+ナデ(底部) 内 横ナデ 印江→ナデ(底部)	浅黄色	浅黄色	Hue0YYR8/4	80	13 ○ ○ ○ ○	見込みに有日痕 回転台時計回り				
	598	SD38	下	12	陶	3 外 横ナデ 内 横ナデ ハラ切り→高台+ナデ(底部)	浅黄色	浅黄色	Hue0YYR8/3	83	15 ○ ○ ○ ○	白色粘土	回転台時計回り			
	599	SD38	下	215	陶	3 外 横ナデ 内 横ナデ ハラ切り→高台+ナデ(底部) 内 横ナデ ナデ(底部)	褐色	褐色	Hue0YYR7/6	68	08 ○ ○ ○ ○	黒背景 白色粘土	良			
	600	SD38	下	99	陶	3 外 横ナデ 内 横ナデ ハラ切り→高台+ナデ(底部) 内 横ナデ ナデ(底部)	褐色	褐色	Hue0YYR7/3	87	11 ○ ○ ○ ○	黒背景	回転台時計回り			
	601	SD38	下	27	陶	3 外 横ナデ ハラ切り?	ハラ切り→高台+ナデ(底部)	浅黄色	Hue0YYR8/4	65	11 ○ ○ ○ ○	良	回転台時計回り ハケ目状工具痕			
	602	SD38	下	46	陶	3 外 横ナデ 内 横ナデ ハラ切り→ナデ(底部)	浅黄色	浅黄色	Hue0YYR8/3	○ ○ ○ ○ ○	白色粘土	良				
	603	SD38	下	49	陶	3 外 横ナデ 内 横ナデ ハラ切り→高台+ナデ(底部) 内 横ナデ ナデ(底部)	浅黄色	浅黄色	Hue0YYR8/4	○ ○ ○ ○ ○	黑色粘土	回転台時計回り				
	604	SD38	下	120	陶	3 外 横ナデ 内 横ナデ ハラ切り→高台+ナデ(底部) 内 横ナデ	浅黄色	浅黄色	Hue0YYR7/3	○ ○ ○ ○ ○	黑色粘土 黑色粘土	回転台時計回り				
	605	SD38	下	43	陶	3 外 横ナデ 内 横ナデ ハラ切り→高台+ナデ(底部) 内 横ナデ ナデ(底部)	浅黄色	浅黄色	Hue0YYR8/3	○ ○ ○ ○ ○	黑色粘土	良				
	606	SD38	下	167	陶	3 外 横ナデ 内 横ナデ ハラ切り→高台+ナデ(底部) 内 横ナデ ナデ(底部)	浅黄色	浅黄色	Hue0YYR8/3	○ ○ ○ ○ ○	黑色粘土 黑色粘土 黑色粘土	回転台時計回り				
	607	SD38	下	128	陶	4 外 横ナデ 内 横ナデ ハラ切り→高台+ナデ(底部) 内 横ナデ ナデ(底部)	浅黄色	浅黄色	Hue0YYR8/3	86	1.8 ○ ○ ○ ○ ○	白色粘土	回転台時計回り			
	608	SD38	下	159	陶	4 外 横ナデ 内 横ナデ ハラ切り→高台+ナデ(底部) 内 横ナデ ナデ(底部)	浅黄色	浅黄色	Hue0YYR8/3	70	14 ○ ○ ○ ○ ○	砂粒	回転台時計回り			
	609	SD38	下	219	陶	4 外 横ナデ 内 横ナデ ハラ切り→高台+ナデ(底部) 内 横ナデ ナデ(底部)	浅黄色	浅黄色	Hue0YYR8/3	74	15 ○ ○ ○ ○ ○	白色粘土 黑色粘土	良			
	610	SD38	下	165	陶	4 外 横ナデ 内 横ナデ ハラ切り→高台+ナデ(底部) 内 横ナデ ナデ(底部)	灰白色	灰白色	Hue0YYR8/2	76	16 ○ ○ ○ ○ ○	黑色粘土	回転台時計回り			

第28表 古代の遺物觀察表(6) 土師器

規格番号	規格番号	出土遺構	層	取上番号	器種	分類	器面調整		色調		法量(cm)		胎土		焼成	備考		
							外面	内面	口徑	底径	高さ	基盤	石英	長筋	他			
95	611	SD38	下	220	碗	4	内 ハラ切り・高台・ナド (底部) 内 壁面・ナド (底部)	淡黄色 Hue25Y8/4	淡黄色 Hue25Y8/4	6.4	1.1	○	○	黒墨器	良	刮削台時計回り		
	612	SD38	下	68	碗	4	内 ハラ切り・高台・ナド (底部) 内 壁面・ナド (底部)	浅黄褐色 Hue10Y8R/4	浅黄褐色 Hue10Y8R/4	7.2	1.2	○	○	白色粘物	良	刮削台時計回り		
	613	SD38	下	71	碗	4	内 ハラ切り・高台・ナド (底部) 内 壁面・ナド (底部)	にこにこ 黄褐色 Hue10Y7R/4	にこにこ 黄褐色 Hue10Y7R/4	6.1	1.0	○	○	黑色粘物 茶色粘物	良	刮削台時計回り		
	614	SD38	下	160	碗	4	内 ハラ切り・高台・ナド (底部) 内 ナド (底部)	浅黄褐色 Hue10Y8R/4	浅黄褐色 Hue10Y8R/4	7.8	1.0	○	○	○	良	刮削台時計回り		
	615	SD38	下	161	碗	4	内 ハラ切り・高台・ナド (底部) 内 壁面 (底部)	浅黄褐色 Hue10Y8R/4	浅黄褐色 Hue10Y8R/4	12	○	○	○	黒墨器 黑色粘物	良			
	616	SD38	下	33	碗	5A	内 ハラ切り・高台・ナド (底部) 内 壁面・ナド (底部)	浅黄褐色 Hue10Y8R/3	浅黄褐色 Hue10Y8R/3	142	9.5	7.1	22	○	○	黑色粘物	良	刮削台時計回り
	617	SD38	下	44	碗	5A	内 ハラ切り・高台・ナド (底部) 内 壁面・ナド (底部)	褐色 Hue5/3Y7R/6	褐色 Hue5/3Y7R/6	130	8.2	7.0	16	○	○	茶色粘物	良	刮削台時計回り
	618	SD38	下	100	碗	5A	内 ハラ切り・高台・ナド (底部) 内 壁面・ナド (底部)	浅黄褐色 Hue5/3Y8R/6	浅黄褐色 Hue5/3Y8R/6	146	9.2	6.6	19	○	○	白色粘物 黑色粘物	良	刮削台時計回り
	619	SD38	下	188	碗	5A	内 ハラ切り・高台・ナド (底部) 内 壁面・ナド (底部)	にこにこ 黄褐色 Hue10Y8E/3	にこにこ 黄褐色 Hue10Y8E/3	○	○	○	○	○	良	刮削台時計回り		
	620	SD38	下	157	碗	5A	内 ハラ切り・高台・ナド (底部) 内 壁面・ナド (底部)	浅黄褐色 Hue10Y8E/3	浅黄褐色 Hue10Y8E/3	91	20	○	○	○	白色粘物	良	茶色粘物?	
96	621	SD38	下	101	碗	5A	内 ハラ切り・高台・ナド (底部) 内 壁面・ナド (底部)	にこにこ 黄褐色 Hue5/3Y8R/6	にこにこ 黄褐色 Hue5/3Y8R/6	90	20	○	○	○	白色粘物 黑色粘物	良	高台面に剥落痕	
	622	SD38	下	206	碗	5A	内 ハラ切り・高台・ナド (底部) 内 壁面・ナド	にこにこ 黄褐色 Hue10Y7R/3	にこにこ 黄褐色 Hue5/3Y8R/6	8.4	16	○	○	○	良	茶色粘物?		
	623	SD38	下	28	碗	5A	内 ハラ切り・高台・ナド (底部) 内 壁面・ナド 木質 (底部)	浅黄褐色 Hue10Y8R/3	浅黄褐色 Hue10Y8R/3	8.7	19	○	○	○	白色粘物	良	内面に木質痕	
	624	SD38	下	89	碗	5A	内 ハラ切り・高台・ナド (底部)	にこにこ 黄褐色 Hue10Y7R/4	にこにこ 黄褐色 Hue10Y7R/4	90	18	○	○	○	良	刮削台時計回り		
	625	SD38	下	72	碗	5A	内 ハラ切り・高台・ナド (底部)	褐色 Hue5/3Y7R/6	褐色 Hue5/3Y7R/6	74	11	○	○	○	良	茶色粘物?		
	626	SD38	下	30	碗	5A	内 ハラ切り・高台・ナド (底部)	浅黄褐色 Hue5/3Y8R/6	浅黄褐色 Hue10Y8R/3	○	○	○	○	○	良			
	627	SD38	下	178	碗	5A	内 ナド (高台)	褐色 Hue5/3Y8R/6	褐色 Hue5/3Y8R/6	8.3	○	○	○	○	良			
	628	SD38	下	2	碗	5A	内 ナド (高台)	にこにこ 黄褐色 Hue10Y7R/3	にこにこ 黄褐色 Hue10Y7R/3	142	9.6	7.6	22	○	○	茶色粘物 黑色粘物	良	刮削台時計回り
	629	SD38	下	10	碗	5A	内 ハラ切り・高台・ナド (底部)	浅黄色 Hue25Y8/3	浅黄色 Hue25Y8/3	15.2	9.8	7.2	21	○	○	白色粘物	良	刮削台時計回り
	630	SD38	下	100	碗	5B	内 ハラ切り・高台・ナド (底部) 内 壁面・ナド (底部)	褐色 Hue5/3Y7R/6	褐色 Hue5/3Y7R/6	137	7.8	6.5	17	○	○	白色粘物 黑色粘物	良	刮削台時計回り
97	631	SD38	下	156	碗	5B	内 ハラ切り・高台・ナド (底部) 内 壁面・ナド	浅黄色 Hue25Y7/4	浅黄色 Hue25Y7/4	145	8.6	6.7	17	○	○	白色粘物 茶色粘物	良	刮削台時計回り
	632	SD38	下	111	碗	5B	内 ハラ切り・高台・ナド (底部) 内 壁面・ナド (底部)	にこにこ 黄褐色 Hue10Y7R/3	にこにこ 黄褐色 Hue10Y7R/3	8.6	17	○	○	○	茶色粘物	良	刮削台時計回り	
	633	SD38	下	225	碗	5B	内 ハラ切り・高台・ナド (底部) 内 壁面・ナド (底部)	浅黄褐色 Hue10Y8R/4	浅黄褐色 Hue10Y8R/4	140	○	○	○	○	良	刮削台時計回り		
	634	SD38	下	55	碗	5B	内 ハラ切り・高台・ナド (底部) 内 壁面・ナド (底部)	浅黄褐色 Hue10Y8R/3	浅黄褐色 Hue10Y8R/3	90	1.8	○	○	○	良	刮削台時計回り		
	635	SD38	下	127	碗	5B	内 ハラ切り・高台・ナド (底部) 内 壁面・ナド (底部)	浅黄色 Hue25Y8/2	浅黄色 Hue25Y8/2	○	○	○	○	○	良	刮削台時計回り		
	636	SD38	下	5	碗	5B	内 ハラ切り・高台・ナド (底部) 内 壁面・ナド (底部)	にこにこ 黄褐色 Hue10Y7R/4	にこにこ 黄褐色 Hue10Y7R/4	○	○	○	○	○	良			
	637	SD38	下	154	碗	5B	内 ハラ切り・高台・ナド (底部) 内 壁面・ナド (底部)	褐色 Hue25Y7/3	褐色 Hue25Y7/3	○	○	○	○	○	良	刮削台時計回り 二次加工品?		
	638	SD38	下	190	碗	5B	内 ハラ切り・高台・ナド (底部) 内 壁面・ナド (底部)	にこにこ 黄褐色 Hue10Y7R/3	にこにこ 黄褐色 Hue10Y7R/3	○	○	○	○	○	良	刮削台時計回り		
	639	SD38	下	36	碗	5B	内 ハラ切り・高台・ナド (底部) 内 壁面・ナド (底部)	浅黄色 Hue25Y8/3	浅黄色 Hue25Y8/3	○	○	○	○	○	良	刮削台時計回り		

第29表 古代の遺物観察表(7) 土器部

埠固 番号	埋蔵 番号	出土 道場	層	取上 番号	器種	分類	器面調整	色調		法量(cm)				胎土		焼成	備考		
								外側	内面	口 徑 寸 径	底 徑 寸 径	器 高 寸 高	石 英 寸 高	長 石 寸 高	カ シ 寸 高				
640	SD38	下	一括	塊	6	外 横ナデ 内 ハラ切り→高台+ナデ(底部) ナデ(底部)	淡黃褐色 Hue5YR8/4	淡黃褐色 Hue5YR8/4	7.6	1.0	○ ○ ○ ○					良			
641	SD38	下	228	塊	6	外 横ナデ 内 ハラ切り→高台+ナデ(底部) 内 横ナデ+ナデ(底部)	淡黃褐色 Hue5YR8/3	淡黃褐色 Hue5YR8/3	6.2	1.1	○ ○ ○ ○	黑色母				良			
642	SD38	下	77	塊	6	(横ナデ) 外 ハラ切り→高台+ナデ(底部) 内 横ナデ、ケズリ+ナデ(底部)	淡黃褐色 Hue5YR8/2	淡黃褐色 Hue5YR8/3			○				良				
643	SD38	下	139	塊	6	外 横ナデ 内 ハラ切り→高台+ナデ(底部) 内 横ナデ、ケズリ+ナデ(底部)	淡黃褐色 Hue5YR8/2	淡黃褐色 Hue5YR8/3		○ ○ ○					良				
644	SD38	下	145	塊	7	内 ケズリ、ナデ 外 ハラ切り→高台+ナデ(底部) 内 ナデ、ケズリ+ナデ(底部)	灰白色 Hue5YR8/2	灰白色 Hue5YR8/2	14.6	8.0	5.2	1.0	○ ○ ○ ○			良			
645	SD38	下	146	塊	8	外 ハラ切り→高台+剥剝+ナデ(底部) 内 横ナデ	淡黃色 Hue5YR7/4	淡黃色 Hue5YR7/4			○ ○ ○ ○				白台内面に剥剝痕				
646	SD38	下	172	塊	8	外 横ナデ 内 ハラ切り→高台+剥剝+ナデ(底部) 内 横ナデ、ナデ(底部)	淡黃色 Hue5YR6/4	淡黃色 Hue5YR6/4	7.4	1.3	○ ○ ○ ○	黑色母 白色母			白台内面に剥剝痕				
647	SD38	下	116	塊	-	外 ハラ切り→高台+ナデ(底部) 内 横ナデ、剥剝+ナデ(底部)	淡黃褐色 Hue5YR8/4	淡黃褐色 Hue5YR8/4	6.6	0.6	○ ○ ○ ○	白色母				良			
648	SD38	下	78	塊	-	外 ハラ切り→高台+ナデ(底部) 内 横ナデ	黄灰色 Hue5YR7/1	淡黃色 Hue5YR7/3	8.0	0.9	○ ○ ○ ○					良			
649	SD38	下	126	塊	-	外 ハラ切り→高台+ナデ(底部) 内 横ナデ+ナデ(底部)	淡黃褐色 Hue5YR8/6	淡黃褐色 Hue5YR8/4	7.5	1.2	○ ○ ○ ○	茶色母			底部薄い				
650	SD38	下	122	塊	-	外 ハラ切り→高台+ナデ(底部) 内 横ナデ+ナデ(底部)	褐色 Hue5YR7/4	褐色 Hue5YR7/4			○ ○ ○ ○				底部薄い				
651	SD38	下	98	塊	-	外 ハラ切り→高台+ナデ(底部) 内 横ナデ+ナデ(底部)	褐色 Hue5YR7/6	褐色 Hue5YR7/6			○ ○ ○ ○				底部薄い				
652	SD38	下	181	塊	2	外 横ナデ 内 ミズガ	灰黄色 Hue5YR7/2	灰黄色 Hue5YR2/1	14.2	7.4	5.6	0.6	○ ○ ○ ○			内黒土附器			
653	SD38	下	一括	塊	2	外 横ナデ 内 ハラ切り→高台+ナデ(底部) 内 ミズガ	淡黃褐色 Hue5YR8/4	黑色 Hue5YR2/0	8.0	0.4	○ ○ ○ ○					内黒土附器			
654	SD38	下	一括	塊	-	外 横ナデ 内 ハラ切り→高台+ナデ(底部) 内 ミズガ	淡黃褐色 Hue5YR8/4	黑色 Hue5YR2/1	7.4	0.7	○ ○ ○ ○					内黒土附器			
655	SD38	下	一括	塊	1	外 ハラ切り→ナデ(底部) 内 横ナデ、外縁に抜いたナデ(底部)	褐色 Hue5YR8/6	褐色 Hue5YR8/6	14.6	11.0	1.5	○ ○ ○ ○				良			
656	SD38	下	197	塊	1	外 横ナデ 内 横ナデ、外縁に抜いたナデ(底部)	褐色 Hue5YR6/6	褐色 Hue5YR6/6	14.0	9.6	1.5	○ ○ ○ ○	茶色母			良			
657	SD38	下	198	塊	1	外 横ナデ 内 横ナデ、外縁に抜いたナデ(底部)	褐色 Hue5YR6/6	褐色 Hue5YR6/6	12.9	9.0	1.5	○ ○ ○ ○	白色母 茶色母			良			
658	SD38	下	32	塊	2	外 横ナデ 内 ハラ切り→高台+ナデ(底部) ナデ(底部)	にじいろい黃褐色 Hue5YR7/4	にじいろい黃褐色 Hue5YR6/4	11.0	6.8	3.3	1.1	○ ○ ○ ○	黑色母 茶色母		黄台付器			
659	SD38	下	79	塊	3	外 横ナデ 内 ハラ切り→ナデ(底部) ナデ(底部)	淡黃褐色 Hue5YR8/3	淡黃褐色 Hue5YR8/3	10.9	5.3	2.5	○ ○ ○ ○				光沢高台	付器		
660	SD38	下	42	塊	3	外 回転ナデ、高台の底面下に粘土付着 内 ハラ切り→ナデ(底部)	にじいろい黃褐色 Hue5YR6/4	にじいろい黃褐色 Hue5YR6/4	11.8	6.0	2.8	○ ○ ○ ○				光沢高台	付器		
661	SD38	下	56	塊	4	外 横ナデ 内 横ナデ、ナデ(底部)	淡黃褐色 Hue5YR8/4	淡黃褐色 Hue5YR8/4	10.8	5.8	2.5	○ ○ ○ ○				回転台付斜削			
662	SD38	下	61	塊	4	外 横ナデ 内 横ナデ、ナデ(底部)	黑色 Hue5YR17/1	にじいろい黃褐色 Hue5YR7/4	5.7		○ ○ ○ ○	白色母 茶色母			底部外縁は黑色				
663	SD38	下	117	塊	4	外 横ナデ 内 横ナデ、ナデ(底部)	にじいろい黃褐色 Hue5YR7/4	にじいろい黃褐色 Hue5YR7/4	5.6		○ ○ ○ ○				回転台斜削				

第30表 古代の遺物観察表(8) 墓書土器

掲図 番号	掲載 番号	出土 遺構	層	取上 番号	器種	分類	器面調整	色調		法量(cm)				胎土	焼成	備考		
								外面	内面	口 徑	底 径	器 高	高 度	石 英	長 石	矽 砂	他	
97	664	SD38	下	33	16	6	外 横ナメ→墨書 内 ハウ切り→ナメ (底部) 内 横ナメ・澆汁ナメ (底部)	浅黄褐色 Hue07YB8-4	浅黄褐色 Hue07YB8-4	54		○ ○ ○					良	墨書土器 回転台時計回り

第31表 古代の遺物観察表(9) 土師器

掲図 番号	掲載 番号	出土 遺構	層	取上 番号	器種	分類	器面調整	色調		法量(cm)				胎土	焼成	備考		
								外面	内面	口 徑	底 径	器 高	高 度	石 英	長 石	矽 砂	他	
98	667	SD38	下	一紙	裏	-	外 ナメ(口縁部), 横方向のハケ目(脚部) 内 ナメ(口縁部), ケズリ記(脚部)	にじる黄褐色 Hue07YB8-4	にじる黄褐色 Hue07YB8-4	19.8		○ ○ ○					良	
	668	SD38	下	一紙	裏	-	外 ナメ(口縁部・一部足上半)	にじる黄褐色 Hue07YB8-3					○ ○ ○				良	
	669	SD38	下	一紙	裏	-	外 ナメ 内 ナメ(口縁部), 横方向のケズリ(脚部)	横灰灰色 Hue07YB8-4	にじる黄褐色 Hue07YB8-3	24.8		○ ○ ○					良	墨付着 回転台時計回り
	670	SD38	下	144	裏	-	外 ナメ 内 横方向のナメ	にじる黄褐色 Hue07YB8-4	にじる黄褐色 Hue07YB8-4	29.3		○ ○ ○					小穢	墨付着 回転台時計回り
	671	SD38	下	一紙	裏	-	外 ナメ 内 ナメ(口縁部), ケズリ(脚部)	にじる黄褐色 Hue07YB8-3	にじる黄褐色 Hue07YB8-4			○ ○ ○					良	墨付着 脚形?
	672	SD38	下	一紙	裏	-	外 ハウ目 内 ケズリ	黒色 Hue07YB2-1					○ ○				白色鉛物	良

第32表 古代の遺物観察表(10) 土師器・二次加工品

掲図 番号	掲載 番号	出土 遺構	層	取上 番号	器種	分類	器面調整	色調		法量(cm)				胎土	焼成	備考		
								外面	内面	口 徑	底 径	器 高	高 度	石 英	長 石	矽 砂	他	
98	673	SD38	下	一紙	輪	67	外 ハウ切り→ナメ→乳孔 内 ナメ(後頭部)に強めナメ	にじる黄褐色 Hue07YB8-7	にじる黄褐色 Hue07YB8-7	5.8		○ ○ ○					良	二次加工
	674	SD38	下	174	輪	-	外 ナメ 内 ナメ(後頭部)→剥離	浅黄褐色 Hue07YB8-3					○ ○ ○				良	二次加工
	675	SD38	下	207	輪	-	外 ナメ 内 ナメ(後頭部)→剥離	浅黄色 Hue07YB8-3					○ ○ ○				良	二次加工
	676	SD38	下	14	輪	5A	外 ナメ 内 ナメ(後頭部)→剥離	にじる黄褐色 Hue07YB7-4	にじる黄褐色 Hue07YB7-4	14.5		○ ○ ○					良	水加工 回転台時計回り

第33表 古代の遺物観察表(11) 土師器

掲図 番号	掲載 番号	出土 遺構	層	取上 番号	器種	分類	器面調整	色調		法量(cm)				胎土	焼成	備考		
								外面	内面	口 徑	底 径	器 高	高 度	石 英	長 石	矽 砂	他	
100	686	SD38	中	一紙	輪	27	外 ハウ切り→ナメ→ハウ記号 内 ミキ→剥離→剥離	にじる黄褐色 Hue07YB8-2/1		6.0		1.1	○ ○ ○				良	二次加工 内土器鋸、ヘラ記号
	687	SD38	上	一紙	輪	8	外 横ナメ 内 ハウ切り→窯台→剥離→ナメ(底部) 内 ナメ	浅黄色 Hue07YB7-3					○ ○ ○				良	窯内側に剥離痕 回転台時計回り
	688	SD38	上	一紙	輪	2	外 ハウ切り→窯台+ナメ(底部) 内 ナメ(底部)	浅黄色 Hue07YB7-4		7.0	0.9	0.9	○ ○ ○				良	内面に赤色剥離帯 水加工
	689	SD38	中	一紙	輪	2	外 ハウ切り→窯台+ナメ(底部) 内 ナメ(底部)	浅黄色 Hue07YB8-6		8.4	0.9	0.9	○ ○ ○				良	内面に赤色剥離帯 水加工
	690	SD38	上	一紙	輪	3	外 陶粒+ナメ→ハウ切り→ナメ(底部) 内 ナメ(底部)	橙色 Hue07YB8-9		10.0	5.2	3.3	○ ○ ○				良	白色剥離 回転台時計回り
	691	SD38	中	一紙	輪	5	外 橙ナメ 内 橙ナメ→窯台+剥離 内 横ナメ・澆汁ナメ(底部)	浅黄色 Hue07YB8-3		5.5		○ ○ ○					良	
	692	SD38	上	一紙	窯皿?	-	外 ナメ 内 ナメ(中心と外周に圓孔のナメ(底部))	浅黄色 Hue07YB7-3		7.8		○ ○ ○					良	
	693	SD38	上	一紙	窯皿?	-	外 ナメ 内 ハウ切り→ナメ(底部)	にじる黄褐色 Hue07YB7-2		12.8		○ ○ ○					良	底部外側に横次の窯痕
	694	SD38	上	一紙	窯皿?	-	外 ナメ 内 ナメ(底部)	浅黄色 Hue07YB8-3		16.8	12.8	2.3	○ ○ ○				良	
	695	SD38	上	一紙	窯皿?	-	外 ナメ 内 ナメ	橘灰色 Hue07YR4/1		14.2	9.8	3.5	○ ○ ○				良	体部が橘色する
	696	SD38	上	一紙	窯皿?	-	外 ナメ 内 ナメ	橘灰色 Hue07YR7/6		11.5	7.4	2.9	○ ○ ○				良	
	697	SD38	中	一紙	窯皿?	-	外 ナメ 内 ナメ	橘灰色 Hue07YR6-6		9.8		○ ○ ○					良	

第34表 古代の遺物観察表(12) 土師器

擇因 番号	掲載 番号	出土 遺構	層位	取上 番号	器種	分類	器面調整	色調		法量(cm)				胎土		焼成	備考
								外面	内面	口徑	底径	器高	高石英	長石	カセ	他	
	706	SZ38	-	一紙	碗	2	外 模形(体部)・ハケズリ(体部下端) 内 ハク切り・高台+ナデ(底部) 内 僧帽	黄褐色 Hue5YR8-9	黄褐色 Hue5YR8-9	70	0.4	○ ○ ○ ○	白色細粒	良	回転台轉計団り		
	707	K-19区	複数	一紙	碗		外 ハク切り・高台+ナデ(底部) 内 ミガキ	明黄褐色 Hue5YR7-6	黑色 HueNL5-0	76	0.5	○ ○ ○ ○		良	内黒土器 底部厚い		
	708	SZ38	II	一紙	碗	6	外 ハク切り・ナデ(底部) 内 模形(体部)・押注+ナデ(底部)	にじむ黄褐色 Hue5YR7-6	にじむ黄褐色 Hue5YR7-4	66		○ ○ ○ ○		良	底部薄い		
101	709	SZ38	-	一紙	碗	3	模形(体部+体部) 外 ケズリ(体部+底) 内 ハク切り+ナデ(底部) 内 僧帽+ナデ(底部)	浅黄褐色 Hue5YR8-3	浅黄褐色 Hue5YR8-3	100	5.8	30	○ ○ ○ ○		良		
	710	SZ38	-	一紙	皿	-	外 ハクミガキ 内 ハク切り+ナデ(底部) 内 ナデ	褐色 Hue5YR7-6	褐色 Hue5YR7-6	80		○ ○ ○ ○	茶色細粒	良	体部が屈曲する		
	711	SZ38	-	一紙	皿	-	外 僧帽+ナデ(底部) 内 僧帽+ナデ(底部)	褐色 Hue5YR6-7	褐色 Hue5YR6-7	152	11.2	34	○ ○ ○ ○		良		
	712	SZ38	-	一紙	皿	-	外 ナデ 内 ナデ	浅黄褐色 Hue5YR8-4	浅黄褐色 Hue5YR8-6	140		○ ○ ○ ○		良			

第35表 古代の遺物観察表(13) 須恵器

擇因 番号	掲載 番号	出土 遺構	層位	取上 番号	器種	分類	部材	器面調整	色調		法量(cm)				胎土		備考
									外面	内面	口徑	底径	器高	高石英	長石	カセ	他
80	438	SK68	埴土.1	6	黑	瓶	外 株子日タクキ 内 青釉淡青白底	灰色 Hue5Y4-1	灰オリーブ色 Hue5Y5-2			○ ○ ○ ○					黒墨母
	439	SK68	埴土.1	一括	黑	瓶	外 株子日タクキ 内 青釉淡青白底	にじむ灰色 Hue2SY6-4	にじむ黄褐色 Hue2SY5-4			○ ○ ○ ○					
	440	SK68	埴土.1	8	黑	瓶	外 株子日タクキ 内 守子日タクキ	灰オリーブ色 Hue5Y5-3	灰オリーブ色 Hue5Y5-3			○ ○ ○ ○					
	441	SK68	埴土.1	5	黑	瓶	外 株子日タクキ 内 青釉淡青白底	灰黄褐色 Hue2SY6-2	灰黄褐色 Hue2SY6-2			○ ○ ○ ○					
81	444	SK70	埴土.1	2	白	瓶	外 ナデ 内 内	灰色 HueSY6-1	灰色 Hue7SY5-1			○ ○ ○ ○					
	445	SK70	埴土.	一括	黑	瓶	外 株子日タクキ 内 青釉淡青白底	灰色 HueSY6-1	灰オリーブ色 Hue5Y5-2			○ ○ ○ ○					
	454	SK72	埴土.1	2	白	口縁瓶	外 ナデ 内 ナデ	灰色 Hue10Y6-1	灰色 Hue10Y6-1	107		○ ○ ○ ○					
84	469	SK73	埴土.	一括	黑	瓶	外 株子日タクキ 内 平行タクキ+ナデ	にじむ褐色 Hue2SY6-3	灰オリーブ色 Hue2SY5-2			○ ○ ○ ○					
	470	SK73	埴土.	一括	黑	瓶	外 株子日タクキ 内 平行タクキ+ナデ	にじむ褐色 Hue2SY6-3	灰オリーブ色 Hue2SY5-2			○ ○ ○ ○					
85	473	SK74	埴土.	一括	黑	瓶	外 ナデ 内 ナデ	灰色 Hue2SY6-4	にじむ灰色 Hue2SY6-3			○ ○ ○ ○					
	475	SK74	埴土.4	3	黑	瓶	外 口縁瓶 内 平子日タクキ 内 青釉淡青白底	灰色 HueSY6-1	灰色 HueSY6-1			○ ○ ○ ○					黒墨母 外面一口縁部内面に自然釉
	476	SK74	埴土.4	6	黑	瓶	外 口縁瓶 内 ハク切り+ナデ(底部) 内 青釉淡青白底(瓶)	灰色 HueSY6-1	灰色 HueSY5-1			○ ○ ○ ○					外面一口縁部内面に自然釉
	477	SK74	埴土.	一括	黑	瓶	外 ナデ 内 ナデ	褐色 Hue10YB4-4	赤褐色 Hue2SY4-6			○ ○ ○ ○					黒墨母 瓶面全体に自然釉
86	478	SK74	埴土.5	10	黒	瓶	外 株子日タクキ 内 青釉淡青白底	灰色 HueSY5-1	灰オリーブ色 Hue5Y6-2			○ ○ ○ ○					外面全体に自然釉
	479	SK74	埴土.5	8	黒	瓶	外 株子日タクキ 内 青釉淡青白底+ナデ	灰色 HueSY6-1	灰色 HueSY5-1			○ ○ ○ ○					黒墨母
	480	SK74	埴土.5	9	黒	瓶	外 株子日タクキ 内 青釉淡青白底	灰色 HueSY4-1	灰オリーブ色 Hue5Y6-2			○ ○ ○ ○					外面全体に自然釉
	481	SK74	埴土.4	4	黒	瓶	外 株子日タクキ 内 青釉淡青白底 平行昌島窓+ナデ	黃褐色 Hue2SY4-1	黃褐色 Hue2SY4-1			○ ○ ○ ○					黒墨母
86	485	SK77	埴土.	一括	白	瓶	外 青釉淡青白底+ナデ	灰色 Hue10Y5-1	灰色 Hue10Y5-1			○ ○ ○ ○					
	486	SK77	埴土.	一括	黒	瓶	外 株子日タクキ 内 平行昌島窓+ナデ	灰オリーブ色 Hue5Y5-2	灰オリーブ色 Hue2SY5-3			○ ○ ○ ○					
	496	SK77	埴土.	一括	环	瓶	外 ナデ 内 ナデ	灰オリーブ色 Hue5Y5-2	灰オリーブ色 Hue5Y5-2	92		○ ○ ○ ○					

第36表 古代の遺物観察表(14) 須恵器

掲団 番号	埋蔵 番号	出土 遺構	層	取上 番号	種 類	器 種	部位	器面調整		色調		法量(cm)			胎土		備考
								外面	内面	口径	底径	器高	長石	カセ	他		
37	499	SZ97 (SP71)	堆土	2	更	腹屈	外	梯子目タケキ 内 青海波当兵頭	Hue25YR4/2	赤褐色	Hue22YR4/2		○	○	黒雲母	SZ97 - 19	
	504	SZ97 - 19	堆土	-	一括	口縁部	外	ナデ 内 ナデ	Hue10YR2/1	黒色 オリーブ色	Hue5Y3/1		○				
	505	SZ97 - 19	堆土	-	一括	更	腹屈	外 梯子目タケキ 内 タケキ→ナデ、青海波当兵頭	Hue10YR5/2	灰褐色 灰黃褐色	Hue10YR5/2		○				
	506	SZ97 - 19	堆土	-	一括	更	腹屈	外 梯子目タケキ 内 平打タケキ→ナデ	Hue10YR5/2	にへい・黒褐色 黒褐色	Hue25Y4/1				黒雲母		
	507	SZ97 - 19	堆土	-	一括	更	腹屈	外 梯子目タケキ 内 青海波当兵頭	Hue25Y5/2	暗紅褐色 黒褐色	Hue25Y5/2		○				
	508	SZ97 - 19	堆土	-	一括	更	腹屈	外 平打タケキ 内 平打タケキ	Hue10YR6/3	にへい・黒褐色 黒褐色	Hue10YR6/3		○				
88	510	SP107	堆土	-	一括	环	口縁部	外 ナデ 内 ナデ	Hue25Y7/2	灰褐色 灰褐色	Hue25Y7/2		○	○			
99	677	SZ38	下	-	一括	环	口縁部	外 ナデ 内 ナデ	HueNS-0	灰褐色	HueNS-0		○	○			
	678	SZ38	下	-	一括	环	底屈	外 ナデ 内 ナデ	Hue10Y4/1	灰褐色 灰褐色	Hue7.5Y4/1	11.0	○	○	○		
	679	SZ38	下	-	一括	腹屈	外 回転ナデ 内 回転ナデ	HueNS-0	灰褐色 灰褐色	Hue25Y6-0		6.6	○		側面系 回転時計回り		
	680	SZ38	下	-	一括	腹屈	外 ナデ 内 カオリ	Hue10Y7/3	にへい・黒褐色 黒褐色	Hue25Y4/3		○	○	○	側面系		
	681	SZ38	下	186 235	更	腹屈	外 平打タケキ 内 青海波当兵頭	Hue5Y6/1	灰色 灰褐色	Hue5Y5/1		○	○	○	側面系 外側に自然地		
	682	SZ38	下	193	更	腹屈	外 梯子目タケキ 内 青海波当兵頭→ナデ	Hue5Y6/2	灰白色 黒褐色	Hue25Y2/1		○	○	○			
100	683	SZ38	下	93	更	腹屈	外 梯子目タケキ 内 平打タケキ	Hue10Y3/2	黒褐色 灰褐色	Hue25Y5/1		○	○	○	側面系 外側に茶褐色の釉薬		
	684	SZ38	下	-	一括	腹屈	外 平打タケキ 内 平打タケキ	Hue5Y6/1	灰色 灰褐色	Hue5Y5/1		○	○	○			
	685	SZ38	上	-	一括	环	口縁部	外 ナデ 内 ナデ	HueNS-0	灰褐色 灰褐色	Hue10YR5/2		○	○			
	686	SZ38	上	-	一括	环	口縁部	外 ナデ 内 ナデ	Hue5Y6/1	灰色 灰褐色	Hue5Y6/1		○	○		東洋系(縦窓)	
	699	SZ38	上	-	一括	环	口縁部 底屈	外 ナデ 内 ナデ	Hue7.5Y5/1	灰色 灰褐色	Hue7.5Y6/1	14.0	9.2	5.0	○	○	白色絆物
	700	SZ38	中	-	一括	腹屈	外 回転ナデ 内 ナデ	Hue7.5Y6/1	灰色 灰褐色	Hue7.5Y6/1	16.5	○	○	○	白色絆物		
101	715	SZ38	中	-	一括	环	腹屈	外 ナデ 内 ナデ	Hue5Y6/1	灰色 灰褐色	Hue25Y6/2		○	○	○		
	716	SZ38	-	-	一括	环	底屈	外 ナデ 内 ナデ	Hue7.5Y2/1	灰白色 黒褐色	Hue5Y7/1	9.2	○			外側に自然地	
	717	SZ38	-	-	一括	环	口縁部	外 回転ナデ 内 ナデ	Hue25Y6/1	灰褐色 灰褐色	Hue25Y6/1	30.4	○	○	○	白色絆物	
	718	SZ38	下	-	一括	腹屈	外 平打タケキ→回転カキモ→櫛目文 内 青海波当兵頭	Hue25Y4/1	灰褐色 灰褐色	Hue25Y4/2		○	○	○			
	719	SZ38	下	-	一括	更	腹屈	外 梯子目タケキ 内 平打タケキ	Hue5YR5/4	にへい・黒褐色 にへい・黒褐色	Hue5YR6/4		○	○	○	外側に釉薬	

第37表 古代の遺物観察表(15) 焼塗土器

掲団 番号	埋蔵 番号	出土 遺構	層	取上 番号	色調		法量(cm)			胎土		焼成	備考	
					外面	内面	口径	底径	器高	長石	カセ	他		
100	795	SZ38	上	-	橙色	橙色	Hue5YR6/6	Hue5YR6/6		○	○	○	良	口縁部内外面に布毛の状痕

第38表 古代の遺物観察表(16) 緑釉陶器

掲団 番号	埋蔵 番号	出土 遺構	層	取上 番号	種別	器種	部位	産地	法量(cm)			胎土色調		種類	色調	部位	備考	
									口径	底径	器高	長石	カセ	他				
97	665	SZ38	下	-	緑釉陶器	梅花瓶	口縁部	京都府				浅黄色	Hue5Y7/3		緑釉	オリーブ黄色	Hue7.5Y6/3	内外面に劃花文 鶴州窯系質器の標識品

第39表 古代の遺物観察表(17) 不明

掲団 番号	埋蔵 番号	出土 遺構	層	取上 番号	種別	分類	部位	産地	法量(cm)			胎土色調		種類	色調	部位	備考	
									口径	底径	器高	長石	カセ	他				
97	666	SZ38	下	-	不明品	-	腹屈	-				にへい・黒褐色	Hue10YR7/4		黒色	Hue10YR2/1	内面全面施釉? 詳細不明	

第 40 表 古代の遺物観察表 (18) 陶磁器

掲印番号	掲載番号	出土遺構	層	取上番号	種別	分類	法量(cm)			胎土色調	結果			備考
							口径	底径	高さ		種類	色調	部位	
100	701	SD38	上	一括	同窓窓系青磁・碗	統I				灰白色 Hue5Y7/1	青磁釉	灰白色 Hue5Y7/2	残存部全面施釉	外周面目文
	702	SD38	上	一括	同窓窓系青磁・碗	統I				灰白色 Hue5Y7/2	青磁釉	オリーブ色 Hue5Y5/3	残存部全面施釉	外周面目文
	703	SD38	中	一括	同窓窓系青磁・碗	統I		6.7		灰白色 Hue5Y6/1	青磁釉	オリーブ色 Hue5Y5/4	里付輪郭	見込みに目筋有り

第 41 表 古代の遺物観察表 (19) 陶磁器

掲印番号	掲載番号	出土遺構	層	取上番号	種別	分類	法量(cm)			胎土色調	結果			備考
							口径	底径	高さ		種類	色調	部位	
101	713	SD38	II	一括	同窓窓系青磁・碗	統I		16.8		灰白色 Hue5Y6/1	青磁釉	オリーブ色 Hue5Y6/2	残存部全面施釉	内面方取り
	714	SD38	II	一括	同窓窓系青磁・碗	統I				灰白色 Hue5Y6/1	青磁釉	オリーブ色 Hue5Y6/3	残存部全面施釉	内面方取り

第 42 表 古代の遺物観察表 (20) 滑石製品

掲印番号	掲載番号	出土遺構	層	取上番号	器種	部位	把手	石材	色調	結果			備考
										種類	色調	部位	
100	704	SD38	上	一括	石鏡	口縁部		滑石	灰白色 Hue5Y6/1			外側に傷付有	

第 43 表 古代の遺物観察表 (21) 金属製品

掲印番号	掲載番号	出土遺構	層	取上番号	器種	材質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	結果			備考
										外	内	他	
83	81	SK70	埋土2	2, 3, 4, 5	刃子	鉄	136.0	11.0	3.7				基部に木材が付着する
	456	SK72	埋土2	5	装飾品?	青銅	8.0	5.0	1.0	に沿がり着する 「△」の字型に曲がる			
	457	SK72	埋土2	7	装飾品?	青銅	8.0	5.0	2.0	に沿がり着する			
	458a	SK72	埋土2	6	装飾品?	青銅	2.3	5.0	2.0	に沿がり着する			
	458b	SK72	埋土2	6	装飾品?	青銅	1.2	5.0	2.5	に沿がり着する 「コ」の字型に曲がる			

第 44 表 古代の遺物観察表 (22) 土師器

掲印番号	掲載番号	出土地点	層	器種	分類	器面調整	色調			法量(cm)			胎土	焼成	備考
							外	内	他	口径	底径	高さ			
102	720	P - 28 区	I	直	-	外 ハラケズリ・ナデ	に沿い黄褐色	浅黃褐色	Hue10Y8Z/4	○	○	○	良		
	721	P - Q - 33 区	横風	环	-	外 槌ナデ・ハラケズリ→ナデ (底部) 内 槌ナデ・ナデ (底部)	浅黃褐色	浅黃褐色	Hue10Y8Z/3	12.0	6.0	4.0	○ ○ ○	黑色鉛物	良
	722	P - 33 区	I	直	5	外 槌ナデ	に沿い黄褐色	浅黃褐色	Hue10Y9G/3	5.6	○ ○ ○	○	良	底部外間にハラ記号	
	723	R - 31 区	I	环	6	外 槌ナデ・ハラケズリ→ナデ→ハラ記号 (底部) 内 ナデ・外輪に強いナデ (底部)	黄褐色	黄褐色	Hue7.5Y8Z/8	5.8	○ ○ ○	○ ○ ○	白色鉛物	良	底部外間にハラ記号
	724	L - 19 区	I	直	-	外 槌ナデ・ハラケズリ→ナデ (底部)	褐色	明褐色	Hue10Y7C/6	15.9	10.8	2.4	○ ○ ○	良	
	725	P - 28 区	I	直	-	外 回転ハラケズリ→ハラ・ウタガキ ハラ・ウタガキ (底部) 内 ハラ・ウタガキ	浅黃褐色	浅黃褐色	Hue10Y8B/4	13.8	7.0	2.5	○ ○ ○ ○	茶色鉛物	回転台時計回り
	726	O - 25 区	Ⅲ	直	1	外 槌ナデ・ハラケズリ→ナデ (底部) 内 槌ナデ・ナデ (底部)	浅黃褐色	浅黃褐色	Hue10Y8B/6	6.8	○ ○ ○	○ ○ ○	良		
	727	M - 24 区	Ⅲ	直	1	外 槌ナデ・ナデ (底部) 内 槌ナデ・ナデ (底部)	に沿い黄褐色	に沿い黄褐色	Hue10Y7C/3	10.4	6.5	○ ○ ○ ○	良		
	728	O - 27 区	Ⅲ	直	3	外 ハラケズリ→高台+ナデ (底部) 内 槌ナデ・ナデ (底部)	に沿い黄褐色	褐色	Hue7.5Y8C/6	6.7	1.0	○ ○ ○ ○	良		
	729	J - M - 17 - 20 区	I	直	-	内 ナデ (口縁部)、ケズリ (脚部)	褐色	褐色	Hue10Y9G/4	15.6	○ ○ ○	○ ○ ○	良		
	730	J - 20 区	I	直	-	内 ハラケズリ・ナデ 内 ハラケズリ・ナデ (口縁部)、ケズリ (脚部)	褐色	褐色	Hue7.5Y8B/6	16.4	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	白色鉛物	良	